岩手県産業教育振興会

令和元年度

事業活動報告書

－　事業活動報告書　目次　－

Ⅰ　岩手県産業教育振興会　会長挨拶　……　1

Ⅱ　感謝のメッセージ　……　2

Ⅲ　大会助成事業及びキャリアアップサポート事業

1　工業

（1）体験教室・出前授業

ア　盛岡工業高等学校（ものづくり体験教室）　……　5
イ　福岡工業高等学校（中学校への出前授業）　……　6
ウ　黒沢尻工業高等学校（学童保育所出前授業）　……　7

（2）ロボット競技

ア　一関工業高等学校（さんフェア新潟2019全国高等学校ロボット競技大会県予選大会運営）　9
イ　盛岡工業高等学校（さんフェア新潟2019全国高等学校ロボット競技大会参加）　……　10
ウ　水沢工業高等学校（さんフェア新潟2019全国高等学校ロボット競技大会参加）　……　11
エ　決勝トーナメント表　……　13

（3）実技講習会・講演会

ア　花北青雲高等学校（情報配線施工技能検定実技講習会）　……　14
イ　釜石商工高等学校（電気工事士技能講習会）　……　15
ウ　釜石商工高等学校（電子機器組立３級実技講習会）　……　17
エ　千厩高等学校（第一種電気工事士技能講習会）　……　19

（4）大会運営・大会参加

ア　花北青雲高等学校（マイコンラリー北東北地区大会大会運営）　……　20
イ　盛岡工業高等学校（ものづくりコンテスト東北大会化学分析部門大会運営）　……　22
ウ　福岡工業高等学校（ものづくりコンテスト東北大会電気工事部門参加）　……　24
エ　黒沢尻工業高等学校（ものづくりコンテスト東北大会旋盤作業部門参加）　……　25
オ　黒沢尻工業高等学校（ものづくりコンテスト全国大会旋盤作業部門参加）　……　26
カ　盛岡工業高等学校（2019ワールドエコノムーブ大会参加）　……　27
キ　盛岡工業高等学校（2019電気自動車エコラン競技大会参加）　……　28

2　農業

（1）フラワーアレンジメント

ア　盛岡農業高等学校（さんフェア新潟2019ﾌﾗﾜｰｱﾚﾝｼﾞﾒﾝﾄｺﾝﾃｽﾄ岩手予選大会運営）　……　29
イ　花巻農業高等学校（全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト参加）　……　30
ウ　花北青雲高等学校（全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト参加）　……　31

（2）日本学校農業クラブ

ア　遠野緑峰高等学校（東北連盟大会・クラブ活動紹介）　……　32
イ　遠野緑峰高等学校（東北連盟大会・プロジェクト発表会）　……　33
ウ　遠野緑峰高等学校（全国大会南東北大会・プロジェクト発表会）　……　34
エ　久慈東高等学校（全国大会南東北大会・農業鑑定競技参加）　……　36
オ　遠野緑峰高等学校（全国大会南東北大会・農業鑑定競技参加）　……　37

⑶ 出前授業
ア　岩谷堂高等学校（江刺第一中学校との交流活動）　…… 38

3　商業
（1）生徒研究発表大会
ア　水沢商業高等学校（全国生徒商業研究発表大会参加）　…… 39

（2）販売実習
ア　盛岡商業高等学校（ＩＢＣまつり参加）　…… 40
イ　宮古商業高等学校（ＩＢＣまつり参加）　…… 41
ウ　水沢商業高等学校（ＩＢＣまつり参加）　…… 42
エ　岩谷堂高等学校（ＩＢＣまつり参加）　…… 43
エ　水沢商業高等学校（デパートゆにっと参加）　…… 44

（3）実技講習会
ア　遠野緑峰高等学校（ＬＯＧＯロボットプログラミング実技講習会）　…… 45

（4）簿記コンクール
ア　水沢商業高等学校（全国高等学校簿記コンクール参加）　…… 47
イ　盛岡商業高等学校（全国高等学校簿記コンクール参加）　…… 48

（5）ワープロ競技大会
ア　水沢商業高等学校（全国高等学校ワープロ競技大会参加）　…… 49
イ　盛岡商業高等学校（全国高等学校ワープロ競技大会参加）　…… 50
ウ　花北青雲高等学校（全国高等学校ワープロ競技大会参加）　…… 51

（6）珠算・電卓競技大会
ア　盛岡商業高等学校（東北六県高等学校珠算・電卓競技大会運営）　…… 52
イ　水沢商業高等学校（全国高等学校珠算・電卓競技大会参加）　…… 53
ウ　盛岡商業高等学校（全国高等学校珠算・電卓競技大会参加）　…… 55

（7）情報処理競技大会
ア　盛岡商業高等学校（全国高等学校情報処理競技大会参加）　…… 56
イ　水沢商業高等学校（全国高等学校情報処理競技大会参加）　…… 57

4　水産
（1）生徒研究発表大会
ア　久慈東高等学校（全国水産･海洋高等学校生徒研究発表東北地区大会運営）　…… 58

5　家庭
（1）出前授業・体験教室
ア　平舘高等学校（平舘小学校への紫根染出前授業）　…… 60
イ　平舘高等学校（一般の方々への紫根染体験教室）　…… 61

（2）家庭クラブ研究発表大会
ア　平舘高等学校（全校高等学校家庭クラブ研究発表大会参加）　…… 62
イ　平舘高等学校（全国産業教育フェアさんフェア新潟2019意見体験発表部門参加）　…… 63

（3）実技講習会
ア　久慈東高等学校（西洋料理実技講習会）　…… 64
イ　北上翔南高等学校（フラワーアレンジメント講習会）　…… 66
ウ　平舘高等学校（そば打ち伝承学習）　…… 67

（4）職場見学会
ア　紫波総合高等学校（企業見学会）　…… 68
イ　平舘高等学校（職場見学実習）　…… 69

6　岩手県中学校教育研究会技術･家庭部会
○　岩手県中学校教育研究会技術･家庭部会（実践交流会2019）　…… 70

Ⅳ　全国産業教育フェア　さんフェア新潟２０１９
1　大会パンフレット　…… 71
2　大会の様子（写真）　…… 73

Ⅴ　研究文・作文コンクール
1　応募要領
（1）公益財団法人産業教育振興中央会・公益社団法人経済同友会募集要領　…… 76
（2）岩手県産業教育振興会募集要領　…… 78

2　研究文の部
（1）公益財団法人産業教育振興中央会・公益社団法人経済同友会
ア　優秀賞並びに経済同友会賞　大船渡東高等学校　農芸科学科　…… 79
ツバキでつなぐ気仙　～廃材を利用した加工品開発～
イ　佳作並びに経済同友会賞　遠野緑峰高等学校　生産技術科　…… 87
和牛×愛＝∞　～良質な牛肉生産で目指せ和牛甲子園！～

（2）岩手県産業教育振興会
ア　最優秀賞　盛岡農業高等学校　動物科学科　…… 94
宮古の漁師さんとつくるこんブ(昆布)タづくり
～三陸地域と絆をつないで　新たなエコフィードづくりへの挑戦～
イ　優秀賞　平舘高等学校　家政科学科　…… 99
「野菜好きの我が家の食卓」　～弟と私の食生活改善の取り組み～

3　作文の部
（1）公益財団法人産業教育振興中央会・公益社団法人経済同友会
ア　佳作　久慈東高等学校　総合学科(食物系列)３年　米 田 梨 乃 さん　…… 104
料理の力を信じて
（2）岩手県産業教育振興会
ア　最優秀賞　久慈東高等学校　総合学科(海洋科学系列)３年　澤 座 駿 人 さん　…… 106
将来を決めた航海
イ　優秀賞　盛岡農業高等学校　動物科学科３年　本 舘 由 唯 さん　…… 108
「牛が好き」

Ⅵ　御下賜金記念優良卒業生表彰
1　表彰規定
（1）公益財団法人産業教育振興中央会選奨規定　…… 110
（2）岩手県産業教育振興会選奨規定　…… 111

2　優良卒業生表彰数一覧　…… 112

Ⅶ　支援対象校一覧　…… 114

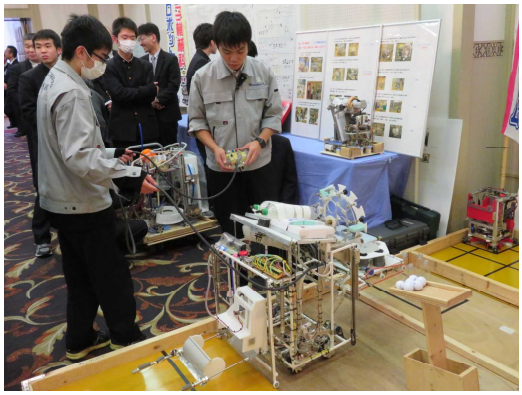
令和元年度
岩手県産業教育振興会
総　　会
（ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング）

講　演　会
JXTGホールディングス（株）
代表取締役 副社長執行役員 社長補佐
武　藤　　潤 様

産業教育フォーラム
サンセール盛岡

宮古水産高校発表

久慈東高校発表



ロボット実演

商品販売

岩手県産業教育振興会

会　長　　鎌　田　英　樹

（株式会社ＩＢＣ岩手放送　代表取締役社長）

ご　挨　拶

まずもって会員各位のご支援のもと、令和元年度における「岩手県産業教育振興会」の事業を、ほぼ終了することができたことに心より御礼を申し上げます。

令和元年度の事業活動は、会員校からの支援要請が増加する中、少しでも多くの学校や生徒に助成するため、助成の上限額を設定するなどして支援を行いました。今年度、会費を値上げいたしましたが、消費税増税に伴い、消耗品や各種手数料、郵送料等が値上げされ、厳しい予算運営が続いております。

このような中、本会からの支援を受け、東北大会や全国大会へ出場した会員校の活躍は素晴らしく、遠野緑峰高校生産技術科の生徒研究が「学校農業クラブ全国大会」２位相当の優秀賞を受賞しました。全国高等学校ロボット競技大会では水沢工業高校、盛岡工業高校が出場し両校とも決勝トーナメントに進出しました。さらに、水沢商業高校は「全国高等学校ワープロ競技大会」で上位入賞を果たしましたし、平舘高校家庭クラブの研究が「全国高等学校家庭クラブ研究発表大会」 に２年連続出場し、全国３位に相当する兵庫県教育委員会賞を受賞するなど大きな成果を挙げております。さらには、盛岡工業高校、福岡工業高校、平舘高校、岩谷堂高校などは小学生や中学生或いは地域の方々への出前授業や体験教室を開催しておりますし、専門知識を深めるため、専門の外部講師を招き、技術技能講習会なども多くの会員校で行われ、本県産業教育の発展のための取り組みが数多く行われました。

しかしながら、少子化の影響は大きく、高校へ進学する生徒が毎年減少し、先に発表された高校入学者選抜試験において、公立の学校会員 30 校中 12 校 14 学科で学科募集定員 40 名の半分にも満たない志願者数となっており、この中には盛岡や花巻・北上等の沿線地域の学校も含まれ、これが本会への支援要請増加の要因にもなっております。そのような中、生徒が少ない会員校が、指導する先生方や生徒の熱意と努力で、全国大会で上位の成績を挙げている事に、心より敬意を表したいと思います。

各会員校の様子は、この冊子に詳しく掲載しておりますので、是非、お読みいただき、岩手の産業教育の振興のため、引き続きご支援･ご協力賜りますようお願いを申し上げ、発刊のご挨拶と致します。

【支援内容】
第 67 回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会
姫路市文化センター（兵庫県）
【支援対象校】
平舘高等学校
【メッセージ】
家政科学科３年　神　田　　瞳

本校家庭クラブは、紫根染コサージュの贈呈や紫薫枕の製作を行う奉仕活動のほか、地域の方々との交流、研究活動などを行っています。

今年度は、紫薫枕を寝心地良く進化させ、さらに紫根染を取り入れて「紫根染の紫薫枕」を完成させ、その成果を第67回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会兵庫大会において発表しました。枕の試作を行い、本校家庭クラブ員や地域の行事に参加している方々にアンケート調査を行い、そして改善して再び試作を行うという作業を繰り返しました。そうすることにより、自分達でも納得のいく形に進化し、寝心地の良い枕を完成させることができました。活動を通して、家庭クラブ員が協力したときの大きな力や校訓である「開拓者精神」を持ち続けることの重要性について、身をもって感じました。

結果は、全国３位に相当する兵庫県教育委員会賞を受賞しました。前年度の文部科学大臣賞に引き続き、２年連続での入賞です。産業教育振興会様からご支援をいただき、校外に出て活動を行ったり、多くの材料を購入して実験を繰り返して、よりよい研究にまとめることができました。本当に感謝しています。ありがとうございました。

【支援内容】
第 19 回高校生ものづくりコンテスト全国大会
旋盤作業部門
ポリテクセンター関西（大阪府摂津市）
【支援対象校】
黒沢尻工業高等学校
【メッセージ】
機械科　３年　千　葉　愛　斗

私は、高校生ものづくりコンテスト東北大会旋盤作業部門において県勢１１年振りに優勝することができました。競技内容では、仕上げ面の向上が課題として残り、全国大会へ出場するまでに寸法精度は勿論のこと、仕上げの点も改善できるように日々練習を重ねてきました。

全国大会当日は、落ち着いて作業をすることができましたが、上位入賞することはできませんでした。出場した１０人中、半数以上が寸法ミスのないハイレベルな戦いで、仕上げ面での争いになりましたが、私はそこに入り込むことはできませんでした。入賞こそできませんでしたが、県大会からの努力が全国まで通じることができ、とても良い経験となりました。

全国大会出場にあたり、沢山の方々に御指導・御協力・応援して頂き、そのおかげでここまで来ることができました。また、岩手県産業教育振興会様からも多くの支援を頂くことができ感謝しています。これを機に今後のものづくり競技大会において、岩手県の工業高校が躍進することを期待し、報告と御礼とします。

【支援内容】
全国高等学校ワープロ競技大会
名古屋中小企業振興会館（愛知県）
【支援対象校】
水沢商業高等学校
【メッセージ】
商業科３年　小　澤　由　宇

全国高等学校ワープロ競技大会は、正確かつ迅速な入力技能を競い合う大会です。水沢商業高校ワープロ部の全国制覇への挑戦。その挑戦の歴史は古く、歴代の先輩方たちが一度も成し得ることのできなかった夢。県大会を優勝し、ようやく立つことができたスタートライン。

初めて選手として挑む全国大会は不安、重圧、決して万全な状態ではありませんでした。結果は団体１０位入賞、個人佳良賞。悔やまれる点もありますが、勝負の世界に「たられば」はありません。大事なことはその結果を悔いることではなく納得することだと思います。熾烈なレギュラー競争、厳しい練習、伝統校の看板を背負う重圧。その全てを乗り越え、ようやく挑戦することができた全国の舞台と結果。そして「３年間頑張ってきて良かった」という気持ちこそが最高の結果であると思いました。

私たちの挑戦に多大なるご支援をしてくださった県産業教育振興会様には大変感謝しております。本当にありがとうございました。

全国制覇の夢は後輩たちへ託します。

【支援内容】
技能検定「電子機器組立３級」技能講習会
釜石商工高等学校　電気電子科実習室
【支援対象校】
釜石商工高等学校
【メッセージ】
電気電子科２年　早　坂　涼　太

まず、「電子機器組み立て３級」を受検した生徒１０名の中から私が代表して御礼申し上げます。ご支援ありがとうございました。

私は手先がそれほど器用とは言えません。電子機器組み立ては技能試験がありましたので、受検をしようか迷いました。しかし私は、苦手な事ばかり避けるのは根本的な解決にはならないと思い、この資格に挑戦することにしました。

当初は思った通りの作業が出来ず苦労しました。なんとか組み立てることが出来ましたが、とても完成と言えるような状態ではありませんでした。資材のご支援や担当の先生、外部講師の方々からのご指導を受けて練習を繰り返した結果、技能を大幅に向上させることが出来ました。

私はまだ未熟な人間です。目には見えませんが常日頃から様々な人に支えられながら生活しています。今後も感謝の心を忘れずに第一希望の会社に就職するという目標を掲げ、日々挑戦し成長できるように頑張りたいと思います。

【支援内容】
フラワーアレンジメント講習会
北上翔南高等学校　保育技術室
【支援対象校】
北上翔南高等学校
【メッセージ】
総合学科(環境系列)３年　宮　川　侍　門

私は、フラワーアレンジメントやハーバリウムという言葉を、学校設定科目「生活教養」の授業を受けて初めて知りました。この度、岩手県産業教育振興会様から花器や花材等の費用のご支援を受けて、充実した講習を受けることができました。

授業や講習会でフラワーアレンジメントやハーバリウムに取り組んでみると、花材の選び方や真の花材を引き立たせる構成､作品全体のバランスなどを考える必要がありました。これらは、とても難しいことでもあり、楽しくもありました。家庭生活が豊かになり家族を喜ばせることもできました。

私は４月から地元の企業に就職し、新社会人となります。これからは、社会人として経済的自立を図るとともに、地域に役立ち、次世代を支援する人材となっていかなければなりません。私たちが貴会からご支援を受け高校生活が充実したように、機会があれば地域の子供たちの生活を支援したいです。

【支援内容】
奥州市立江刺第一中学校との交流活動
岩谷堂高等学校　学校実習田
【支援対象校】
岩谷堂高等学校
【メッセージ】
総合学科３年　安　倍　瑠　衣

今年度私達は、岩谷堂高校の実習田を活用し、奥州市立江刺第一中学校の３年生とイネの栽培を行いました。私達は苗の植え方について中学生に技術指導し、中学生には一人１メートルずつ苗を植え付ける体験をしてもらいました。自分が実践するのはそれほど難しくなくても、相手にわかりやすく、そして理解してもらえるように説明するのは難しいことだと改めて実感しました。しかし、このような機会があったからこそ、教えてもらうだけでなく、伝える技術についても考え実践する経験ができたものと思っています。

私は、高校卒業後は地元に就職することが決まっています。また、将来は家の農業を継ぎイネの栽培をするつもりなので、今回の活動、そして授業で得た知識・技術を活かせると考えています。今回このような機会を与えてくださったお陰で、地域の中学生と交流し、共に学び合うことができました。皆様の御支援に心から感謝しています。ありがとうございました。

工業：体験教室

岩手県立盛岡工業高等学校

【事 業 名】　２０１９ものづくり体験教室in盛工
【日　　時】　令和元年８月３日(土)　１０：００～１２：００
【場　　所】　岩手県立盛岡工業高等学校　電気科　電気計測実習室
【事業内容】　空中に浮くプラスチックパックの製作

（１）募集

近隣地区の小学校に開催案内のプリントを持参、さらにＨＰにも掲載し募集を行った。先着順で受け付けた結果、例年より多くの申し込みがあり、数件の方々に対してお断りをする事態になってしまった。最終的には当日の欠席もなく２１組の親子の参加となった。

（２）実施内容

事前に指導担当の３年生(１０名)に、会場準備、材料と工具の確認、指導のポイントをレクチャーした。最初にパックを空中に浮かせるための回転羽根を工作用紙で作り、モーターに取り付ける作業をした。次にそれをパックに納め電源となる電池ボックスを取り付けた。

電池ボックスを取り付ける接続部分には火傷に注意させながらはんだ付けを行った。思うようにいかない親子もいたが、３年生の優しくきめ細やかな補助により何とか順調に作業を進めることができた。その後、完成したものに思い思いの飾り付けを施して、世界にたった1つしかない空中に浮くプラスチックパックの出来上がりとなった。うまく浮上し、予測のできないコミカルな動きに親子で感嘆の声を上げていた。

【写真】

3年生が指導

集合記念写真

作業風景

【感想】

今年も多くの小学生の参加申し込みがあり、本当に良かったと思っています。小学校高学年とはいえ半田付けや配線という電気に関連した作業を取り入れて２時間ほどで課題を完成させるということは容易ではありません。しかし、指導を行った高校生にとっては「教わる」側から「教える」側になることによってコミュニケーションスキルを養う良い機会だと思っています。

工業：出前授業

岩手県立福岡工業高等学校

【事 業 名】　福工生による出前授業
【日　　時】　令和元年６月２１日（金）～７月９日（火）
【場　　所】　二戸市内の３中学校（浄法寺、金田一、福岡）
【事業概要】

キャリア教育の一環として、中高が連携し、高校生による出前授業によって、自ら知識理解を深め、表現力を高めるとともに、中学生が体験的活動を通じて工業の専門教科を学び、地元の工業高校に対して理解を深める。

中学生のクラスをテーブルごとに数班に分け､福工生が原理・作業手順等の説明を行い、中学生に作業させる。

（1）機械システム科生徒による文鎮の製作（２０分）

・真ちゅう材料の六角棒にタップによるねじ切りを施し、つまみ（市販のねじ）を組み立てる。

・棒の大きさは約φ１５×１００。下穴はあらかじめ加工しておく。

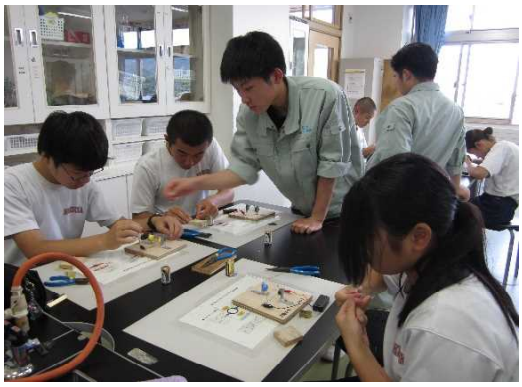
・ねじ切り加工の前後にピカールによる研磨を施す｡ものづくりの基本を学習する。

（２）電気情報システム科生徒による手作りモータの製作（２０分）

・電線を巻くことによってコイル（モータ）を製作し、電池を使ってコイル（モータ）を回転させる。モータの原理をわかりやすく学習する。

【写真】

【文鎮製作】



【モータ製作】

【引率者の感想等】

各学科とも２０分間と短時間の授業ではあったが、生徒達が様々な工夫を凝らしながら主体的に教える体験は、普段の授業ではできない取組であった。また、中学生も意欲的に取り組み、学科の特色を理解していただく良い機会となった。

工業：出前授業

岩手県立黒沢尻工業高等学校

【 大 会 名 】　黒工×地域プロジェクト（二子・飯豊）
【 日　　時 】　令和元年　１月２３日（木）２月６日（木）
【 場　　所 】　北上学童保育所たんぽぽクラブ（飯豊小学校）
【 事業概要 】
　３年生の課題研究の１テーマとして、二子地区・飯豊地区をフィールドに黒工生の技術を活かす活動に取り組み、「化学実験とものづくりを通して工業のおもしろさを伝える」をテーマに、今年度は北上学童保育所たんぽぽクラブにて活動を行った。
（１）１月２３日（木）１６：００～１７：００
　　参加者　黒工生材料技術科７名、学童クラブ小学生１００名
　　内　容　①液体窒素を使った各種実験②低融点合金を使った実験
（２）２月６日（木）１６：００～１７：００
　　参加者　黒工生材料技術科１０名、学童クラブ小学生１００名
　　内　容　①プラスチック板を使ったキーホルダー製作

【 写　　真 】

【生徒の感想】
・液体窒素を使った実験では、小学生達が興味を持って実験に参加してくれたので、説明する方も楽しく実演する事ができました。
・プラスチックキーホルダーの作成では、作成したプラスチック板を鞄に取り付けてくれたので良かった。小学生達が自分で作った作品を誇らしげに飾る姿を見て、設定したテーマで良かったと思いました。
・小学生達が液体窒素で固結したマシュマロを食べた時の驚きの表情が予想以上で驚きましたが、実験実演に流れをつくり、盛り上げることができて良かった。

【全体をとおして】
　学童クラブの規模が最大１４０名ということで不安を感じたが、実際の参加は１００名でした。　小学生の反応もよく、実験や製作も楽しんでやることができました。今後も内容を精選しなが　ら、続けていきたいと思います。

黒工×地域プロジェクト
（二子・飯豊編）
成果報告会

～高校生の技術と地域の未来をつなげる～

黒工×二子
電気科
電子科
電子機械科

黒工×飯豊
材料技術科
機械科
土木科

黒沢尻工業高等学校は、３年生の課題研究の１テーマとして、二子地区・飯豊地区をフィールドに黒工生の技術を地域に活かす活動に取り組みました。地域課題の発掘から、自分たちの技術を活かした課題解決方法検討・導入までのプロセスを通して、黒工生の更なる成長を期待すると共に、高校と地域コミュニティが連携して環境負荷の少ない持続可能な社会づくりに貢献することを目的としています。

このプロジェクトは、平成25年度からスタートし３年間を黒岩地区で、平成28年度から二子地区で取り組んでおり、本年からは二子地区・飯豊地区の２地区で取り組んでいます。

※昨年の取り組み例
- ■機械科　「灯油タンク油受けの雨よけ」製作
- ■電気科　「二子いものこ祭りを盛り上げる」
- ■電子科　「ＬＥＤライトを活用した電子表示板の製作」
- ■電子機械科「多機能ショーケース」
- ■土木科　「北上市二子地区の環境整備」～施設で利用できるベンチと整理棚の製作～」
- ■材料技術科「二子学童出前授業交流～科学実験とものづくり体験を通して～」

※昨年度は二子地区のみで実施　今年度は飯豊地区と二子地区がフィールドです。
※本年の内容は、当日発表いたします。

<プロジェクト事務局・発表会に関するお問い合わせ等>
特定非営利活動法人いわてNPO-NETサポート（北上市大通り１－３－１おでんせプラザぐろーぶ４階）
メールアドレス：　npo@npo2000.net

2020年２月５日（水）10:00～12:00（受付開始9:45）

会場：黒沢尻工業高校　視聴覚室

※参加申し込み不要・当日、高校までお越しください。

工業：全国ロボット競技大会

岩手県立一関工業高等学校

【大会名】　令和元年度全国高等学校ロボット競技大会岩手県選考会（大会運営）
【日　時】　令和元年９月21日（土）～22日（日）
【場　所】　野田村営体育館
【大会概要】

ロボット競技をとおして、仲間とともに「ものを作り、完成させる」喜びを体験する機会を与え、技術への関心と夢を育み、自発的な学習態度を育成する。また、この選考会において「第27回全国高等学校ロボット競技大会」岩手県代表を決定する。

1　競技内容

競技時間は３分間。リモコン型ロボットと自立型ロボットにより、４種類の得点対象物を指定されたエリアに搬送した後、新潟県の県鳥で特別天然記念物の「朱鷺」をモチーフにした自作得点対象物を射出して指定のポールに投げ入れ、得点対象物の状態に応じて得られる点数の合計を競う。リモコン型ロボットは、所定の場所に置かれている「海産物」「割薬」「芝星」を指定エリアへ搬送する。自立型ロボットは、所定の場所に置かれている「砂金」を取り込み指定置き場へ搬送する。指定場所に置かれた「砂金」をリモコン型ロボットが取り込み、指定エリアへ搬送する。リモコン型ロボットはアイテムを搬送後、「朱鷺」を射出し指定されたポールへ投げ入れる。

2　参加チーム

８校12チーム

3　全国大会出場チーム

第１位　水沢工業高等学校　機械工作部　白虎
第２位　水沢工業高等学校　機械工作部　朱雀
第３位　盛岡工業高等学校　電子機械科　盛工ME2019
第４位　盛岡工業高等学校　機　械　科　ＳＴＫ５

競技の様子①

競技の様子②

閉会式の様子

【大会の所感】

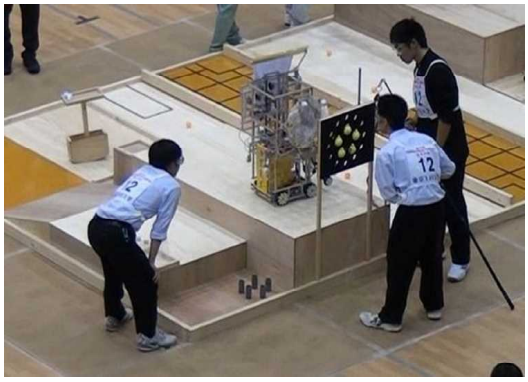
制限時間３分間の中で、ロボットを緻密に操作し、数種類のアイテムや「朱鷺」をモチーフにした自作得点対象物を正確に搬送・射出する「高度な技術力」。見ている人が驚くような独創的なアイデアなど､ロボット製作の繊細さと発想力の豊かさが見どころでした。上位４チームが10月に新潟県で開催される全国大会に出場します。岩手県産業教育振興会の多大なるご支援と、会場校である久慈工業高等学校・種市高等学校の教職員並びに生徒の皆さんに、この場を借りて感謝申し上げます。

工業：全国ロボット競技大会

岩手県立盛岡工業高等学校
機械科

【事 業 名】　第27回全国高等学校ロボット競技大会
【開催日時】　令和元年10月26日(土)から10月27日(日)
【開催場所】　アオーレ長岡　新潟県長岡市大手通1丁目4-10
【事業概要】　全国の専門高校等で学ぶ生徒が、自作ロボットを操縦制御し、課題をクリアする競技大会で、開催地新潟県にまつわる金銀山、大花火大会、新潟米に関連したアイテムや天然記念物の朱鷺をモチーフにした対象物を指定されたエリアに搬送・射出し、その完成度を得点化して争う全国大会である。この大会に参加することによって、実践的な学習を深めることを目的とする。
【写真】

会場入り口


競技

大会会場

【感想】
全国大会では、予選で６３位という結果でしたが、全力を出して戦うことができたとと思います。
他校とのレベルの違いを痛感した一方、戦術やロボットの機構など、学ぶことがとても多かったと思います。
素早い動きや朱鷺の命中率など、驚くことがとても多かったです。
私も物を作る上で、さまざまな工夫ができるようになりたいと思いました。

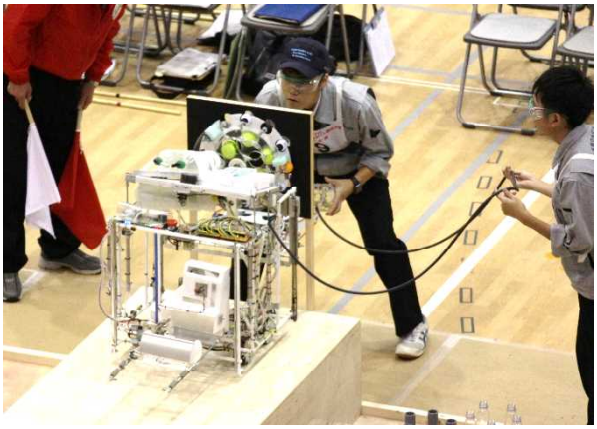
工業：全国ロボット競技大会

岩手県立水沢工業高等学校

【 事業名 】　第２７回全国高等学校ロボット競技大会新潟大会
【 日　時 】　令和元年１０月２６日(土)～１０月２７日(日)
【 場　所 】　シティホールプラザ　アオーレ長岡
【大会概要】
（１）競技部門及びその内容
　新潟県が全国に誇る、「金銀山」、「大花火大会」、「新潟米」に関連したアイテムや、新潟県の県鳥で特別天然記念物の「朱鷺」をモチーフにした自作得点対象物を、指定されたエリアに搬送・射出し、その完成度を得点で競うものである。

（２）参加者氏名
　機　　械　　科３年　菊池　一世
　電　　気　　科３年　上原　　晴・小野　奨太・髙橋　　誠
　設備システム科３年　菅野　翔太・佐藤　　暢
　インテリア科３年　佐藤　海翔
　機　　械　　科２年　及川　翔士・髙見　海斗
　設備システム科２年　高橋　優太

（３）大会結果
　・公式練習
　　朱　雀　２８５点
　　白　虎　１５０点
・予　選
　　朱　雀　１２５点　１２８チーム中８２位　予選敗退
　　白　虎　４３５点　１２８チーム中２０位　予選通過
・決勝トーナメント１回戦（沖縄県立美里工業高校　『美里工業機械科ブルー』）
　白虎　５５０点－３８０点で勝利、２回戦進出
・決勝トーナメント２回戦（福島県立清陵情報高校　『下克上』）
　白虎　３４５点－６００点で敗退



大会風景

【 大会に参加しての感想 】

○『朱雀』操縦者　佐藤　海翔

私たち機械工作部では、新潟県で行われた全国高等学校ロボット競技大会に出場しました。今年は機械工作部として初の２チームでの参加でした。

私は朱雀チームとして、機械工作部部長として参加しました。大会本番に練習通りに力を発揮することができずに予選敗退となりました。ロボット本来の力を出し切ることができなかったことは本当に悔しかったです。来年参加する後輩たちにはチーム機械工作部として協力し、１０年目の全国大会出場をしてもらいたいと思っています。

○『白虎』操縦者　佐藤　　暢

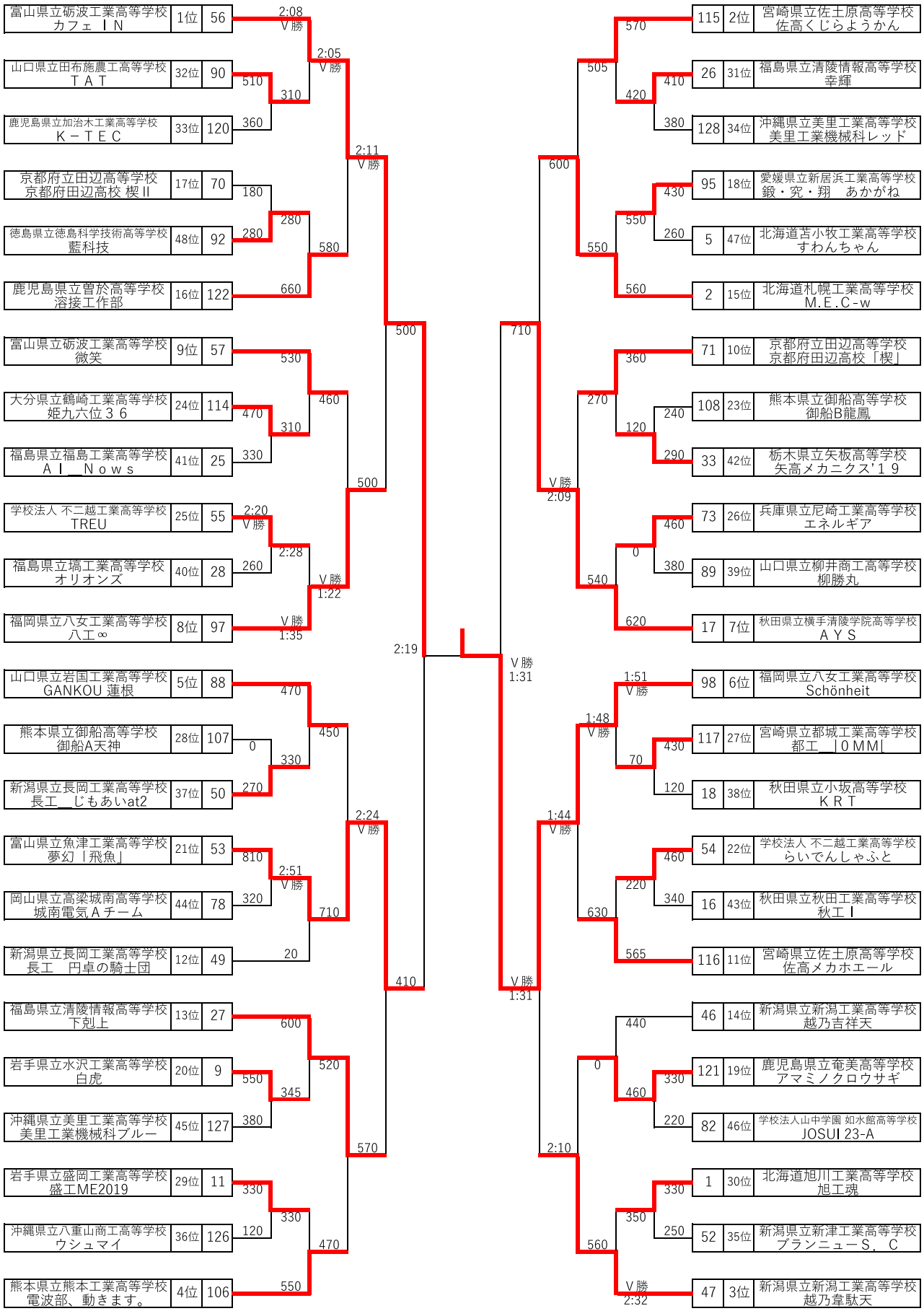
今年は昨年に引き続き、県大会２台で参加という形になりました。今年は、図面に起こして計画したことで、比較的早い段階で形にできたのが県大会での勝因の１つだと考えています。操縦者としては、今回の県大会と全国大会を考えると、反省点は多くあったと思います。しかし、毎日イメージトレーニングを重点に行った結果、最大限のパフォーマンスを発揮して、結果が出せたので良かったと考えています。応援ありがとうございました。

○指導者

大会に参加した各県の代表の生徒たちは、与えられた３分の時間内に高得点を狙うべく、ロボットの調整に力を注ぎ、操縦に集中し、会場内は緊張感が漂っていました。２台とも上位進出を目指していましたが、１台は予選敗退でした。生徒たちは自分の持てる技術を出し切ったと思います。

各県工業系高校生が集まり技術を高め合い、また友情の輪も広がり有意義な大会でした。終わりに、大会に参加するにあたり、岩手県産業教育振興会から、多大なるご協力をいただき、無事終了することができたことに感謝申し上げます。

決勝トーナメント表


富山県立砺波工業高等学校 カフェ Ｉ Ｎ 1位 56
山口県立田布施農工高等学校 ＴＡＴ 32位 90
鹿児島県立加治木工業高等学校 Ｋ－ＴＥＣ 33位 120
京都府立田辺高等学校 京都府田辺高校 楔Ⅱ 17位 70
徳島県立徳島科学技術高等学校 藍科技 48位 92
鹿児島県立曽於高等学校 溶接工作部 16位 122
富山県立砺波工業高等学校 微笑 9位 57
大分県立鶴崎工業高等学校 姫九六位３６ 24位 114
福島県立福島工業高等学校 ＡＩ＿Ｎｏｗｓ 41位 25
学校法人 不二越工業高等学校 TREU 25位 55
福島県立塙工業高等学校 オリオンズ 40位 28
福岡県立八女工業高等学校 八工∞ 8位 97
山口県立岩国工業高等学校 GANKOU 蓮根 5位 88
熊本県立御船高等学校 御船A天神 28位 107
新潟県立長岡工業高等学校 長工＿じもあいat2 37位 50
富山県立魚津工業高等学校 夢幻「飛魚」 21位 53
岡山県立高梁城南高等学校 城南電気Ａチーム 44位 78
新潟県立長岡工業高等学校 長工　円卓の騎士団 12位 49
福島県立清陵情報高等学校 下剋上 13位 27
岩手県立水沢工業高等学校 白虎 20位 9
沖縄県立美里工業高等学校 美里工業機械科ブルー 45位 127
岩手県立盛岡工業高等学校 盛工ME2019 29位 11
沖縄県立八重山商工高等学校 ウシュマイ 36位 126
熊本県立熊本工業高等学校 電波部、動きます。 4位 106
2:08 Ｖ勝
510
310
360
2:05 Ｖ勝
180
280
280
580
660
2:11 Ｖ勝
530
460
470
310
330
500
2:20 Ｖ勝
2:28
260
Ｖ勝 1:22
Ｖ勝 1:35
2:19
470
450
0
330
270
2:24 Ｖ勝
810
2:51 Ｖ勝
320
710
20
410
600
520
550
345
380
570
330
330
120
470
550
115 2位 宮崎県立佐土原高等学校 佐高くじらようかん
26 31位 福島県立清陵情報高等学校 幸輝
128 34位 沖縄県立美里工業高等学校 美里工業機械科レッド
95 18位 愛媛県立新居浜工業高等学校 鍛・究・翔　あかがね
5 47位 北海道苫小牧工業高等学校 すわんちゃん
2 15位 北海道札幌工業高等学校 M.E.C-w
71 10位 京都府立田辺高等学校 京都府田辺高校「楔」
108 23位 熊本県立御船高等学校 御船B龍鳳
33 42位 栃木県立矢板高等学校 矢高メカニクス'１９
73 26位 兵庫県立尼崎工業高等学校 エネルギア
89 39位 山口県立柳井商工高等学校 柳勝丸
17 7位 秋田県立横手清陵学院高等学校 ＡＹＳ
98 6位 福岡県立八女工業高等学校 Schönheit
117 27位 宮崎県立都城工業高等学校 都工＿｜０ＭＭ|
18 38位 秋田県立小坂高等学校 ＫＲＴ
54 22位 学校法人 不二越工業高等学校 らいでんしゃふと
16 43位 秋田県立秋田工業高等学校 秋工Ｉ
116 11位 宮崎県立佐土原高等学校 佐高メカホエール
46 14位 新潟県立新潟工業高等学校 越乃吉祥天
121 19位 鹿児島県立奄美高等学校 アマミノクロウサギ
82 46位 学校法人山中学園 如水館高等学校 JOSUI 23-A
1 30位 北海道旭川工業高等学校 旭工魂
52 35位 新潟県立新津工業高等学校 ブランニューＳ，Ｃ
47 3位 新潟県立新潟工業高等学校 越乃韋駄天
570
505
420
410
380
600
430
550
260
550
560
710
360
270
120
240
290
Ｖ勝 2:09
460
0
380
540
620
Ｖ勝 1:31
1:51 Ｖ勝
1:48 Ｖ勝
70
430
120
1:44 Ｖ勝
460
220
340
630
565
Ｖ勝 1:31
440
0
460
330
220
2:10
330
350
250
560
Ｖ勝 2:32

工業：実技講習会

岩手県立花北青雲高等学校

【事 業 名】　令和元年度情報配線施工技能検定実技講習会
【日　　時】　５月１１日（土）～５月１２日（日）　９：００～１６：００
【場　　所】　岩手県立花北青雲高等学校　工家棟２階　通信実習室
【事業概要】
　外部講師による出前授業を通して、情報配線施工検定3級に関する基礎的基本的な知識と技術を習得することにより、通信技術産業の意義や役割を理解し、職業観や勤労観を育てることを目的とします。

（1）講習内容
　　学科試験、実技ペーパー試験(光ファイバー)及び実技試験(メタルケーブル成端)について座学と実技を交え実践的に実施。

（2）参加者数
　　本校生徒３名、水沢工業生徒２名　　計５名

（3）参加者の様子・感想
　　実技では、講師実演の他ビデオを見ながらメタルケーブル成端方法について学習し、講習会終盤には全員時間内に課題を終えることができました

【写　　真】

【感 想 等】
　今年度から本校で情報配線施工技能検定を実施が決定し、実技講習会を開催することで、参考になる点が沢山ありました。また、講習会後に実施された検定試験では受験者５名のうち、２名合格３名の科目合格という結果でした。初めての取り組みと言うこともあり、思うように行かない部分もありましたが、実技講習会実施が結果に繋がったと強く感じます。

工業：実技講習会

岩手県立釜石商工高等学校

【事 業 名】　外部講師による生徒を対象とした「電気工事士技能講習会」
【日　　時】　令和元年１１月１９日（火）本校実習室
【対象生徒】　本校電気電子科１，２年生の受験者３名
【指導担当】　本校電気電子科　教諭　川端美智、実習教諭　菊池拓也
【講　　師】　地元の電気工事会社様より２名派遣
【講師派遣】　岩手県電気工事業工業組合 釜石支部様
【事業概要】

有資格者で経験豊富な外部講師から受験者へ直接指導・アドバイスを頂ける貴重な機会なので、技能のレベルアップを図り、合格率向上につなげる。

〇作業上の注意点

第二種電気工事士は標準時間４０分以内、第一種電気工事士は標準時間６０分以内に作業が終わるよう各作業工程の時間配分を気にかけて作業する。整理整頓しながら作業する。

【写　　真】

外部講師

第二種電気工事士受験者

第二電気工事士種受験者

第一種電気工事士受験者

【生徒または指導者の感想やアドバイス】

▼生徒の感想

・速く、正確に、綺麗に施工することを学びました。
・より線の圧着の仕方を教わり、しっかりとした圧着作業が出来るようになりました。
・作業しやすいようにモノを置くこと、机上の整理整頓が大切だと学びました。作業時間の短縮に繋がりました。

▼指導担当の感想

・外部講師の豊富な経験からの技能に関するアドバイスが参考になりました。
時間短縮になる作業については、特に第Ｉ種電気工事士の作業では時間ギリギリの完成になり、点検等の時間が少なく、見落としがあったりしたので、今後の指導に生かしていきたいと思います。
・作業場所の整理をしながらの作業は、特にも注意して指導していきます。

▼外部指導者の感想やアドバイス

・全体を通して意外と出来が良かったので少々驚いています。あとはミス無く確実に落ち着いて試験を受けて下さい。焦りは禁物です。
・時間内に多少余裕がありそうなので、見栄えを気にしてもう少し丁寧に仕上げた方が良いと思います。

工業：実技講習会

岩手県立釜石商工高等学校

【事 業 名】　外部講師による技能検定実技講習会（技能検定『電子機器組立て３級』）
【日　　時】　令和元年１２月２４日（火）本校実習室
【対象生徒】　本校電気電子科１，２年生の受検者１０名
【指導担当】　本校電気電子科　教諭　小野寺 一也
【講　　師】　株式会社ワイ・デー・ケー東北工場様より２名派遣
【講師派遣】　沿岸広域振興局　ものづくり人材育成コーディネータ　担当者
【事業概要】
有資格者の外部講師から受検者へ直接指導・アドバイスを頂ける貴重な機会で、技能のレベルアップを図り、検定の合格率向上につなげる。
〇作業上の注意点
検定標準時間９０分（延長３０分）以内に組立て終わるように各作業工程の時間配分を気にかけて作業する。机上の整理整頓に気を付けながら作業する。

【写　　真】

１年生受検者と外部講師

基板製作中(早い生徒)

基板製作中(綺麗な生徒)

２年生受検者と外部講師

【生徒または指導者の感想やアドバイス】
▼生徒の感想
・作業効率を改善する方法を学び、時間短縮に繋がりました。
・作業中に出る線クズや梱包材等のゴミ類を片付けるビニール袋を用意して、常に作業机の上を綺麗に使用するということを学び、作業効率が上がりました。
・５Ｓを意識すること、机上の整理整頓が作業効率の向上に繋がることを学びました。

▼指導担当の感想

・外部講師の豊富な経験からの技能や知識に関するアドバイスが参考になりました。応用可能なものはすぐに取り入れて、今後の指導に生かします。

・１人で１０人の生徒を指導し、全員を同じレベルに持って行くことは限られた時間では無理がありますが、この度外部講師の方々にご指導頂いたことにより、私が今まで指導してきたことがよりいっそう生徒に伝わって理解が深まり、レベルの底上げを図ることが出来ました。生徒側から見れば、新しい発見や気付きにより理解が深まったとも言えます。

▼外部指導者の感想やアドバイス

・多くの人が考えながら作業をしています。つまりまだ覚えていないということになります。これでは、作業時間が無駄になってしまいますので、作業手順や部品の配置などしっかり頭に入れてから作業しましょう。

・合格の条件として先ずは時間内に組み上げ、動作する事が第一条件ですので、残り時間を考えて作業する様にして下さい。時間が無ければ見栄えは気にせず完成まであきらめないで下さい。

工業：実技講習会

岩手県立千厩高等学校

【事 業 名】　第一種電気工事士技能講習
【日　　時】　11月18･27日、12月4日
【場　　所】　千厩高校産業技術科　計測実習室
【事業概要】

12月8日に行なわれる第一種電気工事士技能試験に向けて、実際に電気工事の仕事に従事している方を招き、作業の効率化や工具(特にナイフ)の適切な使用方法等を直接教わる事で、試験合格に繋げる。併せて第二種電気工事士の試験対策及び電気工事業への興味･関心を高める。

(1) 講習内容

公表問題について、講師の方が作成する場合の流れやポイント等を説明していただき、それを参考に実際に作成した。生徒は自分が作成する手順との違いや工具の使い方等を教わり、技能向上に繋げていた。

(2) 参加者数

産業技術科3年生　4名、2年生　5名
（第一種電気工事士講習　6名、第二種電気工事士講習　3名）

【写　　真】

事業実施風景１

事業実施風景２

【生徒感想】

・始めは電工ナイフを使った作業が怖くておどおどしながら作業を進めていたが、どのように使えばいいのか教わったので、ナイフの作業が怖くなくなりました。それに伴い、徐々に作業時間が短くなりました。この経験を技能試験に活かすようにしたいです。
・講師の方の雰囲気が穏やかで、4月から同じ会社の一員になるのが今から楽しみです。今年は残念な結果だったけれども、次年度こそは合格するように頑張りたいです。
・今までは低圧側から作業を進めていました。でも全体像をイメージしてから作業をする事の大切さを教わり、その通りに作業したところ、出来映えも好くなりました。またリングスリーブの圧着作業のポイントを教わり、実践したところ作業時間がかなり短縮できました。更に圧着前の点検で誤接続やマークミスもなくなりました。

工業：競技大会運営

岩手県立花北青雲高等学校

【事 業 名】　マイコンカーラリー北東北地区大会　兼
ジャパン・マイコンカーラリー２０２０全国大会予選（大会運営）

【日　　時】　１１月３日（日）
８：３０　　受付
０：３５　　開会式
１１：１０　　競技開始
１５：３０　　閉会式

【場　　所】　岩手県立花北青雲高等学校　第一体育館

【事業概要】

マイコンカー製作と競技を通じて、メカトロニクス技術の基礎・基本の習得、自発的・創造的学習態度の育成を図るとともに、ものづくりによる課題解決型教育を推進し、新技術への夢を育む。

１　競技部門及びその内容

（１）「ジャパン・マイコンカーラリー競技規則」、「同・大会運営規則」、「同・補則（以下、「全国ルール」)に従うことを基本とする。

（２）今大会では、「全国ルール」に基づいた北東北地区大会ルールで実施する。決勝トーナメントは行わない。

（３）競技は、Basic,Advanced(１回目）→Basic,Advanced（２回目)の順で実施し、タイムの良い方を記録とする。車検は１回目と２回目それぞれの出走直前に行う。

２　参加者数・氏名（東北・全国及び自校）

県名	学校名	Advanced	Basic	Camera
青森	青森県立青森工業高等学校		5	
	青森県立弘前工業高等学校	6	11	
	八戸工業大学第一高等学校		1	
秋田	秋田県立男鹿工業高等学校		4	
	秋田県立大曲工業高等学校		3	
岩手	岩手県立水沢工業高等学校	8	4	
	岩手県立花北青雲高等学校	7	5	
合　計		21	33	

３　入賞者・氏名（自校）

AdvancedClass（全国大会出場者）

優　勝　花北青雲高等学校 情報工学科３年　　大町　雅哉
準優勝　水沢工業高等学校 設備システム科３年　志村　琉斗
３　位　水沢工業高等学校 インテリア科３年　　佐々木　亮
７　位　弘前工業高等学校 機械科３年　　宇野　亘紀

BasicClass（全国大会出場者）

優　勝　大曲工業高等学校 機械科３年　　伊澤　隆斗
準優勝　男鹿工業高等学校 設備システム３年　　保坂　聖音

【写　　真】

開会式

車検

大会の様子１

大会の様子２

【感 想 等】

今年度岩手県が北東北の事務局の担当となり、岩手県では初となる大会となった。参加台数はAdvancedクラス２１台、Basicクラス３３台、計５４台の出場台数で競技された。特にBasicクラスでは、秋田県が全国上位クラスのタイムを続出し高レベルのレースが展開された。運営面で不安はあったが、参加校の協力のもと無事に大会を終えることができた。来年度も引き続き本校において実施されるので、今後岩手のレベルアップを図り全国大会に臨みたい。

工業：競技大会運営

岩手県立盛岡工業高等学校

【 大 会 名 】　高校生ものづくりコンテスト２０１９東北大会（岩手大会）兼
第１９回高校生ものづくりコンテスト全国大会予選「化学分析部門」
【　日　時　】　令和元年7月19日(金)・20日(土)
【　場　所　】　岩手県立盛岡工業高等学校・工業化学科実習棟
【 大会概要 】
全国大会の趣旨に則り、東北地区工業高校生の技術・技能の向上と、相互交流を図ることを目的の一つとしています。東北地区の工業高校で学ぶ生徒のものづくりに対する関心意欲を喚起させ，ものづくりを担う人材育成の強化を図ることを目的とし、「高校生ものづくりコンテスト２０１９東北大会（岩手大会)」を開催しました。また，本大会は高校生ものづくりコンテスト全国大会の選考を兼ねる大会でもあります。

（１）競技部門及びその内容
キレート滴定法により試料水中のCa及びMgの定量を行うことにより、試料水の各硬度を求め、測定結果報告書を提出するところまでが競技です。審査は、測定結果の精度と競技中の操作や作業態度・技術度・完成度・報告書の計算内容・提出までの経過時間等の総合的判断で順位を決定しています。

（２）参加者数・氏名　参加者数６名　(東北各県5名(青森県除く)＋開催県枠)

菅野　乃愛	福島県立福島工業高等学校	環境化学科３年
志田　美紀	山形県立山形工業高等学校	土木･化学科３年
上野　真衣	岩手県立黒沢尻工業高等学校	材料技術科３年
田口　空八	秋田県立由利工業高等学校	環境ｼｽﾃﾑ科２年
田屋舘　純	岩手県立盛岡工業高等学校	工業化学科３年
菅原　理乃	宮城県工業高等学校	化学工業科３年

（３）入賞者数・氏名

第一位	志田 美紀	山形県立山形工業高等学校	土木･化学科３年
第二位	菅原 理乃	宮城県工業高等学校	化学工業科３年
第三位	菅野 乃愛	福島県立福島工業高等学校	環境化学科３年
	田屋舘 純	岩手県立盛岡工業高等学校	工業化学科３年

【　写　真　】

競技中の様子

上位入賞者

開会式選手宣誓

【生徒または引率者、大会運営主務者の感想等】
◎第一位　山形県立山形工業高校　　土木・化学科３年　志田美紀
いつもとは違う場所で、違う器具で緊張もありましたが、学校で練習したことを冷静にそのまま行えたために、良い結果が得られたと思います。全国大会は今までより難しい内容になり、更にレベルの高い大会になると思いますが、毎日の練習を欠かさずに、本番は自分の実力を十分に発揮出来るように頑張りたいと思います。
〇引率者
普段の練習通りに冷静に競技に臨むことが出来たのは努力の成果です。全国大会では、東北代表として、平常心で頑張ってもらいたいと思います。
◎第二位　宮城県工業高等学校　化学工業科３年　菅原理乃
去年の8月から練習を重ね、キレート滴定について深く学び、どうすれば正しい値が出るのか、どうすればもっと手際よく素早く操作が行えるのかを考え、練習に臨みました。思い通りに練習ができず悩んだこともありましたが、仲間や先生と思い通りの結果が出るように話し合い、本番で良い結果が出るように頑張っ

てきました。本番ではいつも通り自分を信じて落ち着いて挑みました。
　ものづくりコンテストを通して学んだ事は、なにかの手助けになるのではないかと思い私は分析の仕事をしようと考えています。分析によって人々の環境を守れるのは素晴らしい事であり、私もそれに貢献できるような人間になりたいです。ものづくりコンテストに出場し、様々な経験ができて良かったと思います。これからも分析に携わりより深く分析の知識を深めていきたいです。
〇引率者
　今回２位をいただき、生徒も納得し満足しておりました。運営に関わった皆様ありがとうございました。私が引率した生徒が、県外で入賞したのは初めてではないかと思います。今までは宮城県の流儀のまま東北大会に臨んで、その流儀を否定される形で敗れていたと感じておりました。今回は岩手県の流儀を学んで岩手流で臨みたいと思い、沢山質問をして事務局の先生にはお手数をおかけいたしました。今後とも事前の十分な情報公開をお願いいたします。
◎第三位　福島県立福島工業高校　環境化学科3年　菅野乃愛
　前日の打ち合わせで、県大会までの操作では行えない部分があることが分かり、練習で身につけたものとは少し違う操作でやることになりました。大会当日は、操作を間違えないか不安になり少し緊張しました。いつもの練習ではできていた操作もあまり上手くいかないまま競技が終わりました。結果は３位になりました。優勝という目標は達成することができませんでしたが、東北大会で入賞できたことと、学校や県の代表として大会に参加できたことは良い経験になりました。
〇引率者
　1年生の県大会から「ものづくりコンテスト」に出場し、今回の東北大会が３度目の競技会でした。県大会とは違う緊張感があったと思いますが、普段と変わりなく作業を行う様子に、生徒の成長を感じることができた大会でした。大会運営等大変お世話になりました。
◎第三位　岩手県立盛岡工業高等学校　工業化学科3年　田屋舘　純
　県外の高校生と直に触れ合えて良い刺激になりました。自分より桁違いに上手い人の操作が見られて面白かったし、勉強になりました。
〇引率者
　今年度、初めて工業化学科に赴任したばかりの私にとって、ものづくりコンテスト化学分析部門へ参加する生徒の指導を担当することは、不安の連続でもありました。大会自体が未知であること、着任間もない状況での生徒とのかかわり、これまで指導されてきた諸先輩方の手法はいったいどうなっているのか。さらには、私自身が実際に高等学校理科の授業程度の滴定知識は持っていても、化学分析といえるほどのスキルは持ち合わせておらず、生徒の方が知識も経験もスキルも私の上を行く状況の中、果たして本当に指導は上手くいくのかという不安を感じながらのスタートでした。
　まずは、先輩の先生方に私自身が化学分析の手法を指導いただき、そこからの指導開始となりました。生徒は昨年度、岩手県大会へ出場していることもあり、ほとんどの操作においてほぼ完璧に分析操作をこなしており、これまでの実習の指導や、ものづくりコンテストへ向けての指導が、いかに素晴らしいものであったかを伺い知ることができました。
　あとは滴定の精度を上げることが私の課題だと感じ、滴定値のバラつきを抑えることに重点を置き、指導を行いました。
　大会当日は大変慎重な滴定操作で、無事に時間内に終えることができるのだろうかと心配になりましたが、一番最後になっても、落ち着いて、諦めることなく制限時間内ギリギリまで集中力を切らすことなく頑張ってくれた生徒には感謝の気持ちでいっぱいです。
　あれだけの時間を費やしてしまったので入賞はないのだろうと思っておりましたが、３位に入賞でき、全国大会への出場こそは果たせませんでしたが、生徒のこれまでの努力に拍手を送りたいと思います。また、指導にあたってたくさんの助言をいただきました諸先輩方、大会運営を支えてださった多くの関係者の皆様に感謝申し上げます。
◎【大会運営主務者】
　本大会は、毎年各県持ち回りで開催している大会ですが、昨年度までの課題内容に選手の創意工夫が見られるように課題を追加して実施しました。大会要項を公表したときから大会に関する詳細な質問がありましたが、その回答も各県出場者がわかるように回答し、大会運営も滞りなく実施できました。本大会開催に当たり大会助成を頂きました岩手県産業教育振興会の皆様に感謝申し上げます。

工業：競技大会参加

岩手県立福岡工業高等学校

【大 会 名】　高校生ものづくりコンテス２０１９東北大会（秋田大会）電気工事部門
【日　　時】　７月２７日（土）～７月２８日（日）
【会　　場】　秋田県立秋田工業高等学校
【出場生徒】　電気情報システム科2年　藤　原　幸　成
【成　　績】　第３位
【大会概要】　工業高校が取り組んでいる、ものづくりの学習効果の発表の場として、東北各県の高校生が一同に会して、技術・技能を競う大会です。

【競技内容】

①作業板は、概ね縦1,820mm×横1,720mmの垂直パネルに競技規則に従い、施工図および施工条件に示す
配線工事を行う。

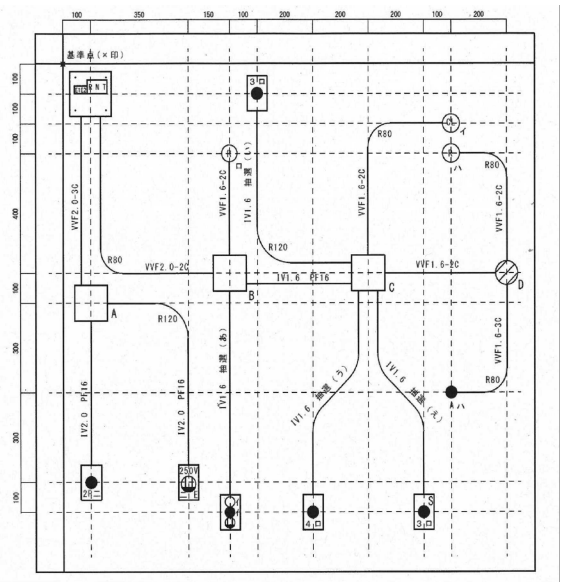
②ボックス内の結線方法と配管場所は競技当日に抽選で決定し、それ以外についても３箇所課題変更する。

③電灯・パイロットの点灯方式

・ｽｲｯﾁ(ｲ)で照明器具(ｲ)が点滅、ｽｲｯﾁ(ﾛ)で照明器具(ﾛ)が点滅、自動点滅器(ﾊ)で照明器具(ﾊ)が点滅。電磁調理器具用ｺﾝｾﾝﾄは両切ｽｲｯﾁ(ﾆ)で使用可能とする。

・ﾊﾟｲﾛｯﾄﾗﾝﾌﾟはｽｲｯﾁ(ｲ)及び照明器具(ｲ)の同時点滅(動作確認表示灯)とする。

・ｽｲｯﾁの位置や配管方法については抽選で決定する。



施工図

【写　　真】

通線作業

記念撮影

【おわりに】

４月から東北大会入賞を目指し課題に取り組み、大会では練習通りの力を発揮することができ、２年振りに入賞を果たすことができました。１位から３位までは僅差で順位が決定しましたが、この僅かな差が大きいと思われます。来年も東北大会に出場できる機会がありますので、全国大会出場を目指し鍛錬すると共に全国レベルの技術者を育成したいと思います。

工業：競技大会参加

岩手県立黒沢尻工業高等学校

【 大 会 名 】　高校生ものづくりコンテスト２０１９東北大会（旋盤作業部門）
【 日　　時 】　令和元年　８月　９日（金）
【 場　　所 】　宮城県立仙台高等技術専門校
【 大会概要 】　東北地区工業高校生の技術・技能の向上と相互理解を図る。
高校生ものづくりコンテスト２０１９全国大会の選手選考を兼ねる。

（１）旋盤作業部門：旋盤を使用して、部品３個を２時間３０分以内に加工する。

（２）参加者数７名

青森県立八戸工業高等学校	中田	優
岩手県立黒沢尻工業高等学校	千葉	愛斗
宮城県工業高等学校	磯部	翼
宮城県古川工業高等学校	寺田	知央
秋田県立秋田工業高等学校	石川	慧
山形県立長井工業高等学校	青木	龍耶
福島県立福島工業高等学校	宍戸	零

（３）大会結果

第１位	岩手県立黒沢尻工業高等学校	千葉	愛斗
第２位	福島県立福島工業高等学校	宍戸	零
第３位	宮城県古川工業高等学校	寺田	知央

【 写　　真 】

【 感　　想 】

今年度の課題が３月に公表され、加工工程等を考え練習を重ねてきました。今回は一箇所のみ寸法を当日に発表して、テーパ角度を計算して正確に角度を出して加工するという、選手自身に考えさせるという部分が要素に加わりました。

競技結果は第１位ということで、岩手県としては１１年ぶりに全国大会に出場することになりました。採点を見ると寸法による減点はほとんどなかったのですが、できばえ・みばえ等で大きく減点されていました。

今後は寸法だけではなく、できばえ・みばえを意識して全国大会で良い結果を出せるように精進していきたいと思います。

工業：競技大会参加

岩手県立黒沢尻工業高等学校

【 大 会 名 】　高校生ものづくりコンテスト２０１９全国大会（旋盤作業部門）
【 日　　時 】　令和元年１１月１６日（土）～１７日（日）
【 場　　所 】　ポリテクセンター関西（大阪府摂津市三島１－２－１）
【 大会概要 】　若手技術・技能労働者を確保して育成するとともに、ものづくりへの関心を高め、技術・技能尊重の社会的機運の醸成を図る。

（１） 旋盤作業部門：各ブロック代表と開催地枠の１０名の選手が、旋盤を使用して、部品３個を２時間３０分以内に加工し、加工精度や見栄え等を競い合う。

（２）大会結果　第１位　愛媛県立東予高等学校　丹下　快晴
第２位　山口県立南陽工業高等学校　近間　岳人
第３位　新潟県立新潟工業高等学校　小林　千真

【 写　　真 】

【 感　　想 】

本校機械科千葉愛斗が東北大会に優勝して岩手県からは11年ぶりの出場となりました。東北大会では製品仕上げ面の出来栄え・見栄えの部分で大きく減点されたので、仕上げ面を意識して練習を重ねてきました。

大会当日、競技開始前に寸法αが公表されましたが、大会前に想定して練習を重ねてきたこともあり、問題なく競技に臨むことができました。作業自体も順調に落ち着いて作業し、時間にも余裕を持つことができましたが、入賞することはできませんでした。審査委員長の講評では、半数以上が寸法ミスがない仕上がりで、出来栄え・見栄えでの争いになったという話しでした。審査結果については公表されないことになっているので、後日測定したところ、寸法についてはミスした箇所はありませんでしたが、キズやびびりが３カ所ほどありました。仕上げ面を中心に練習を行ってきたこともあり、少し悔やまれる結果となってしまった。

今回の全国大会では、他県の選手や指導者と交流することができ、とても貴重な体験をすることができました。今後も全国大会出場を目指し、そして、全国大会で入賞することができるように精進していきたいと思います。

工業：競技大会参加

岩手県立盛岡工業高等学校

【大 会 名】　２０１９ ワールド・エコノ・ムーブ
【日　　時】　令和元年５月４日（土）～５月５日（日）
【場　　所】　秋田県大潟村ソーラースポーツライン
【大会概要】
（１）手作りの車輌で決められたバッテリーを使い、２時間でどれくらいの距離を走れるかを競う電気自動車エコランレースです。
（２）全国より一般、高校併せて３０台が参加。
本校は自動車部生徒８名、車輌２台で参加しました。
（３）ベルーガ　１号　ジュニアクラス（高校クラス）７位
ベルーガ　２号　ジュニアクラス（高校クラス）４位
【写　　真】

ピット作業風景です

発車前の調整です←

スタートです

スタート数分前です

【感　　想】
昨年一昨年と、ＷＥＭＧＰ（シリーズ戦）において２年連続ジュニアクラス日本一となり、今年は３連覇を目指しての本大会参加でした。２連覇したドライバーが卒業し、新ドライバーの体格に合わせるため車体を大改造しての参加でした。
車体の改造そのものはうまくいったのですが、ドライバーが車両に慣れることができず車両本来の性能を発揮できないまま大会を終えてしまい、満足のいく結果を残せませんでした。
まだこれから大会はあるので、あきらめず３連覇を目指し頑張っていきたいです。

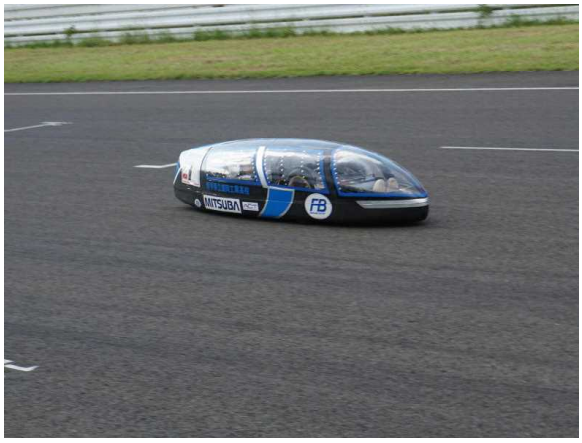
工業：競技大会参加

岩手県立盛岡工業高等学校

【大 会 名】　２０１９　電気自動車エコラン競技大会 in SUGO
【日　　時】　令和元年年８月３１日（土）～９月１日（日）
【場　　所】　宮城県村田町スポーツランドＳＵＧＯ
【大会概要】
（１）手作りの車輌で決められたバッテリーを使い２時間でどれくらいの距離を走れるかを競う電気自動車エコランレースです。アップダウンが激しいコースでエコランレースではもっとも過酷と言われてます。
（２）全国より一般、高校併せて２８台が参加。
本校は自動車部生徒８名、車輌２台で参加しました。
（３）ベルーガ　１号　ジュニアクラス（高校クラス）５位
ベルーガ　２号　ジュニアクラス（高校クラス）３位
【写　　真】

予選スタート前です

決勝スタート５分前です



ベルーガ１号の走行の様子です

表彰式です

【感　　想】
今年度は部員が大幅に入れ替わったため、ドライバーに１年生を起用し、またベルーガ１号は新たにカウルを作り直すなど心機一転して臨んだ大会でした。
しかし１号は開始早々不運にもパンクしてしまい、競技時間の半分ほどしか走行できず５位に終わりました。またベルーガ２号はドライバーの経験不足から走行不能に陥り、これも大幅に時間を残しながら競技を終えてしまい、３位に終わりました。
ドライバーの育成が今後の課題となった大会でした。

農業：フラワーアレンジメントコンテスト大会運営

岩手県立盛岡農業高等学校

【大 会 名】　第18回岩手県フラワーアレンジメントコンテスト兼
第29回全国産業教育フェア新潟大会さんフェア新潟2019岩手県予選
【日　　時】　令和元年７月２６日（金）
【場　　所】　岩手県立盛岡農業高等学校　農場管理棟および作物実習棟
【大会概要】
第１８回岩手県フラワーアレンジメントコンテストを実施し、「第２９回全国産業教育フェア新潟大会さんフェア新潟２０１９」に出場する岩手県代表を２名選出します。

（１）大会出場選手一覧

番号	氏名	学校名	学科	学年
1	伊藤 かがり	花北青雲高校	総合生活科	2
2	瀬川 優蘭	遠野緑峰高校	生産技術科	2
3	萩野 白蘭	遠野緑峰高校	生産技術科	2
4	村上 莉歩	大船渡東高校	農芸科学科	3
5	川内 梨渚	大船渡東高校	農芸科学科	2
6	吉田 詩音	水沢農業高校	農業科学科	2
7	髙橋 菜月	水沢農業高校	農業科学科	1
8	小原 春海	花巻農業高校	生物科学科	3
9	林　沙紀	盛岡農業高校	植物科学科	3

（２）審査員　①審査長　目時 泰子（盛岡市）フラワー装飾１級技能士
②審査員　煙山　誠（雫石町）フラワー装飾１級技能士
（３）結果　金賞　花巻農業高等学校　小原　春海
銀賞　花北青雲高等学校　伊藤かがり
銅賞　遠野緑峰高等学校　瀬川　優蘭
※金賞・銀賞受賞者が全国大会へ出場します。

【写　真】

〈競技風景〉

〈閉会行事〉

【感　想】
今年度は７月下旬に本予選会を実施しました。出場選手は真剣に競技を行ない、どれも美しい作品ができあがりました。甲乙つけるのが難しいと、審査には例年より時間がかかりました。その結果、上記の生徒が選ばれました。代表生徒の全国大会での活躍をご祈念いたします。

農業：全国フラワーアレンジメントコンテスト

岩手県立花巻農業高等学校

【大 会 名】　第29回全国産業教育ﾌｪｱ新潟大会さんﾌｪｱ新潟2019
第18回全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト
【日　　時】　令和元年10月26日（土）～27日（日）
【場　　所】　朱鷺メッセ
【事業概要】
専門高校等で学ぶ全国の高校生が、フラワーデザインに関する知識と技能を活用しフラワーアレンジメントの技術を競う。
（１）内容
与えられた課題をもとに、大会事務局が用意した花材を用いて、フラワーアレンジ作品として表現する。
（２）参加者数６５名
（３）参加者の様子・感想等
・事前に花材等の材料が公開されていたので、デザインを予め決めて大会に臨んだ。
・それまで培った技術をフルに活用し、準備していたデザインを完成することができた。多くの選手が制限時間ギリギリまでかかっていたのに対し、本校の選手は制限時間の数分前には完成させ、手直しまですることができた。
・大会側が用意した百合の花が思ったより大きかったことから、その扱いに戸惑った様子であったが、見事にバランスをとって完成させた。
・選手本人としても、身に付けた技術をフルに作品に表現できたことに満足感でいっぱいの様子だった。

【写　　真】

【生徒または引率者の感想等】
入賞者の作品はいずれも、幅、高さがあるダイナミックなデザインである一方、細かい部分も丁寧に仕上げているといった特徴があると感じた。目線の高さで楽しめることはもちろん、高さのある部分にもデザインが施されていて、圧巻の作品であった。
本校選手は、入賞はできなかったものの、そういった高いレベルの競技者の中でも引けをとらないものであったと感じている。また、フラワーアレンジメントで身に付けた技術を、今後の社会生活の中で豊かな生活環境を作り出すことに応用していくことを期待している。

農業：全国フラワーアレンジメントコンテスト

岩手県立花北青雲高等学校

【大 会 名】　第２９回全国産業教育フェア新潟大会　さんフェア新潟２０１９
　　第１８回全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト
【日　　時】　１０月２６日(土)～１０月２７日(日)
【場　　所】　新潟市　朱鷺メッセ
【大会概要】
　フラワーデザインに関する知識と技能を活用し、表現力や創造性・芸術性を互いに高め合うものです。
　指定された花材(１２種類)、資材(杉の木片・紙風船・紐)、花器を使用して、テーマに基づいて作品を製作します。今年のテーマは「忘れたくない想いをつむぐ」でした。
　競技時間は６０分間で、作品についての説明文の記入や、後片付けまで全て終わらせて競技終了となります。
（１）参加者数　全国６５名
　　総合生活科２年　伊藤　かがり
（２）入賞者数　金賞１名　銀賞２名　銅賞２名　奨励賞５名
　　本校生徒は入賞しませんでした。

【写　　真】

大会風景

生徒作品

【出場生徒の感想】
　県大会の練習から講師の先生のもとへ何度も講習を受けに行き、花に応じた扱い方やオアシスへの挿し方などを学びました。花材の特性によって全く違うので、覚える事が多く大変でしたが、県大会では銀賞を頂き、全国大会に出場することができました。
　全国大会では一か月前に花材が発表されます。私は、発表された花材よりも、資材である木材や紙風船・紐を見た時にとても驚きました。過去の全国大会ではなかった資材であり、どのように使用して作品を作ればいいのか戸惑いました。全国大会の前は毎週練習を行い、全国大会にむけたデザインを考えました。頭の中では分かっていても、実際に花を挿すと難しく、簡単なことではないと実感しました。それでも練習を重ねるたびに成長を感じることができました。
　全国大会では練習してきた力を十分に発揮することができました。結果は、賞に入ることはできませんでしたが、楽しんでできたのでよい経験になりました。金賞や銀賞の選手だけでなく他県の選手の作品を見て、改めてレベルの高い大会だと思いました。私にとってはとても勉強になった大会でした。

農業：農業クラブ東北連盟大会

岩手県立遠野緑峰高等学校

【 大 会 名 】　第７０回日本学校農業クラブ東北連盟大会　クラブ活動紹介
【 日　　時 】　令和元年８月２２日（木）～８月２３日（金）
【 場　　所 】　秋田市文化会館・交流センター
【 大会概要 】
（１）競技部門　クラブ活動紹介
（２）参加者数　生産技術科２年　５名
（３）入　　賞　優秀賞

【 写　　真 】

発表メンバー

発表の様子

【 感　　想 】

発表メンバーが全員２年生ということもあり、これまでの大会とは違う雰囲気の中、生徒達はかなり緊張していた様子でした。多少言葉に詰まる部分はありましたが、これまでの練習成果を発揮することができたと思います。発表を終えた後の彼らのホッとした顔が印象的でした。本校の現在の取り組みを他県の皆さんに知ってもらう良い機会となりました。

結果発表の際には悔しそうな表情を見せていましたが、この悔しさをバネに今後の研究活動に励むことが出来るメンバーだと確信できました。

他校の発表もどれも大変素晴らしかったです。クラブ活動紹介は同じテーマについて各校が発表する競技ですが、同じものはひとつもなく、様々な角度から解釈・調査・考察している点が大変勉強になりました。生徒も同様の感想を述べていました。

この大会に参加できたことに加え、プロジェクト発表会で先輩方が活躍する様子を直に見ることができ、次年度につながる大変良い経験となりました。

最後に、今大会への参加にあたり、岩手県産業教育振興会様をはじめ、地域の皆様や多くの方々から御支援をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

農業：農業クラブ東北連盟大会

岩手県立遠野緑峰高等学校

【 大 会 名 】　第７０回日本学校農業クラブ東北連盟大会　プロジェクト発表会
【 日　　時 】　令和元年８月２２日（木）～８月２３日（金）
【 場　　所 】　秋田市文化会館・交流センター
【 大会概要 】
（１）プロジェクト発表会　分野　Ⅱ類　開発・保全・創造
　　Ⅲ類　ヒューマンサービス
（２）参加者数　生産技術科３年 草 花 研 究 班７名（分野Ⅱ類）
　　生産技術科３年 野菜果樹研究班６名（分野Ⅲ類）
（３）入　　賞　最優秀賞　草　花　研究班　※全国大会出場
　　最優秀賞　野菜果樹研究班　※全国大会出場

【 写　　真 】

本番質疑応答の様子

大会参加者と指導者

【 感　　想 】

分野Ⅲ類では、遠野伝統野菜「琴畑かぶ」の普及拡大に向けた研究と付加価値製品の取り組みについて発表してきました。漬物グランプリ2019で日本一となった「琴畑かぶの山ブドウ漬け」を夏休み返上で、農家と連携し、販売会やイベントに参加することで、琴畑かぶの認知度を高めることができました。発表、質疑応答、記録簿等生徒は満足すると共に新たな志の高さを持つことができたと思われます。この大会をとおして、生徒の自信と漬物作りの楽しさを実感することができたいへん意義のある大会でありました。

分野Ⅱ類では、「ホップ和紙」に関する研究を発表してきました。ホップ和紙は、ビールの原料として用いられる毬花を収穫した後、廃棄処分されるだけのホップの蔓を有効活用して作られますが、今年度の研究では、産業廃材として捨てられるだけの花の花弁や葉を利用してホップ和紙に染色を施すことで「環境にやさしいホップ和紙」を作成しました。

生徒は、発表前日の夜まで何度も何度も発表練習を重ね、本番では自分たちが望む発表をすることができたようで、大変満足した顔をしていました。さらに、最優秀賞をいただき全国大会に進むができ、「努力は裏切らない」ことを身を持って体験することができました。

農業：農業クラブ全国大会

岩手県立遠野緑峰高等学校

【 大 会 名 】　第70回日本学校農業クラブ全国大会南東北大会　プロジェクト発表会
【 日　　時 】　令和元年１０月２２日（火）～１０月２４日（木）
【 場　　所 】　（発表会）宮城県 名取市文化会館
（式　典）山形市総合スポーツセンター
【 大会概要 】
（１）プロジェクト発表会　分野Ⅱ類　開発・保全・創造
Ⅲ類　ヒューマンサービス
（２）参加者数　生産技術科３年　草 花 研 究 班７名（分野Ⅱ類）
生産技術科３年　野菜果樹研究班６名（分野Ⅲ類）
（３）入　　賞　優秀賞　野菜果樹研究班

【 写　　真 】

大会会場での集合写真

発表中の様子

【 感　　想 】

過日（１０月２２日～２４日）行われた第７０回日本学校農業クラブ全国大会（南東北大会）が名取市内ある名取市文化会館において本校生産技術科３年草花研究班７名、野菜果樹研究班６名が出場して参りました。本校としてホップ和紙の研究が４年連続５度目の出場、野菜果樹研究班も出場し、２部門出場は１９年ぶりということで、本校の小規模校として存在意義を全国に発信する機会となりました。

分野Ⅱ類では、残念ながら入賞することができませんでしたが、生徒は全国大会の雰囲気を満喫し、日々の発表練習の成果を存分に発揮し、満足そうでした。今回の研究発表は代々の先輩方から引き継いだものでしたが、今年度はホップ和紙の生産活動に追われ、新しい研究を行うことができませんでした。遠野は、研究テーマの宝庫なので、研究を楽しむことや、身の回りにある様々な疑問を見付け解決方法を考える面白さを、新たな研究テーマとしてできなかったことが、悔やまれました。

分野Ⅲ類では、お陰様で優秀賞を受賞することができました。生徒たちは、日本一を目標にしていただけに悔しさが強く残りました。担当者としても、結果発表で呼ばれなかった時は、悔しさで涙が出ました。生徒たちの悔しい表情を見たときに本当にやってきた証だと思いました。速報の優秀賞に名前があって喜んでいた生徒の姿を見て少しほっとしました。これからも向上心を持って、継続研究に励んで参りたいと思います。生徒たちは、東北大会以上の発表をしてくれました。質疑応答が終わった後、この子たちの成長を感じることができました。本当に素晴らしいものを見せていただきました。

今後も、地域農業の活性化、さらには遠野市を盛り上げていきたいと思いますので変わらぬご指導の程よろしくお願いします。

最後に、ご支援下さいました岩手県産業教育振興会様はじめ、たくさんの温かいご寄付を頂戴し大会に臨ませて下さった遠野ホップ和紙を育てる会の皆様、ホップ農家の皆様、遠野市産業部の皆様さん、遠野市民の皆様そして私たちに関心を寄せて頂いた多くの皆様に深く感謝申し上げます。

農業：農業クラブ全国大会

岩手県立久慈東高等学校

【大 会 名】　第70回日本学校農業クラブ全国大会　令和元年度南東北大会
【日　　時】　令和元年１０月２３日（水）～令和元年１０月２４日（木）
【場　　所】　福島県立福島明成高等学校、山形市総合スポーツセンター
【大会概要】
（１）出場競技部門および内容
出場競技部門は、農業鑑定競技会である。内容は、教科「農業」での学習や学校農業クラブ活動で得た農業に関する知識・技術の成果について、実物を見て合計４０問の問題を鑑定する競技である。１問２０秒で答え、最終の２問は４０秒問題で解答をする。校内予選を勝ち抜いた全国の農業クラブ員で競う。分野が農業・園芸・畜産・食品・森林・農業土木・造園および生活の８分野である。
（２）参加者数及び氏名
分野　農業　総合学科３年　畠山　将太
　　森林　総合学科３年　中村　諒祐

【写　　真】

（農業鑑定競技会の会場にて）

（大会式典会場にて）

（大会式典開始前の様子）

【感　　想】
今年度から２名の参加となった。代表決定前から基準となる範囲を放課後等利用して継続した事前学習に取り組んできた。大会当日まで粘り強く学習を継続してきた。当日は１０００名近い出場者の中で今までの学習成果を発揮したものの、結果として入賞は逃してしまった。この大会に出場したことや勉強を積み重ねる努力については今後の進路においても充分に活かすことのできる経験となった。

農業：農業クラブ全国大会

岩手県立遠野緑峰高等学校

【 大 会 名 】　第70回日本学校農業クラブ全国大会南東北大会　農業鑑定競技会
【 日　　時 】　令和元年１０月２２日（火）～１０月２４日（木）
【 場　　所 】　（競技）福島県立福島明成高等学校
　　（式典）山形市総合スポーツセンター
【 大会概要 】
（１）　競技部門　分野「園芸」，分野「生活」
（２）　参加生徒　生産技術科２年　萩野　白蘭（分野「園芸」）
　　生産技術科３年　瀬川　愛海（分野「生活」）
（３）　入　　賞　なし

【 写　　真 】

競技会場

参加生徒

【 感　　想 】

前日に名取市内の図書館に通って学習するなど、生徒たちは万全を期して学習に臨んだが、それでも学習不足の点があり入賞までには至ることが出来ませんでした。学習方法としては過去問などを中心に演習的な形で取り組むよりも鑑定競技実施基準の内容を十分に検討した内容を自分達でまとめ、時間をかけて取り組むようなかたちで、どのような問題が出されても対応できるような体制をつくって臨むことが必要だと考えさせられました。

今回の反省を糧に、次回にむけた学習体制の確立に取り組みたいと思います。参加生徒のうち１名は２年生なので、次年度に向けた取り組みを今から始めたいと抱負を語っていました。

最後に、今大会の参加にあたり、御支援くださいました岩手県産業教育振興会様をはじめ、地域の皆様に深く感謝申し上げます。

農業：出前授業

岩手県立岩谷堂高等学校

【事業名】　奥州市立江刺第一中学校との交流活動
【日　　時】　令和元年５月～１０月
【場　　所】　岩谷堂高等学校実習田
【事業概要】
　岩谷堂高校の水田を活用し、江刺第一中学校の３年生と、イネの栽培を通して高校生と中学生の交流学習を行い、達成感や充実感を深めることを目的として実施する。
（１）イネの栽培
（２）参加者
　ア　総合学科（生物生産系列）３年次１５名
　イ　奥州市立江刺第一中学校３年生１８５名
（３）本校生徒は、苗の植え方について中学生に技術指導し、中学生はその後、ひとり５メートルずつ苗を植え付ける体験をした。

【　写　真　】

事前の説明

苗の配布

田植え実習（１）

田植え実習（２）

【事業運営者感想】
　今年度初めて交流学習を実施しました。中学校の教科「技術・家庭」の技術分野における「生物育成に関する技術」の学習において本校の実習田を活用し、イネの栽培について体験を通して知識と技術を学ぶことを目的としました。本校生徒は授業で学んだ知識と技術を中学生にわかりやすく伝えるにはどうしたら良いのか考え実践することで、学習内容を深化させることができました。

商業：全国生徒商業研究大会

岩手県立水沢商業高等学校

【大 会 名】　令和元年度　第２７回全国高等学校生徒商業研究発表大会
【日　　時】　令和元年１１月２０日（水）
【場　　所】　埼玉会館
【大会概要】

商業を学ぶ生徒が商業に関する課題を設定し、その解決を図る一連の研究活動のなかで、生徒の問題解決能力や創造的学習態度を育てるとともに、その成果を発表する機会を通して、生徒の表現力やコミュニケーション能力を育成する。

（１）参加生徒　６名　千　葉　美　佳・及　川　奈　々・鈴　木　萌　叶
菅　原　絵理奈・田　中　李　沙・菊　地　梨奈子

（２）　大会結果　優良賞

【写　　真】

【感　　想】

３年連続で全国大会に出場でき、活動を通して生徒も大きく成長することができた。また、Ｊリーグチームの「いわてグルージャ盛岡」に協力していただき、地域との連携を図りながら活動を進められことで、充実した調査研究を行うことができた。結果は優良賞であったが、当日の評価は最優秀賞の学校よりも高く、生徒はよく努力し頑張ったと感じる。

商業：ＩＢＣまつり

岩手県立盛岡商業高等学校

【事 業 名】　ＩＢＣまつり　岩手の担い手マーケット
【日　　時】　令和元年９月１４日（土）～１５日（日）
【場　　所】　ＩＢＣまつり会場（岩手産業文化センター　アピオ）
【事業内容】
（１）本県の産業教育の振興に資するため、生徒が販売実習を行い、接客や販売、店舗運営などの実習をイベント会場において実施した。
（２）商品の仕入れ・管理について、商業科の授業による事前学習を行い、計画立案から仕入に関して実際に企業との交渉を行った。
（３）商品販売及び販売促進について、担当生徒での検討会、担当教員との協議を繰り返し、実践につなげた。

【写　　真】

（開店前のミーティング）

（販売風景）

（販売風景）

（ラジオの取材を受ける様子）

【感　　想】
２日間の実習であったが、他校と連携して販売を行うことができ、生徒にとっては貴重な体験であった。また普段参加できない生徒も積極的に参加できて次の販売実習につながるものとなった。今回の助成で保冷車が準備できたことにより、取扱う商品が広範囲になり、商品管理、商品知識、販売促進など多方面で学習効果を得ることができた。

商業：ＩＢＣまつり

岩手県立宮古商業高等学校

【事 業 名】　IBCまつり２０１９inアピオ
【期　　日】　令和元年９月１４日（土）～１５日（日）
【場　　所】　岩手県産業文化センターアピオ特設会場
【大会概要】

高校生が出店するブースをメインステージ付近に「岩手の担い手マーケット」という特設コーナーを設けて実施した。

（１）「岩手の担い手マーケット」出店校

岩手県立盛岡商業高等学校、岩手県立水沢商業高等学校、岩手県立岩谷堂高等学校、岩手県立大船渡東高等学校、岩手県立宮古商業高等学校で、各校の生徒がそれぞれ趣向を凝らして仕入れた商品の販売を行った。

（２）「岩手の担い手ものづくりハイスクール」

会場内の別の場所では、工業科目を学ぶ生徒が「岩手の担い手ものづくりハイスクール」として出店していた。

【写　　真】

メインゲート付近で販売活動

挨拶練習〈接客用語〉

【引率者の感想】

ＩＢＣまつり「岩手の担い手マーケット」を通じて、たくさんのお客様と接することができ貴重な経験を得ることができた。当日は、生徒一人ひとりが考えて行動し、商品陳列の変更など臨機応変に対応する姿が見られ成長を実感することができた。また、商業科目を学ぶ生徒の姿や努力を多くの方々に知っていただく機会を得ることもできた。

今年度本校から参加した４名の生徒は、ＩＢＣ祭りでの経験を活かして宮商デパート実行委員の中心として活動した。他校の生徒より刺激を受けることで実行委員としての意識が高まり、全体を導く指導力に磨きがかかった。

商業：ＩＢＣまつり

岩手県立水沢商業高等学校

【事 業 名】　ＩＢＣまつり
【日　　時】　令和元年９月１４日（土）８：３０～１６：３０
　　９月１５日（日）８：３０～１６：００
【場　　所】　岩手産業文化センター　アピオ特設会場
【事業概要】
（１）県内の高校を１グループとしテントを設置。生徒がプロデュースした商品、地元企業の商品・加工食品の販売を行う。
（２）学習の一環として販売商品の企画・選定から業者との交渉・仕入れ、店舗装飾・販売、決算に至る一連の業務全般を行う。
【取扱商品】（水沢商業高校分）
・こめんしぇ［水沢商業高校と銘菓処高千代との共同開発商品］
・江刺産りんご［ＪＡ江刺　江刺ふるさと市場提供協力商品］
・江刺金札めん［ＪＡ江刺　江刺ふるさと市場提供協力商品］
・金札米キューブ［ＪＡ江刺　江刺ふるさと市場提供協力商品］
・りんごの滴［ＪＡ江刺　江刺ふるさと市場提供協力商品］
【売上金額】（水沢商業高校分）
２日間合計　92,760円
【感　　想】
・笑顔で明るく、積極的にお客様にあいさつができた。
・ただ、呼び込みをするのではなく、試食を効果的に使用し、購買心理に働きかける接客を行うことができ、江刺産りんごについては、初日でほぼ完売することができた。
・１日目と２日目で商品陳列方法を変え、陳列による売上の変化を実感できた。
・販売スペースを有効活用し、工夫して販売できた。
・他店舗の販売の様子が大変参考になり、刺激を受けた。後輩に伝えたい。
・商品の説明が、うまくできず売上が伸び悩んだ。

【写　　真】

－販売実習活動する本校生徒－

商業：ＩＢＣまつり

岩谷堂高等学校

【事業所名】　「ＩＢＣまつり」参加

【日　　時】　令和元年９月１４日（土）８：３０～１６：３０

９月１５日（日）８：３０～１６：００

【場　　所】　岩手産業文化センターアピオ　特設会場

【事業概要】

本校の生物生産系列が加工しているジャムやジュース、地元企業との共同開発商品等の販売や会計処理等をとおして、主体的、実践的な学びを実現し、総合生活力と人生設計力の育成に資するものである。３年生６名と２年生４名の計１０名で参加した。

【写　　真】

挨拶練習

販売活動

【引率者感想】

・初めて参加し、他校の販売の様子を知ることができた。

・他校の積極的な声出しや振る舞いに、本校の生徒は多くの刺激を受けた。

・これからの販売実習に向けて、より一層の接客練習が必要であると感じた。

・「岩高」ではなく「岩谷堂高校」として装飾等を工夫することが必要だと感じた。
地元江刺では「岩高」として知られていても、地元を離れれば無名である。これからも「ＩＢＣまつり」に参加し、「岩谷堂高校」をアピールしていきたい。

商業：全国デパートゆにっと

岩手県立水沢商業高等学校

【事 業 名】　第７回全国高校生合同販売「デパートゆにっと」
【日　　時】　令和元年８月１５日（木曜日）～１８日（日曜日）
　　営業は、８月１６日（金曜日）～１８日（日曜日）
【場　　所】　井上百貨店　本館７Ｆ　催事場（長野県松本市）
【事業内容】
　学校・産業・地域連携の「デパートサミット」で実際の販売活動を通じて、実社会に接し、実践的な能力を高める場とする。
　（１）　販売実習　　高校１０校（５７名）　大学１校（１７名）
　（２）　参加者　　３名：２年商業科　及川優萌　　勝山愛羅　　渡邉緋奈
　（３）　売上高　　５６，９５０円

【写　　真】

【生徒感想】
　第７回全国高校生合同販売「デパートゆにっと」は、昨年度に引き続き、松本市の井上百貨店で行われました。初めは、声が小さく、お客様に商品の説明がうまく出来ませんでしたが、多くのお客様から「遠いところからありがとう。」と声をかけてもらい、とても嬉しかったです。一緒に参加している大学生の方々からも商品陳列の仕方などたくさんのアドバイスをいただきました。井上百貨店常務井上様からは、百貨店の社員として責任を持って対応することや、周りで困っている人がいればチームとして協力することが大事であると教えていただきました。また、学校交流会では学校と商品紹介をするという１分間のプレゼンテーションがありました。県外の方々に岩手の良さを伝えるという難しさや不安や緊張もありましたが、他校の魅力ある商品や説明の仕方も大変勉強になりました。
　長野県のたくさんの方々に支えられ、この４日間貴重な経験をすることが出来ました。今回の経験を今後の活動にいかし、後輩や校内でもしっかりと伝達していきたいと考えています。貴会の助成事業に、心より感謝申し上げます。

商業：実技講習会

岩手県立遠野緑峰高等学校

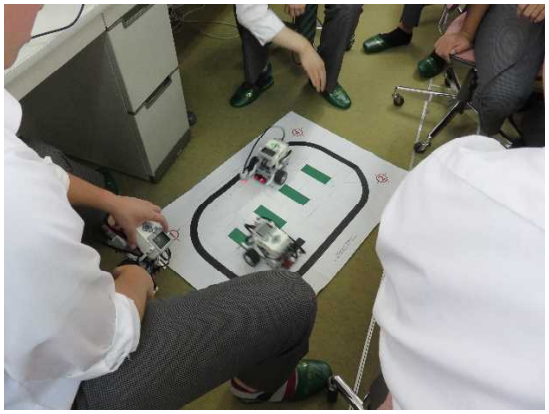
【事 業 名】　外部講師による生徒を対象とした実技講習会
【日　　時】　７月２５日（木）
【場　　所】　遠野緑峰高等学校　商業実践室
【事業概要】
　専門学校講師の指導によるプログラミングの実習をおこなうことで、既習内容の知識と理解、技能を発展させ、その伸長をはかる
（１）実技講習会の内容
　　北上コンピュータアカデミー指導教官伊藤修氏による
　「ＬＥＧＯロボットプログラミング」
（２）参加者数
　　情報処理科３年１３名

【写　　真】

（講義　北コン指導教官　伊藤修氏）

（実習　ロボット車を動作させる）

（実習　今春卒業生が助手として支援）


（実習　軌道や色を判別して動作させる）

【生徒の感想】
・北コンの方々がやさしく教えてくださり、スムーズに進めることができました。
・ロボットを動かすための過程を知ることができて、良い勉強になりました。
・ロボットへの興味や愛着なども湧いてきました。貴重な体験でした。
・楽しかったし、とても興味を持ちました。また機会があったらやってみたいです。
・より一層プログラミングに興味が湧きました。

・楽しいと思えることを仕事にできるということは、とても凄いことだと思います。
・卒業した先輩も学校が楽しいことが伝わってきました。
・最初は難しいと感じましたが、やってみるととても面白く、良い経験ができました。
・北上コンピュータアカデミーの生徒が、どんなことを学んでいるのかが分かりました。
・プログラミングソフトは思ったよりも簡単で、すぐできる感じだと思いました。
・車を前進させるにも後退させるにもきちんとした設定がいちいち必要だと知りました。
・思い通りに動くまで長かったので、プログラミングは私に合わないことを知りました。
・思い通りに動いた時はとても嬉しく、動かない時に考えるのも楽しかったです。
・カラーセンサーが、どのように反応しているのかも体験し知ることができました。
・レゴのこのような活動を知っていましたが、これを機会に調べてみようと思いました。
・動かない時もありましたが、動いた時はとても楽しかったです。
・もっと色々なロボットを使って、動かしてみたいと思いました。
・楽しかったので、もっと色々な人に体験してほしいと思いました。
・自分がプログラムしたロボットに親近感が湧いたりしました。
・興味を持っていたのですが、機会がなかったので、とても良い経験になりました。
・もう少し時間があれば、もっと難しいプログラムをしてみたかったです。
・初めてでしたが先生、先輩方に分かりやすく教えていただきありがとうございました。
・今後Ｃ、Ｃ++、java、python等のプログラミング言語を習得したいので頑張ります。
・パソコンで自分の設定したとおりにレゴの車が動いてとても楽しかったです。
・ＥＶ３のセンサーに光センサー、モーター、超音波センサーがあるのが分かりました。
・色モードという識別する機能で線の上を走るプログラムを立てて楽しかったです。
・将来プログラミングを活かせる職業に就きたいと思っていたので、勉強になりました。

商業：全国簿記コンクール

岩手県立水沢商業高等学校

【大 会 名】　令和元年度　第３５回全国高等学校簿記コンクール
【日　　時】　令和元年７月２１日（日）
【場　　所】　関西学院大学
【大会概要】　簿記教育の振興を図るものである。
（１）競技部門　　団体の部　９５校参加
　　個人の部　４９０人参加
（２）成　　績　　団体の部　332点　２２位（小野寺茉奈・須藤渚・佐々木慧蓮）
　　個人の部　小野寺茉奈　100点　９２位
　　須藤　　渚　104点　８６位
　　佐々木慧蓮　128点　４２位　佳良賞

【写　　真】

（会場前）

【引率者の感想】

今年度も問題傾向が変わり、特に２部の難易度も高くなってきている。全国の壁は厚く、東北勢の団体・個人の入賞が数少ない状況です。団体佳良まであと一歩という状況であるが、なかなか入賞までは手が届かない状況です。しかし、２年ぶり個人佳良受賞が２年生であることから、来年度に向けさらに指導を強化し、団体及び個人の入賞を目指し、日夜練習に励みたいと思います。

商業：全国簿記コンクール

岩手県立盛岡商業高等学校

【事 業 名】　令和元年度　第３５回全国高等学校簿記コンクール
【日　　時】　令和元年７月２１日（日）
【場　　所】　兵庫県　関西学院大学
【事業内容】
１　競技
　第１部（４５分）、第２部（４５分）
２　参加者　団体９５校　選手３７５名
３　大会成績
　団体　３７位
　個人　関　明日海　　９６点　１０３位／３７５名
　　髙橋　一輝　　８５点　１２６位／３７５名
　　別部姫菜子　　７７点　１４４位／３７５名

【写　　真】

会場（入口）

【生徒または引率者の感想】
　目標としていた全国入賞には至りませんでしたが、生徒は実力を出し切った様子が見られました。さらなる向上を目指し次年度の取り組みを改善していきたいと考えます。

商業：全国ワープロ競技大会

岩手県立水沢商業高等学校

【大 会 名】　令和元年度第６６回全国高等学校ワープロ競技大会
【日　　時】　令和元年８月７日（水）
【場　　所】　愛知県名古屋中小企業振興会館
【大会概要】　情報処理教育の振興を図る事業の一環として実施する。
（１）競技部門　団体の部出場
（２）参加者数　３名　補欠２名　応援１名
選手　小 澤 由 宇（３年）　千 葉 拓 斗（３年）　千 葉 ななみ（３年）
補欠　佐々木 瑞 希(２年)　菅 原 珠里菜（２年）
応援　田 中 李 沙（３年）
（３）結果　　団体１０位入賞・個人佳良賞（千 葉 ななみ）

【写　　真】

大会前日（会場前にて）

閉会式

【感　　想】

今年度は大会会場が東京から名古屋市に移り、団体・個人の選手が同じ会場で競技を行いました。環境が変わることへの心配や不安をなくすため、持って行く機械の動作確認、機器トラブルが起こった時の対応方法、競技進行手順など選手は念入りに確認しました。

閉会式の講評の中で、今大会は失格者もなく、より正確に問題を読み取って打つことができた大会だったという話がありました。毎回のことですが、本校も機器トラブルなく競技ができたことに安堵しております。

全国大会1カ月前の東北大会は４位という結果でした。選手・サポートする部員にとって追い込まれた状況ではありましたが、悔しさが選手を変えてくれました。大会直前まで誤字・脱字を出さない正確性を重視した練習を納得いくまで繰り返しました。

大会を終えた選手からは、「余り緊張せず、いつも通りに打ちました。結果的にはエラーが出て悔しいけれども、入賞もでき、ワープロという夢中になれるものに出会えて良かった」と話しています。選手の感想から、３年間の部活動をいい形で終えることができたと思っております。私自身も生徒から多くのことを学ばせて頂きました。

これからも生徒と共に成長してゆけるよう、挑戦してゆきたいと思います。

商業：全国ワープロ競技大会

岩手県立盛岡商業高等学校

【大 会 名】　令和元年度第６６回全国高等学校ワープロ競技大会
【日　　時】　令和元年８月７日（水）
【場　　所】　名古屋市中小企業振興会館　吹上ホール
【大会概要】
１　競　技　　速度競技　制限時間１０分間
２　参加者　　団体５６校　選手２１５名
３　大会成績　団体の部　第　３２位
　　個人の部　第　９５位　村　上　舞　美　１,４８０字
　　第１０８位　髙　橋　風　香　１,４１８字
　　第１１４位　伊　藤　咲季那　１,３９１字

【写　　真】

会場での練習風景

大会看板前で

【生徒または引率者の感想】

団体個人ともに同一会場で開催された大会であり、生徒たちは今までにない雰囲気の中競技をしてきました。最初機械トラブルがあったものの冷静に対処し、一生懸命競技に臨んでくれました。

商業：全国ワープロ競技大会

岩手県立花北青雲高等学校

【大 会 名】　令和元年度第66回全国高等学校ワープロ競技大会
【日　　時】　令和元年8月7日（水）
【場　　所】　名古屋市中小企業振興会館
【大会概要】　商業に関する知識や技術・技能を高める。
（1）競技部門及びその内容
速度競技（制限時間10分間）
（2）参加者数・氏名
出場校（団体）　56校　　出場選手（団体＋個人）215名
花北青雲高校ビジネス情報科　及川雄斗（個人出場）
（3）入賞者数・氏名
個人第50位　及川雄斗　1,651字

【写　　真】

（大会会場）

（競技開始前）

【感　　想】

3年連続で個人での全国大会出場となりました。3人で打ち繋いでいく団体での出場とは違い、個人では打数を伸ばすことが難しくなるため、いかにミスを少なくするかということに力を入れて練習に取り組んで参りました。選手だけでなくサポートするメンバーも一緒に練習し、ミーティングを重ねることで技術を高めることができました。

大会前日での練習では、全国トップレベル選手の技術を目の当たりにして気持ちが落ち込んでしまうこともありましたが、本番では機械トラブルもなく落ち着いて競技に臨むことができました。結果は4文字エラーとなりましたが、岩手県出場者の中でも順位を上げることができ、満足したものとなりました。これらのことが後輩たちの刺激になり、先輩を超えようという目標にもなったようです。

全国大会出場にあたり、多くの方々の御支援と御協力を頂いたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

商業：全国珠算電卓競技大会予選大会運営

岩手県立盛岡商業高等学校

【事 業 名】 令和元年度第46回東北六県高等学校珠算・電卓競技大会
【期　　日】 11月2日（土）
【場　　所】 岩手県立盛岡商業高等学校
【大会概要】 珠算及び電卓部門において、各県予選を勝ち進んだ1・2年生、それぞれ上位14名により競われる。

（1）競技部門
　ア　団体総合競技（各校3名）
　イ　個人総合競技
　ウ　個人種目別競技
　　（ア）伝票算
　　（イ）読上暗算（珠算競技のみ）
　　（ウ）応用計算
　　（エ）読上算

（2）参加人数
　ア　珠算部門　18校　46名
　　岩手県　水沢商業高校　　3名　/　花北青雲高校　1名（欠席）
　イ　電卓部門　19校　82名
　　岩手県　盛岡商業高校　13名　/　花北青雲高等　1名

（3）入賞（岩手県）
　ア　珠算競技
　　種目別競技　　応用計算　第1位　水沢商業高校　千田祐太
　　第2位　水沢商業高校　佐々木慧蓮
　　第3位　水沢商業高校　小野寺純伶
　イ　電卓競技
　　団体総合競技　第3位　盛岡商業高校
　　個人総合競技　第3位　盛岡商業高校　長野眞帆
　　種目別競技　　応用計算　第3位　盛岡商業高校　北條陽菜

【写　　真】

開会式

商業：全国珠算電卓競技大会

岩手県立水沢商業高等学校

【大　会　名】　令和元年度　第66回全国高等学校珠算・電卓競技大会
【日　　時】　8月1日（木）
【場　　所】　仙台サンプラザホール
【大 会 概 要】　珠算・電卓競技の振興を図るものである。

1　競技及び戦績

競技部門　珠算の部　127校300名参加

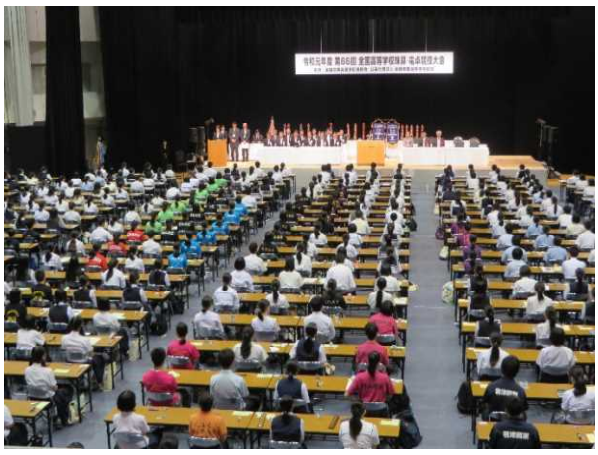
（1）団体総合競技　千田祐太（330）・小野寺純伶（230）・佐々木慧蓮（350）
※入賞せず

（2）個人総合競技　千田祐太（330）・小野寺純伶（230）・佐々木慧蓮（350）
末吉彩夏（270）・鈴木南美（240）　※入賞せず

（3）種目別競技　　応用計算　佐々木慧蓮（佳良賞）

【写　　真】

（会場前）



（開会式）

【引率者の感想】

上位入賞を目指し、選手一人一人がこれまでの成果を発揮しようと奮闘したものの、団体総合競技・個人総合競技ともに入賞することができず、全国という舞台の厳しさを痛感する結果となりました。しかし、種目別の応用計算競技では2年の佐々木慧蓮が佳良入賞を果たすことができました。例年に比べ厳しい結果ではあったものの、1・2年生のみの選手で健闘してくれたと感じます。今回の結果を今後の活動の糧とし、新人戦・東北大会に向け気持ちを新たに練習に励んでいきたいです。

表彰式

【感想（大会運営主務者）】

大会直前の台風被害の激しかった宮城、福島両県の高校も予定通り出場してくださいました。会場校としては困難を押して参加してくださった学校を含め、全ての学校の活躍に応えるためにも、万全の準備をして迎えられるよう努力をしました。その結果、高いレベルで競技が繰り広げられたことを嬉しく思います。また、東北六県商研事務局の先生からは、補助員生徒の応対について高い評価をいただき、担当職員の苦労も報われました。

東北地区は、全国大会でも常連の高校がひしめくレベルの高い地域であり、今大会は上位大会につながるものではありませんが、参加した1・2年生の選手がこの経験を糧として、これからの活動で、来年度の全国大会の場で発揮できる力を蓄えてくれることを願います。

貴会におかれましては、大会の運営に補助金を助成して下さったことに感謝いたします。

商業：全国珠算電卓競技大会

岩手県立盛岡商業高等学校

【事 業 名】　令和元年度　第６６回全国高等学校珠算・電卓競技大会
【日　　時】　令和元年８月１日（木）
【場　　所】　宮城県　仙台サンプラザホール
【事業内容】

１　総合競技

普通計算、応用計算

２　種目別競技

伝票算、応用計算、読上算

３　参加者

珠算の部　団体５５校　選手３００名

電卓の部　団体４７校　選手１９３名

４　大会成績（電卓の部）

小　綿　優　香	４２０点	６６位／１９３名
菅　原　東　紅	４１０点	７８位／１９３名
長　野　眞　帆	４００点	８５位／１９３名
小　林　　心	３７０点	１１９位／１９３名

【写　　真】

会場（入口）

開会式前の練習

【生徒または引率者の感想】

団体入賞まであと３問という悔やまれる結果であったが、生徒は実力を出し切った様子が見られた。あと一歩の向上に向けて取り組みを工夫し改善していきたいと考える。

商業：全国情報処理競技大会

岩手県立盛岡商業高等学校

【大 会 名】　令和元年度 第３１回 全国高等学校情報処理競技大会
【日　　時】　令和元年７月２８日（日）
【場　　所】　広島市立大学
【大会概要】　全国商業高等学校長協会主催の大会であり、情報処理教育の振興を図る事業の一環として実施されるものである。

（１）競技部門及びその内容

ア　出題範囲　全商情報処理検定１級および情報処理技術者試験程度

イ　競技部門　第Ⅰ部　関連用語とデータベース（４０分）
第Ⅱ部　表計算とアルゴリズム　（４０分）

ウ　競技方法　筆記試験による個人の得点を基準とし，団体賞（上位３名の合計得点）及び個人賞を決定する。

（２）参加者数等

ア　参 加 校　　４８校

イ　参加者数　　２８１名
各都道府県で予選会を実施し，団体代表校１校（１校あたり４名）と代表校以外から個人代表２名が出場できるもの。

（３）参加者及び結果（本校）

ア　参加者　３年 蔦　旬太、３年 大岡哲平、３年 大塚幸也、３年 大森雪音　４名

イ　結　果　【団体の部】　第１８位
【個人の部】　第３６位（優良賞）３年 蔦　旬太

【写　　真】

【感 想 等】

全国団体10位以内入賞を目標にしていたが、それを達成できず悔しい結果に終わった。今大会の予選にあたる岩手県大会の結果を鑑みると、例年以上に期待できる成績であったため、今大会の結果が振るわなかったのは意外でもあった。しかし、関東圏の学校が多く上位入賞を果たしており、東北地区以外の学校が非常に力をつけてきているのを実感した。来年度に向けて、また頑張りたい。

商業：全国情報処理競技大会

岩手県立水沢商業高等学校

【大 会 名】　令和元年度第31回全国高等学校情報処理競技大会
【日　　時】　令和元年７月２９日（日）
【場　　所】　広島市立大学
【大会概要】　情報処理教育の振興を図る事業の一環として実施する。
（１）第Ⅰ部は関連用語とデータベース、第Ⅱ部は表計算とアルゴリズムの出題で、競技時間は各部40分間とする
（２）総参加者数　281名　本校より１名　３年Ｃ組　横田佳祐が出場
（３）入賞者なし

【写　　真】

（参加生徒）

（開会式）

【感　　想】

６月に行われた岩手県大会で個人入賞し、本校からは２年ぶりの出場となりました。全国大会に参加した生徒は、県大会後も地道に学習に取り組んできました。初めての出場と言うこともあり、会場に入った生徒は若干緊張気味ではありましたが、競技開始後は落ち着いて取り組むことができました。本人の感想として、県大会の問題に比べ難易度がかなり高く、特にⅡ部の問題に苦戦したとのことです。結果は281人中197位でしたが、全国大会に出場する選手の多くが部活動として取り組んでいる中で、本校の選手は部活動ではなく選抜チームとして短い時間での活動です。圧倒的に対策する時間に差がある中でもⅠ部では40位に入賞した生徒（57点）よりも高い得点で（58点）、健闘したのではないかと思われます。全国大会に出場できたことを誇りにし、この経験を来年度に引き継いでいきたいと思います。

水産：東北生徒研究発表大会運営

岩手県立久慈東高等学校

【大 会 名】　第28回全国水産・海洋高等学校生徒研究発表東北地区大会
【日　　時】　令和元年１０月３１日（木）～１１月１日（金）
【場　　所】　岩手県立久慈東高等学校銀杏ホール
【大会概要】
　東北の水産・海洋高等学校の９校２３名の生徒が、日頃の学習や研究活動の成果についてプレゼンテーション形式での発表会が開催されました。また、本大会は12月13日に山口県長門市の長門市中央公民館大講堂（山口県立大津緑洋高等学校主管）で行われる全国大会の選考も兼ねており、東北地区からは宮城県水産高等学校が出場を決定しました。
【参 加 者】　約７０人
【参 加 校】
青森県立八戸水産高等学校
　水産食品科３年　　柴田　舞夕　泉山　栞菜　井河　円花
宮城県水産高等学校
　海洋総合科(生物環境類型)３年　櫻井　海　大見川　遥　阿部　拓実
宮城県気仙沼向洋高等学校
　情報海洋科３年　　堀内　健士朗　齋藤　廉　梶原　裕翔
秋田県立男鹿海洋高等学校
　食品科学科３年　　佐藤　恋寧　浅井　桜子　大渕　瑠姫
山形県立加茂水産高等学校
　海洋資源科３年　　渡曾　円　髙橋　七海
福島県立いわき海星高等学校
　海洋科２年　　宍戸　涼雅　秋元　拓斗
岩手県立宮古水産高等学校
　食品家政科３年　　山本　莉央　前川　麗奈　佐々木　琴美
岩手県立高田高等学校
　海洋システム科３年　金野　翔天　佐々木　魁翔
岩手県立久慈東高等学校
　総合学科(海洋科学系列)３年　村塚　彪　米田　偉音

【来　　賓】
岩手県教育委員会事務局学校調整課
　産業・復興教育担当指導主事　尾﨑　芳彦　氏
日本水産学会東北支部支部長　岩手大学三陸研究センター
　センター長　平井　俊朗　氏

【結　　果】
　最優秀賞：宮城県水産高等学校
　　（ユメミタイから夢実現へ）
　優 秀 賞：青森県立八戸水産高等学校
　　（階上町産アブラメのブランド化を目指して～加工品開発を通して～）
　　岩手県立宮古水産高等学校
　　（さばとしいたけ～行政・大学・高校の共同開発～）
　奨 励 賞：秋田県立男鹿海洋高等学校
　　（海はみんなの宝物～海洋高校から発信！海洋資源を有効活用し地域の活性化を目指して～）

岩手県立久慈東高等学校
（久慈のギンポを宝にできるか！？３年目
～ダイナンギンポの生産・加工に関する研究～）
山形県立加茂水産高等学校
（庄内ブランドだだちゃ豆の残渣を用いたムラサキウニの飼育
～君にもう海藻はいらない～）
岩手県立高田高等学校
（エゾイシカゲ貝の可能性～食卓にエゾイシカゲ貝を～）
福島県立いわき海星高等学校
（好適環境水を利用した魚の飼育）
宮城県気仙沼向洋高等学校
（海や船についてもっと知ってもらうために
～地域の海洋教育に気仙沼向洋高校ができること～）

【大会風景】

（研究発表の様子）

（大会運営は本校生徒で行いました）

【大会所感】
〇参加生徒：岩手県立久慈東高等学校　総合学科　海洋科学系列３年　村塚　彪
　私は先輩から引き継つぎ３年目となった未利用魚の生産と利用について発表しました。放課後を使って研究活動のまとめと、わかりやすく伝えるプレゼンテーションの練習を毎日してきました。東北代表にはなれませんでしたが、研究活動を後輩に引き継ぎたいです。

〇運営主務：岩手県立久慈東高等学校　水産科　教諭　鈴木　宏明
　今年度の大会は漁業従事者の減少や、東日本大震災以降の風評被害に苦しむ地域水産業に寄与し、地域の水産業の活性化に寄与したいという動機から展開した研究活動が多かったことが印象的でした。プレゼンテーション技術もさることながら、高校生の柔軟な発想から思いがけないアイディアを生み出す過程が聴衆によく伝わったと思います。今回は本校ホールを会場にして、総合学科高校らしく授業で生徒に自由に参観してもらう形式をとりました。水産系の生徒に限定にしないことで、他の専門系列を学ぶ生徒にとっても研究活動の発想や組み立てについて、探求的な学習活動へ関心を持つきっかけになったことを期待します。

家庭：出前授業

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】　平舘小学校における出前授業「紫根染（絞り模様入り）の体験実習」
【日　　時】　令和元年９月２０日（金）　９：２０～１２：２０
【場　　所】　八幡平市立平舘小学校　家庭科実習室
【事業内容】
出前授業（小学校時程）　参加者　小学生１９名、本校生１１名
２校時　紫根染に関する説明（歴史や紫根の活用方法、染め方など）
３校時　絞り模様をいれたあと、媒染作業（媒染液６０℃で１０分間）
４校時　紫根染（染液５０℃で３０分間）のあと、後媒染（媒染液６０℃で１０分間）をする。絞り模様の糸などを切って取り、仕上げ。

【写　　真】

絞り模様の入れ方を説明

紫根の染液を使って染色作業

水洗いをして絞りをほどき確認

全員で集合写真

【本校生徒の感想】
◆私達は模様を入れる前に考えて絞りを入れますが、小学生は思いつきで模様を入れて、できあがりを楽しみにしながら染めていました。ワクワクした感じが続くのでいいなと感じました。（高校３年女子）
◆小学生たちの斬新なアイディアを活かした模様が面白かったです。教える立場になって、自分も紫根染について深く勉強できて良かったです。（高校２年男子）

【児童の感想】
◆とてもきれいな色に染まって楽しかった。どんな模様になるか考えながら作るのが楽しかった。お姉さん方の説明がとても丁寧で話しながら作るのが楽しかった。（小学６年女子）
◆ビー玉と洗濯ばさみを使ってかわいいデザインにしました。自分が使いたくなるようなハンカチが作れました。（小学６年女子）

家庭：体験教室

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】　「紫根染（絞り模様入り）の体験教室」
【日　　時】　令和元年１０月５日（土）　１３：００～１６：００
【場　　所】　本校調理実習室
【事業内容】
　体験教室　参加者　一般市民１８名、本校生１１名
　　１３：００～１３：３０　　紫根染に関する説明、研究内容の紹介
　　（歴史や紫根の活用方法、染め方など）
　　１３：３０～１６：００　　絞り模様、媒染作業、紫根染、後媒染、仕上げ

【写　　真】

はじまりの挨拶をする様子

絞り模様の入れる様子

紫根の染液で染めている様子

自分の作品を持って集合写真

【本校生徒の感想】
◆連続で参加してくださった方もいて、すでに次回の模様をイメージしていた。「これ楽しいね。」という声がすごく多くて、やりがいを感じた。（高校２年女子）
◆紫根染の染め方だけでなく、ムラサキの花のことやお世話になった沢口さんのことなど熱心に質問された。とても興味をもってくださっていることを実感した。（高校２年男子）

【参加者の感想】
◆できあがった作品を友人へ自慢したいです。紫根染をＰＲしたい。（八幡平市　男性）
◆草木染に興味があり、身近な材料で染めて楽しんでいます。高校生の皆さんの頑張りがよく分かったし、感心しました。作品はすぐにでも使います。（滝沢市　女性）
◆田頭コミセンで発表を聞いて、体験したいと思いました。とても楽しかった。今後の活動、発表を楽しみにしています。（八幡平市　女性）

家庭：全国家庭クラブ研究発表大会

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】　第６７回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会
【日　　時】　令和元年８月１日（木）・２日（金）
【場　　所】　兵庫県　姫路市文化センター　大ホール
【大会概要】

全国高等学校家庭クラブ員の日頃の研究活動の発表と全国連盟の総会を行い広く全国につながる連帯感のもとに会員相互の研修を深め、家庭生活並びに地域社会の向上発展に資する。

（１）「学校家庭クラブ活動の部」に東北ブロック代表として出場
（２）参加者数1,500名　各ブロック代表７校が発表
本校からは６名の生徒が参加
家政科学科３年　神田　瞳（発表）　大森愛実（パソコン操作）
工藤　蘭（実物提示）　齋藤まなみ（実物提示）
家政科学科２年　伊藤優衣（照明）　盛内柚城（パソコン操作）
（３）大会結果
兵庫県教育委員会賞（第３位相当）
全国高等学校長協会家庭部会賞（全出場校）
全国高等学校家庭クラブ連盟賞（全出場校）

【写　　真】

本校生徒の発表

表彰式（兵庫県教育会賞）

【生徒の感想】

◆これまで出場した県大会や東北ブロック大会と違い、選ばれた人が集まる場であると実感したとき緊張感が高まると同時に、全国に出場することは滅多にないことなので、その場に自分がいられたことに感謝の気持ちが湧いてきました。ほかの発表を見るのも勉強になりました。（３年女子）

◆去年と併せて２回参加しました。今回は後輩と一緒だったので、手本になるよう心がけたり、「伝える」ことを意識しました。練習でやったことをそのまま本番でも発揮することができたと思います。（３年女子）

◆題目設定をしっかり行うこと、何を伝えたいのか何のために実験するのかを考えて活動しなくてはいけないと感じました。県大会で最優秀賞を取ることも難しいのに、全国大会で３位に入賞したことはすごいと思いました。（２年女子）

家庭：全国産業教育フェア意見体験発表

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】　第29回全国産業教育フェア新潟大会（意見・体験発表　家庭部門）
【日　　時】　令和元年10月26日（土）
【場　　所】　新潟県新潟市　朱鷺メッセ
【大会概要】
　専門高校等の学習成果を総合的に発表することにより、全国の専門高校生の学習意欲や産業界、国民一般への専門高校等の魅力的な教育内容について、理解・関心を高めるとともに、新たな産業教育のあり方を探る。
（１）家庭部門に全国の代表として出場
（２）10部門で代表者が発表
　　本校からは４名の生徒が参加
　　神田　瞳（発表　家政科学科３年）
　　大森愛実（パソコン操作　家政科学科３年）
　　工藤　蘭（実物提示　　家政科学科３年）
　　伊藤優衣（実物提示　　家政科学科２年）
（３）奨励賞（全参加者）

【写　　真】

本校生徒の発表

発表者の集合写真

【生徒の感想】
◆将来の夢のために具体的に知識を学んでいたり、研究を深めていく中で知らないことを理解する喜びや仲間と協力する大切さなど学べたので良かったです。（２年女子）
◆周りの学校のクオリティが高くて、すごかった。一人ひとりが体験したことを細かく発表していたので、自分が行っていることや将来のことをちゃんと考えている人が多いなと思った。（３年女子）
◆スライドを使わずに身振り手振りで発表していた人や原稿を全く見ないで発表している人がいて、すごいと思った。産フェア全体が、大きな文化祭のような感じだった。販売の人が一人ひとり声を出したり、話しかけに来てくれたので、見てみようかなと言う気持ちになりました。地域のお祭りや出前授業などを行うときは、自分から積極的に声をかけていくことが大切だと思いました。（３年女子）

家庭：実技講習会

岩手県立久慈東高等学校

【事 業 名】　食物系列３年　西洋料理実技講習会
【日　　時】　令和２年１月２２日（水）
【場　　所】　久慈東高等学校　専門調理室
【事業概要】

岩手の食材や調理器具の持ち味を生かし、料理によって地方活性化に貢献されているシェフの生き方、枠にとらわれない自由な発想と料理の感性などの身近に触れ、食材の持ち味を生かす技術の向上と自身の将来の展望を探る。

（１）講習会日程及び内容

１０：００　講師紹介、講話及びデモンストレーション
講　　師　伊 藤 勝 康 氏（ロレオール田野畑オーナーシェフ）
１０：３０　実　　習
１２：１５　試　　食
〈献立〉「短角牛のローストビーフ」　～山葡萄ソース～
付け合わせ：椎茸・赤カブ・寒締めほうれん草
「鱈のポワレ～ミルク仕立て～」
「鱈キクのポワレと早採り若布のスープ」
「菜花入りライス」

（２）参加者数

食物系列３年　１８名

（３）参加者の様子

講師紹介の後、シェフのお話を交えながらのデモンストレーション。使用する食材の特徴やレシピはあくまでも参考であること、材料は一つ一つ違うため、音・目触って固さを確かめ、常に味の確認をしていくことが大事というお話から、調理へと入りました。いつもの調理実習のようなレシピプリントは一切ありません。伊藤シェフの指示を聞き逃すまいと、メモを取ったり自らシェフに質問・確認をする姿があちこちで見られました。いつも以上に五感をフルに使い、真剣に取り組み、塩のみの調味でも素材の味がしっかりしていれば十分美味しくなることを学べたようでした。

普段の実習でなかなか扱えない地元産の牛ブロック肉など、地元食材を使用し、シェフが普段使用している南部鉄器のフライパンやグリルパンを使用させていただき、地元地域の良さと誇れるものを改めて確認することができた実技講習会となりました。

【写　　真】

【生徒の感想】
◆今日の西洋料理講習会を通して料理に対する考え方が少し変わりました。今日作った料理のほとんどが塩のみで調味しました。料理というと数種類の調味料を使って味付けするイメージが強くありました。特にも西洋料理なら様々なソースを使い分けたり、バターで香りづけをしたりという考え方でした。塩だけで調味しても素材の味がしっかりしている分、とても美味しいと感じました。そして細かい所もでも美味しくさせる技がありました。例えば肉を焼くときにはあまりいじらず音で感じ、目で見て、触って固さを確かめたりすることが大事だと教わりました。授業でも五感を使って料理をするとありましたが、いつも以上に五感をフルに使っていた印象があります。この他には味見を何度もして確かめることが大切であるとも教わりました。同じように作っていても、材料に含まれる水分量やちょっとした火加減でもかなり変わってくるそうなので「これくらい入れたから大丈夫」「レシピはこうだから」などと思うことなく常に味の確認をしていくことが大事だと思いました。（３年男子）
◆伊藤シェフが講習会の序盤で話してくださった「田野畑」で自分のお店を出そうと思った理由の「大自然の中で暮らしていたら都会に帰りたくなくなった」ということにうれしくなりました。もちろん理由はそれだけではないと思うのですが、都会に比べたらなにも無く、不便と思うことも色々あると思います。その中でも自分達の地元の近くを選んでくださったことが有難いことだと思います。話をしてくださっている姿や実際に自分達のところに来て教えてくださる姿を見てどこか余裕があり、堂々と接してくださる姿がかっこいいと思いました。料理に使用する器具も岩手のものを使っていて、良い食材と使う器具で色々な方に愛される美味しい料理が出来ているのだと感じました。南部鉄器の扱い方は岩手に住んでいながらも知らないことがありました。食材だけでなく、器具や食器にもこだわることも調理する側として大切なことだということがわかりました。また、味覚はもちろんのこと嗅覚、聴覚、視覚など五感をすべて使い、出来上がりを見極めなくてはならないと学べました。（３年女子）
◆今回、伊藤シェフの講習会を受けてレシピがないことに驚きました。しかし、レシピがないことで、いつもより食材を見ることができたと思います。しかも、調味料はほとんど塩しか使っていなくて食材のうま味を生かした料理とはこういうことだと理解することができました。いつもはレシピに書いてある焼き方、煮方をしているので、レシピが絶対正解だという概念に固定されていました。シェフがおっしゃっていた食材に対してどう対応するかという思考があるとないとでは、おいしさが違うことを学びました。また、食べるもの全て一期一会、全ての「味の記憶」をするという話は、これから技術向上するために絶対必要だと思いました。味を知っていると知らないとでも差はあるが、味を覚えているのと覚えていないとの差も大きいと感じました。これから食べるもの全て自分の知識にできるように、全て吸収するつもりで努力していきたいと思います。伊藤シェフのように常に工夫して、料理を楽しめる人になりたいです。（３年女子）

家庭：実技講習会

岩手県立北上翔南高等学校

【事 業 名】　フラワーアレンジメント講習会
【日　　時】　12月９日（月）
【場　　所】　北上翔南高等学校保育技術室
【事業概要】
　学校設定科目「生活教養」を選択している生徒を対象に、フラワーアレンジメントの基礎基本を習得させる。
（１）実技講習会の内容
　　外部講師の指導を受け、クリスマスから年末にかけて飾ることのできるフラワーアレンジメントに取り組みました。同じ花器、花材、資材を用いているが、個性あふれる作品となり、校舎内や家庭生活を豊かにすることに役立てられました。
（２）対象生徒数　１４名

【写　　真】

【生徒の感想等】
　７月にオールラウンドでの基礎基本のフラワーアレンジメントを体験し、花の切り方、生け方の基礎を学びました。２回目の12月は、クリスマスから年末にかけて飾ることのできるフラワーアレンジメントの応用作品に取り組みました。花器や給水スポンジも横に広く、花材も多く、フラワーアレンジメントの構成が難しかったです。講師の先生の見本を参考にしたり、一人一人のイメージを、時間をかけてかたちにしたりして、完成させることができました。今回は、姫りんご、ドライの資材、綿など、生花以外の材料も用いて、個々に工夫を凝らした作品に仕上がりました。できあがった作品を家に持ち帰ると、家族にとても喜ばれ、嬉しかったです。

家庭：実技講習会

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】　家政科学科「そば打ち」伝承学習
【日　　時】　令和２年２月７日（金）　１０：００～１１：５０
【場　　所】　本校調理実習室
【事業概要】
　参加人数　家政科学科１年　10名参加
　講　　師　八幡平市食生活改善推進員連絡協議会　中軽米こう子氏
　目　　的　日本の伝統料理であり、地域の郷土食でもある「そば打ち」を体験的に学習し、地域の観光資源や郷土の文化伝承について考え、日本の伝統文化の理解を深める。また培った技術を次の世代へ伝える意義を理解する機会とする。

【写　　真】

【生徒の感想】
◆そばは、乾燥が苦手ということで、時間との勝負だということがよくわかりました。少しの水加減で、のばしにくかったり、くっつきやすくなってしまったり、繊細なのですが、先生に丁寧に見ていただいてうまく行うことができました。
◆そば打ちは初めてでしたので、うまく行かないところもありましたが、班の人と協力して作ったので、達成感もありとてもおいしくできました。先生の説明がわかりやすく、作業工程に細かいこつがあることがわかり、スムーズに作業することができました。
◆初めてのそば打ちで、道具も初めて使うものばかりで戸惑いましたが、先生に教えていただき、太めではありますが、おいしいそばができました。文化祭の食堂で、お客様に提供できるように、これから何回も練習を重ねて、自分達のそばが打てるようになりたいです。
◆先生に郷土の食文化の大切さや、栄養バランスのとれた食事の重要性を教えていただき、改めて自分の食生活を振り返ることができました。地元の食材を大切にし、手作りの良さを受け継いで行きたいと思います。

家庭：職場見学会

岩手県立紫波総合高等学校

【事 業 名】　令和元年度企業見学
【日　　時】　１０月１０日（木）
【事業概要】
　総合学科の各系列に関連した企業等を見学することにより、職業観育成の一助とすると共に、早期の進路選択を促すことを目的として実施する。
【見学場所と参加者数】

系　列	見　学　場　所	参加者数
情報・経済	（有）小専商店SUPERオセン北上店	２９
エコロジー・フード	小岩井乳業株式会社 盛岡市中央卸売市場	３２
ライフデザイン	花巻温泉株式会社	１９
福祉・健康	社会福祉法人石鳥谷会　特別養護老人ホームいしどりや荘	２６

【写真】（オセン見学風景）

スーパーオセン見学風景

（花巻温泉見学風景）

花巻温泉見学風景

【生徒の感想】
●他のお店よりも安く売ること、「ありがとう」や「いらっしゃいませ」といったあいさつを心がけることなどに力を入れていること、最終的にはお客様が楽しく帰れるようにすることが務めだというお話をされていて、社会の大変さを知りました。
＜情報・経済系列＞
●小岩井は地名ではなく、３人の創業者「小野」、「岩崎」、「井上」の頭文字を取ってつけた名だそうです。ミルク200mlで、カルシウムが227mg、エネルギーが138kcal摂れるなんて初めて知りました。＜エコロジー・フード系列＞
●各館のイメージカラーのカーペットを敷いて今自分がどこにいるのかをわかるようにするなど、お客様が快適に過ごせるよう細かいところまで工夫されていました。３つの館でそれぞれ出される料理は違い、四季折々の和風、洋風の料理を飽きずに楽しむことができるそうです。サービス業は本当に大変な仕事なのだと思いました。
＜ライフ・デザイン系列＞
●車椅子の高齢者が入居者の９割を越えているので、掲示物を見やすいように全体的に低く掲示していた。これから高齢者がどんどん増えていくので、支えていくのが大変だと思った。＜福祉・健康系列＞
【まとめ】
　現場を見学しながら説明を受けることによって、職業への理解が深まり、進路選択への意識がより一層深まった。次年度１年次でも実施を検討している。

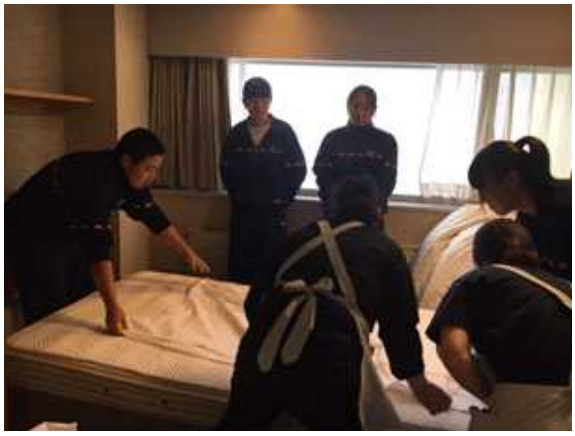
家庭：職場見学会

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】　「生活産業基礎」第３回職場見学・実習
【日　　時】　令和元年12月３日（火）　9：00～15:00
【場　　所】　ホテル安比グランド
【事業内容】　家政科学科１年　10名参加

9:00～ 9:30	オリエンテーション
9:30～10:20	仕事をするにあたり接遇の確認
10:20～11:15	フロント業務の流れ
11:15～12:00	フロント業務・館内見学
13:00～14:00	料飲部　バンケットセッティング
14:00～15:00	エリア・館内見学

【写　　真】



室内清掃実践

バンケットセッティングの学習

【生徒の感想】
◆ホテルマンとして困っている人がいるのに自分から声をかけに行かないのは失格という話を聞いて、私はホテルマンに限らず日常生活でも同じことだと感じました。普段生活している中でも、自分のことだけにとらわれず常に周りを観察して「気づく」ことが大事だと学ぶことができました。
◆これまで、宿泊する客としての立場からしかホテルの仕事を見ていなかったのですが、働く人の立場になってホテルの仕事を考えると、これまでと違いたくさんの気遣いがあることを学びました。
◆ホテルではお客様に「非日常空間」を提供するという気持ちで仕事をされていることも初めて知りました。スタッフの方々は、相手の気持ちを察することが得意になっていて、困っている人がいたら、自分から声をかけること、「できない、ありません、しりません。」という前に、方法を考えることは日常生活でも大切なことなので、高校生活でも心がけの一つにしたいです。
◆今回のホテル実習で学んだホテルマンとしての心得や礼儀などを、今後の日常生活や社会に出たときにとても大切なことなので、役立てていきたいと思います。

家庭：中学校技術家庭部会実践交流会

岩手県中学校教育研究会技術・家庭科部会

【大会名】　実践交流会２０１９
【日　時】　令和元年　８月　２日（金）
【場　所】　イーストピアみやこ
【事業内容】
１　研究主題を以下とする技術・家庭科教育の研究
「学んだ知識・技術を活用し，よりよい生活を求めて実践する力を育む授業の研究」
～共に学ぶ活動を通して～
２　講演会
「　震災を乗り越えて　～限りない海への挑戦～　」
お魚かたりべ（水産庁長官任命）岩手県指導漁業士
宮古湾の藻場・干潟を考える会会長　　山　根　幸　伸 氏
３　実践交流
技術領域２分科会
家庭領域２分科会
計４分科会

【写真】

講演会

実践交流

【事業紹介】

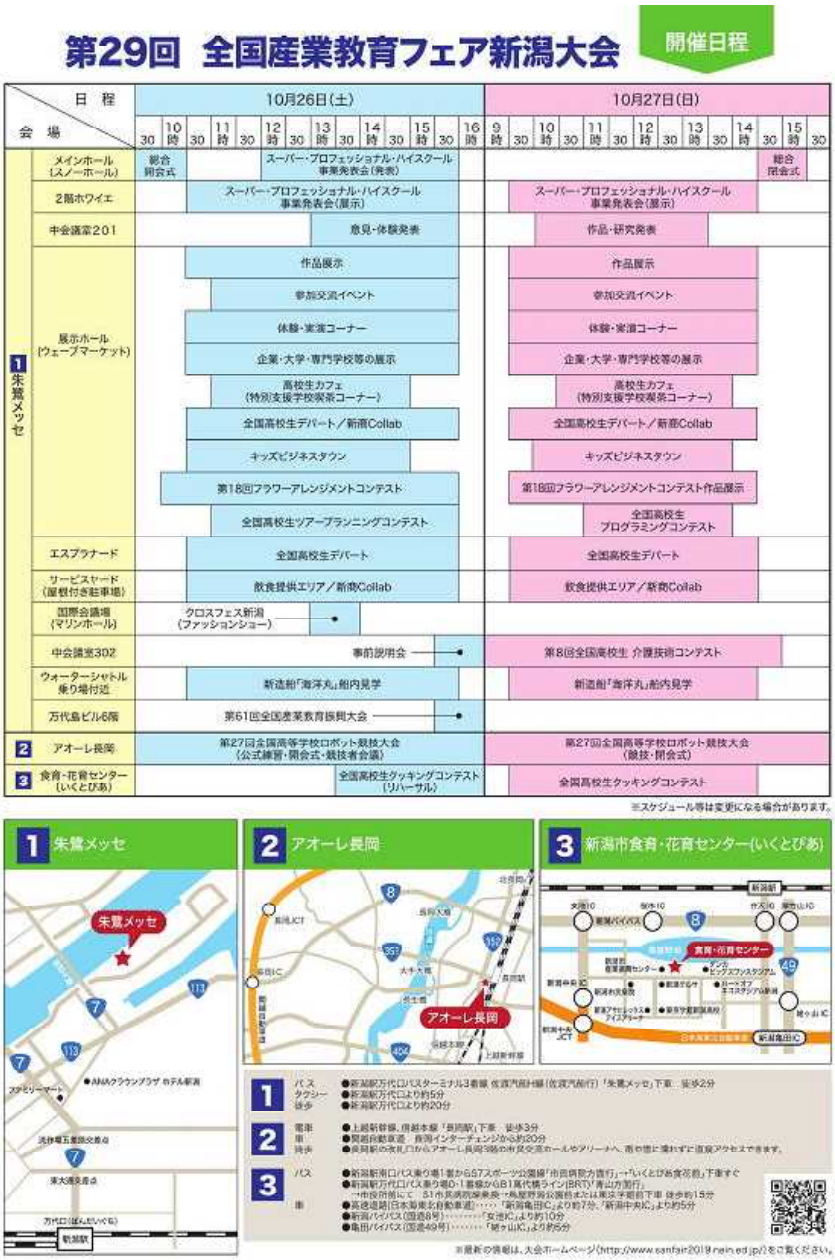
「実践交流会２０１９」を宮古市のイーストピアみやこで開催しました。参加者数は６６名で、午前中は講演会、午後は４分科会に分かれ実践交流会を行いました。講演会では、宮古湾の藻場・干潟を考える会会長の山根幸伸氏に、震災からの復興に取り組んでいる様子について、スライドを交えながらお話いただきました。午後に開催した実践交流では、技術領域２分科会と家庭領域２分科会に分かれて、日頃の授業実践や研究の交流を行いました。

今回の交流会では、宮古・下閉伊地区の技術・家庭科の先生方が様々なアイディアを持ち寄り、会場の選定や講師手配等の準備をして下さいました。参加者の評判も上々で、有意義な交流会になりました。

これからも、県研究部・県事務局と各地区の研究会との繋がりを大切にしながら、子どもたちのために研究を更に深めてまいりたいと思います。

さんフェア新潟２０１９

朱鷺メッセ


第29回 全国産業教育フェア新潟大会
開催日程
日程
会場
10月26日(土)
10月27日(日)
1 朱鷺メッセ
メインホール(スノーホール)
総合開会式
スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業発表会(発表)
総合閉会式
2階ホワイエ
スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業発表会(展示)
中会議室201
意見・体験発表
作品・研究発表
展示ホール(ウェーブマーケット)
作品展示
参加交流イベント
体験・実演コーナー
企業・大学・専門学校等の展示
高校生カフェ(特別支援学校喫茶コーナー)
全国高校生デパート/新商Collab
キッズビジネスタウン
第18回フラワーアレンジメントコンテスト
第18回フラワーアレンジメントコンテスト作品展示
全国高校生ツアープランニングコンテスト
全国高校生プログラミングコンテスト
エスプラナード
全国高校生デパート
サービスヤード(屋根付き駐車場)
飲食提供エリア/新商Collab
国際会議場(マリンホール)
クロスフェス新潟(ファッションショー)
中会議室302
事前説明会
第8回全国高校生 介護技術コンテスト
ウォーターシャトル乗り場付近
新造船「海洋丸」船内見学
万代島ビル6階
第61回全国産業教育振興大会
2 アオーレ長岡
第27回全国高等学校ロボット競技大会(公式練習・開会式・競技者会議)
第27回全国高等学校ロボット競技大会(競技・閉会式)
3 食育・花育センター(いくとぴあ)
全国高校生クッキングコンテスト(リハーサル)
全国高校生クッキングコンテスト
※スケジュール等は変更になる場合があります。
1 朱鷺メッセ
朱鷺メッセ
2 アオーレ長岡
アオーレ長岡
3 新潟市食育・花育センター(いくとぴあ)
食育・花育センター
1 バス タクシー 徒歩 ●新潟駅万代口バスターミナル3番線 佐渡汽船行(佐渡汽船行)「朱鷺メッセ」下車 徒歩2分
●新潟駅万代口より約5分
●新潟駅万代口より約20分
2 電車 車 徒歩 ●上越新幹線、信越本線「長岡駅」下車 徒歩3分
●関越自動車道 長岡インターチェンジから約20分
●長岡駅の改札口からアオーレ長岡3階の市民交流ホールやプリーナへ、雨の日に濡れずに直接アクセスできます。
3 バス 車 ●新潟駅南口バス乗り場1番から57スポーツ公園線「市民病院方面行」→「いくとぴあ食花前」下車すぐ
●新潟駅万代口バス乗り場D-1番線から81萬代橋ライン(BRT)「青山方面行」
→市役所前にて 51市民病院線乗換→「鳥屋野潟公園前」または東区予約制下車 徒歩約15分
●高速道路(日本海東北自動車道)……「新潟亀田IC」より約7分、「新潟中央IC」より約5分
●新潟バイパス(国道8号)……「女池IC」より約10分
●亀田バイパス(国道49号)……「鳥ヶ山IC」より約5分
※最新の情報は、大会ホームページ(http://www.sanfair2019.nein.ed.jp/)をご覧ください。

開催日程

フェア新潟2019

メイン会場展示

農業部会展示

千厩高等学校の展示

ロボット競技

盛岡工業　ME2019
水沢工業　白虎

実習船海洋丸エンジン

フラワーアレンジメント会場

金賞受賞作品

高校生デパート

令和元年度「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」募集要項

公益財団法人産業教育振興中央会
公益社団法人経済同友会

１．趣旨

グローバル化や技術革新が進む中、少子・高齢化に伴う生産人口の減少や現役世代への負担増、若年層の大都市圏への流出による地方経済の縮小や深刻な人手不足など、日本の社会や産業は様々な課題を抱えている。これらを克服し我が国が発展し活力ある社会を築いて行く上で、「しごと」に直結する知識や技術を学ぶ専門高校には、大きな期待と役割が求められている。

このため、将来の日本の産業・企業を支える専門高校の生徒の学習意欲の高揚を図るとともに専門教育に対する社会からの関心を高め、専門高校の活性化を図るため、専門高校の生徒を対象に、（公財）産業教育振興中央会及び（公社）経済同友会の共催により「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」を実施する。

２．応募資格

専門教育を主とする学科（専攻科を除く。総合学科を含む）に在籍する高等学校生徒

３．作品募集内容

(1)研究文の部

・個人またはグループによる専門教育に関する研究・実験・調査等の研究の成果をまとめたものであること。
・未発表のものであること。
・A4判縦型（1ページは、22字×38行×２段）８ページ以内（写真・図表等を含む）とし、電子データで作成すること。
・タイトル、学校名、学科名、学年、氏名は、最初のページの頭に、横２段に通して10行分（左段10、右段10計20行分）に入れること（原稿１枚目のみ）。
・写真･図表等がある場合は、その分の余白（標準１段８行分）を取り、挿入個所をご指定するか、原稿に直接貼り付けること。

(2)作文の部

・個人が現に学んでいる専門教育での体験について、感想・決意・抱負・将来の仕事などを述べたものであること。
・未発表のものであること。
・A4判縦型（1ページは、22字×38行×２段）２ページ以内とし、電子データで作成すること。
・タイトル、学校名、学科名、学年、氏名は、最初のページの頭に、横２段に通して10行分（左段10、右段10計20行分）に入れること（原稿１枚目のみ）。

4．応募方法

(1)応募作品は、学校所在地、学校名、学科名、学年、氏名を明記した表紙（A4判）を添付し、学校長を経由して、学校所在の各都道府県産業教育振興会宛（振興会の定める必要部数を期日まで）に提出すること。

(2)各都道府県産業教育振興会においては、応募作品を取りまとめ、９月20日(金)までに作品1部と電子データを産業教育振興中央会宛に送付すること。

5．審査

農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉の各専門高校校長協会及び経済同友会より推薦された者を審査委員として、10月下旬までに応募作品を審査し、「研究文」及び「作文」のそれぞれについて最優秀賞、優秀賞、佳作、経済同友会賞を決定する。

6．審査結果の発表等

審査結果については、産業教育振興中央会より各振興会長宛に通知し、学校長及び本人に伝達を依頼するほか、月刊誌「産業と教育」の誌上で発表する。また、併せて、経済同友会HP「みんなで描くみんなの未来プロジェクト」サイトに掲載する。

なお、入選作品（最優秀賞、優秀賞等）については、本会の文集「'翔,」第２９集（平成３１年度版）として刊行し、教育諸機関へ頒布する。また、経済同友会HP「みんなで描くみんなの未来プロジェクト」サイトに掲載する。

(1)入選作品の掲載に際し、その本質を損なわない範囲で、字句の削除、修正をすることがある。

(2)応募作品は返却しない。

(3)今回の募集で得た個人情報は、受賞者への連絡及び受賞作品の出版、webサイトへの掲載以外には使用しない。

7．表彰

(1)産業教育振興中央会より「研究文」及び「作文」ごとに次の表彰を行うものとし、賞状と副賞（図書カード）は、所属学校長を経由して本人に伝達する。

副賞（図書カード）

			「研究文の部」	「作文の部」
最優秀賞	研究文・作文	各１編	15,000円	10,000円
優 秀 賞	研究文・作文	各２編	10,000円	5,000円
佳　　作	研究文・作文	各５編	3,000円	2,000円

(2)経済同友会における表彰については、賞状と盾を授与する。

経済同友会賞　　研究文・作文　　各３編

令和元年度　岩手県産業教育振興会主催
「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」募集要項

1　主　　催　　岩手県産業教育振興会
2　趣　　旨　　産業の各分野における急速な技術革新の進展に伴い、専門教育の充実に新たな期待が寄せられている。このため、専門高校に学ぶ生徒の自覚と学習意欲の高揚を図るとともに、専門教育に対する社会的な関心を高めることに役立てるよう、研究文・作文を募集し、表彰を行う。
3　応募資格　　専門教育に関する学科・コース(専攻科を除く)に学ぶ高等学校の生徒であること。
4　内　　容
（1）　研究文の部
・個人またはグループによる専門教育に関する研究・実験・調査等の研究の成果をまとめたものであること。
・未発表のものであること。
・Ａ４判縦型(１ページ22字×38行×２段・フォントサイズ10.5ポイント)６ページ以内とし、電子データで作成すること。
・タイトル、学校名、学科名、学年、氏名は、最初のページの頭に、横２段に通して10 行分(左段10、右段10 計20行分)に入れること。(原稿１枚目のみ)
・写真･図表等がある場合、その分の余白(標準１段８行分)を取り、挿入個所を指定するか、原稿に直接貼り付けること。
（2）作文の部
・個人が現に学んでいる専門教育での体験について、感想・決意・抱負などを述べたものであること。
・未発表のものであること。
・Ａ４判縦型(１ページ22字×38行×２段・フォントサイズ10.5ポイント)２ページ以内とし、電子データで作成すること。
・タイトル、学校名、学科名、学年、氏名は、最初のページの頭に、横２段に通して10 行分(左段10、右段10 計20行分)に入れること。(原稿１枚目のみ)
※　なお、研究文・作文とも未発表のものに限るが、今年度の県内の研究会等において発表したものについては、未発表として取扱うものとする。ただし、県代表として東北大会以上で発表したものは既発表として扱う。

5　応募方法　　応募作品は学校所在地、学校名、学科名、学年、氏名を明記した表紙を添付して校長を経由して岩手県産業教育振興会あてに送付すること。

6　表　彰
岩手県産業教育振興会では入選作品について、記念品を添えて次のとおり表彰する。
ア　最優秀賞　　研究文・作文各１編
イ　優 秀 賞　　研究文・作文各１編
※　研究文については担当した生徒全員を表彰する。

産業教育振興中央会・経済同友会主催
専門高校生による研究文コンクール
優秀賞並びに経済同友会賞　受賞作品

ツバキでつなぐ気仙

～廃材を利用した加工品開発～

岩手県立大船渡東高等学校　農芸科学科３年

花輪美月　田村倖汰朗　鈴木沙耶加　長野修也　吉田　裕

１．始めに

私たち造園専攻班は、これまで５２年間、大船渡市と連携しながら植樹、椿増殖の活動や県の天然記念物に指定されている「三面椿」の保護活動、

そして気仙の花「椿」を活用して、様々な加工品（燻製、装飾花、食用花など）の「商品開発」に取り組んできました。

しかし、これまでの活動は、決して大船渡の椿を普及の普及に貢献できたと言えるものではありませんでした。

図１　平成１４年の台風で損傷した三面椿の保護活動の様子

図２　左上から鳥肉燻製、プリザーブドフラワー

下段ドライフラワー、エディブルフラワー

２．計画

私たちは、その原因が、産業、学校、自治体が、各々がばらばらの活動になっているからで、それは、気仙全体で取り組むことが大切であると考え、

１．持続性のある椿産業の創造

２．産学官三位一体の連携の実現

を目指して、段階的に以下の到達目標を設定しました。

第１段階（episode１）では、産学官連携活動の土台を構築する。

第２段階（episode２）では、産学官連携活動を進展させる。

第３段階（episode３）では、持続的可能な産学官連携活動のため、新たな産業を創造する。

３．実践

◎episode１実践（2017年12月～）

まず連携先の確保を最優先課題として取り組みました。

その結果、企業（産）は、陸前高田市（現在、大船渡市）に本社を置く株式会社バンザイファクトリー、自治体（官）としては大船渡市各課と、「産学、学官」の連携活動をスタートさせることが出来ました。

しかし、バンザイファクトリーとの検討会で、「本当の商品開発になっていない」

という厳しい意見を頂きました。これまで、椿を利用して何かを作れば商品開発だと考えていまし

たが、産業に結びつかない無責任な製造は、商品開発では無いことを痛感しました。

図３　2017 年 11 月 14 日バンザイファクトリーでの検討会の様子

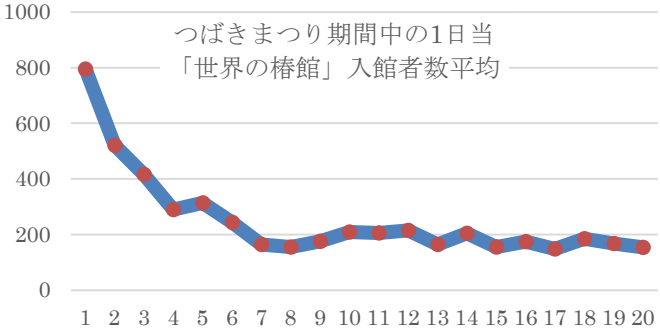
また、連携活動の一つとして、バンザイファクトリーが慈善事業の一環として行っている「レッドカーペットプロジェクト」に参加しました。これは、大船渡市や陸前高田市の花が「椿」であることから、被災した海岸沿いや市内各所の空地を椿の花で敷き詰めようという活動です。その植樹活動で使用する苗は、本校の椿苗を提供し、市民を初めとして、気仙を訪れた県外の方々と共に植樹活動を行いました。

図４　神奈川県から民泊で訪れた高校生と植樹した圃場の前で

◎episode２実践（2017～2018 年）

Episode１の活動を更に発展させるため“産学官連携から地域産業の創造”を目標に、商品開発に取り組みました。

始めは、地域振興や資源の活用を目標に、大船渡市が椿の里を推進していることから、椿産業の現状について調査しました。その結果、企画調整課の菊池さんとの検討会の中で、「１月から３月の長期間に開催されるつばきまつりへの入場者数の減少を見ても、未だ産業への結びつきが少ない。」という話を伺い、実際は、椿産業が盛り上がっていないことが課題として挙げられました。

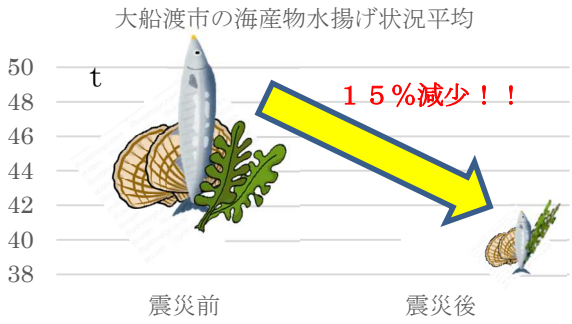


図表１　縦軸：延べ人数、横軸：開催年度

更に、地域資源の発掘に着手し、本校生の意識調査を行ったところ、サンマやワカメなどの海産物との答えが大半を占める結果となりました。

そこで、初めは、大船渡の代表的な資源であるサンマを活用し、椿燻製による高付加価値商品の開発に着手しました。方法は、バンザイファクトリーが販売している加工食品を応用し、海塩、みりん等を混合した液につけ込み、椿の廃材をチップにして燻製する方法です。しかし、この年、サンマは大不漁となり、原料の確保が出来無かったため、これ以降の開発は断念しました。

そのため今後の、展望を計るため、海産物の近年の水揚げ量調査したところ、震災前と比較して、１５％も減少しているのが現状でした。



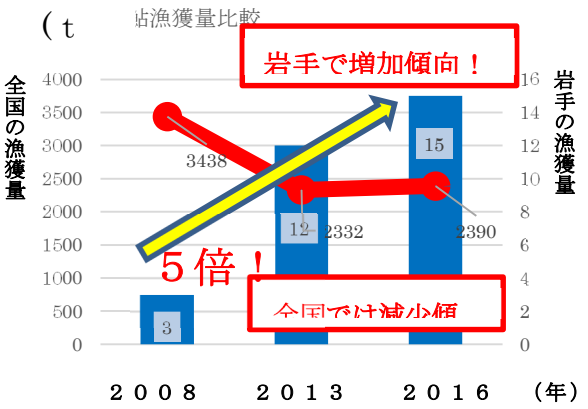
図表２　大船渡市水揚げ量のイメージグラフ

そこで、私たちは、椿と組み合わせる新たな資源として、鮎に注目しました。

理由は、気仙には、天然鮎の全国の１００名川に選ばれている気仙川･盛川があり､調査の結果、鮎はビタミンＡ・Ｅ、カリウム、カルシウムをはじめとして、食品としての機能が、優れていることがわかったからです。

また、鮎の漁獲量を見てみると、全国的には、減少傾向にありますが､岩手県における漁獲量は、２００８年からの統計で、約５倍に伸びていることがわかりました。

このことから私たちは、気仙の復興と気仙全体で取り組むことができる新たな産業の創造から更なる振興を目標に以下のとおり実践しました。



図表３　全国と岩手の鮎漁獲量比較

◎episode３実践（2018～2019 年）

〇実践１

始めに、地域企業との連携の強化に取り組みました。

商品開発を行うに当たって、私たちだけでは困難である材料の確保として、バンザイファクトリーから原料鮎、そして、大船渡で奇跡の復活を遂げた「酔仙酒造」から「酒粕ねり」１００ｋｇを無償提供していただきました。

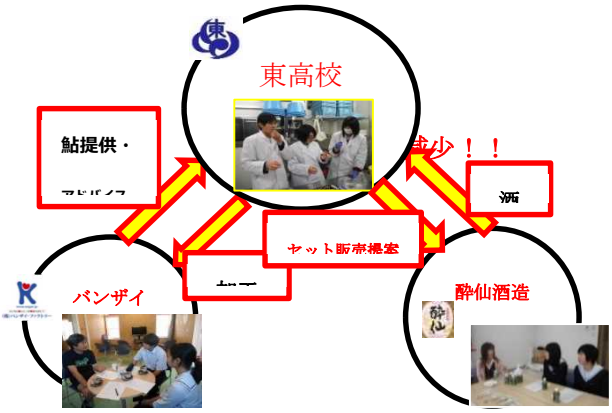


図４　連携イメージ図

〇実践２

商品開発を行うに当たり、まず、明確なコンセプトとして健康と観光、ターゲットは高齢者及び観光客に設定しました。

大船渡を訪れた観光客の方々が、大船渡の思い出としてのお土産で買っていってもらえるような商品。家族で来られたときは、おじいちゃんやおばあちゃんに安心して食べて頂けるようなお土産を目指しています。

また、販売までのプロセスとして、開発した商品は、現在、バンザイファクトリー高橋社長の協力の下、ラグビーワールドカップが開催される９月の販売に向けて、準備を進めています。

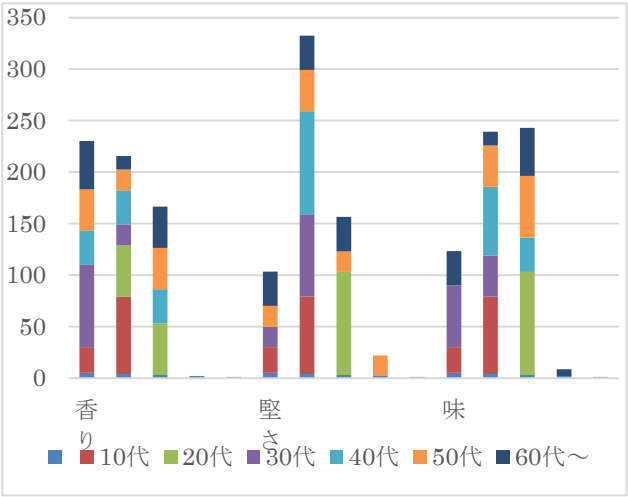
また、販売する際は、製造方法の独自性を本県や他県の他の鮎商品との差別化を強調したいと考えています。それは､発酵後に燻製にする方法は、私たちが調査した限りでは日本初の技術だからです。

製造工程の詳細は、以下のとおりです。

まず原料は、産卵を終えた落ち鮎を使用しました。理由は、身が細り、廃棄または安値で取引されているためです。

最初は､episode２で実践した秋刀魚の加工方法と同じ行程で加工したところ、大船渡市産業祭での試食アンケートで好意的な評価が多かった反面､味（川魚の臭み・えぐみ）や硬さ（食感）で多くの問題点が見つかりました。

図表５　産業祭における鮎の椿燻製試食アンケート結果



左からとても良い　良い　普通　悪い　とても悪い

の５段階評価

その課題を解決するため、風味と食感の向上を目指して加工方法を見直しました。

試験の概要は以下のとおりです。

まず、草木灰が、魚のえぐみにも応用できないか試しましたが、風味そのものが失われ、失敗でした。

図６　椿灰液に鮎を浸している様子

次に、堅い食感を改善するため、発酵食品に挑戦し、塩漬け後に、糠、酒粕、塩麹へつけ込みました。しかし、これは塩辛くなってしまいました。

更に、塩抜き後につけ込んだところ、糠、塩麹は塩辛く、酒粕は、丁度良い塩加減となりました。

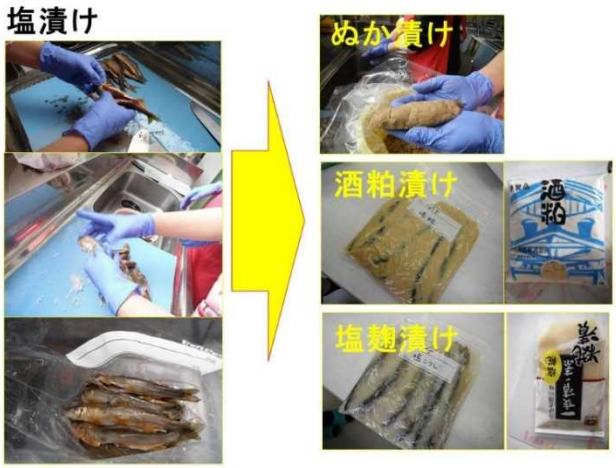


図７　鮎加工品試作の流れ

再び、手順を見直し、酒粕と糠に絞り込みました。

①酒粕漬け

・１次加工（内臓を取り除く）

・干物にする。

　塩水（３％、５％）への浸漬した後、乾燥

・酒粕へのつけ込み

・漬け込みの前・後に椿チップで燻煙

図８　鮎加工品：酒粕への漬け込み試験の流れ

②糠漬け

・１次加工（内臓を取り除く）

・糠への漬け込み

・漬け込み後に燻煙

図９　鮎加工品：糠漬け試験の流れ

以上の試験を行いました。

試験の結果は、以下のとおりに考察しました。

酒粕漬けについては、喫食の際に骨が邪魔になりましたが、燻煙の香りが酒粕との相乗効果で良い結果となり、１次加工の改善で商品化可能という結論に至りました。

ぬか漬けは、うまみは十分に有りますが、鮎自体の風味が消えてしまうため、米油やゴマなどを加えて､ふりかけとして加工することとしました。

途中経過は、アドバイスを頂いているバンザイファクトリーの高橋社長に報告し、「早急に、販売に向けて取り組みましょう」と言って頂き、この取り組みは、地元紙、東海新報で、特集記事として掲載されました。

ツバキ活用して商品開発

小枝をチップに薫製製造

バンザイファクトリーと連携

しかし、工業技術センターより指導を頂いていたとおり、燻製は、原料に含まれる水分量によって、酸味が出てしまう性質が有り、スモーク時間や温度によって酸味や苦みが際立ってしまうことが課題となり、現在、更に調整を行っています。

〇実践３

普及活動の一環として、私たちの活動をより多くの方に知って頂くため、まず、大船渡市主催のビジネスプランコンテストと、日本金融公庫が主催する高校生ビジネスプラングランプリにエントリーしました。

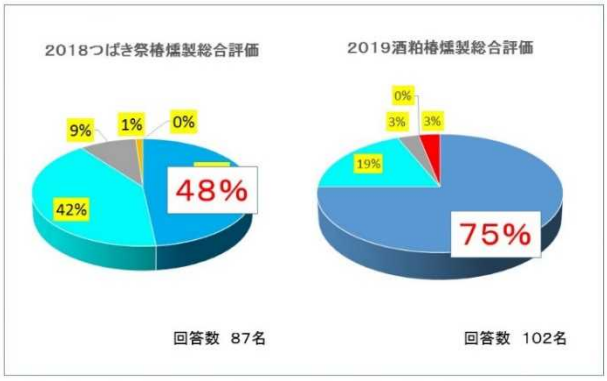
その結果、大船渡市のビジネスプランコンテストは、初エントリーながらファイナル大会に進出することが決定しました。

審査では、最優秀賞を受賞すると共に会場の皆様からの投票で決定する特別賞も頂き、大船渡市内外の企業、一般の方々にアピールすることが出来ました。普及活動を目的に参加したこのコンテストを通じて、ただ知っていただくと言うだけでなくビジネスについても多くのことを学び、単なる加工試験ではなく、ビジネスとしての商品開発についても深く学習する良い機会となりました。

図 10　大船渡ビジネスコンテスト本戦･授賞式の様子

次に、私たちの商品を評価していただく機会として､「つばきまつり」にて、試食アンケート調査を行いました。

結果は、７５％以上の方から美味しいという評価を頂きました。この結果は、昨年度のつばきまつりと比較して、２７％向上し、食味向上の課題を解決することが出来ました。



図表５　鮎加工品試食アンケート年度比較

しかし､試食の際に頂いたご意見の一つとして、

「香りが独特すぎる。」というご意見もありましたが、「食べてみたら美味しい。売り方次第だ。期待しているよ。」といって頂きました。年齢層は、５８％が５０代以上の方で、販売ターゲットも満たす結果となりました。

図表６　アンケート調査内年齢構成

〇実践４

大船渡市で実践している椿産業の振興への後押しとなる椿品種の改良を開始しました。大船渡市の活動の趣旨としては、椿油原料を確保するため実の回収を市民に呼びかけており、多くの市民からの回収を進めています。しかし、原料となる椿は、山林など回収に労力を要する場所に生育し、また、椿の実１ｋｇ1,000 個から取れる油の量が、僅か５００ｇ程度であり、５００円必要となります。また、椿の実が採れるまでには、１０年掛かることから、この活動自体が行き詰まっている状態です。そのため、大船渡市は、産業としての振興策として耕作放棄地などを中心に、市民に椿の植樹活動を推奨しています。

図 11　大船渡市が取り組んでいる椿の実回収

私たちが、目指す椿品種の改良は、椿の実に特化した椿の交配、そして、椿の里大船渡を印象づけるような花をさかせるこれまでに無い椿の品種です。

品種の選定には、岩手における椿の第一人者である世界の椿館碁石館長の林田勲氏のアドバイスとこれまでの私たちが培ってきた経験から、４品種に決定しました。

花は、同時期に開花することが第一の条件で、

図 12　上段左から昭和の誉、ヤブツバキ

下段左から金花茶、紅乙女

※全て、本校で栽培、撮影

栽培しやすく、成長が早い「昭和の誉」、椿油の主要品種となっている「ヤブツバキ」、そして、花数の多い「紅乙女」、更に、彩り添えるための「金花茶」です。

林田氏には、交配における技術講習においても協力して頂きました。ポイントとしては、開花直前のつぼみを選び、丁寧におしべを取り除き、むき出しとなっためしべに、開花したばかりの花を丁寧につけていきます。しかしながら、今年度受粉が成功したのは、１５花の内僅か３花。今年度は、この種子を大切に管理しています

図 13　林田氏より受粉技術指導を受けている様子

図 14　上段　受粉の流れ

下段　着果の様子

このような行程を経て、１０年後には、大船渡の新品種として発表し、椿油に特化した品種そして、椿の里大船渡を印象づける新たな花を咲かせる品種として、大船渡の椿産業に貢献し、造園班の長期的活動として引き継いでいきたいと考えています。

〇実践５

「椿の里計画」に賛同してくださり、本校の苗を購入して頂いた大船渡市民の方の圃場に、本校造園班生徒が伺い、植樹指導及び植樹活動を行いました。一緒に植樹活動を行う中で、10 年後の気仙についてもお話しすることが出来、私たちの活動の広がりを実感することができました。

図 15　植樹の様子と植樹した椿を前にして

４．まとめ

ｅｐｉｓｏｄｅ１では､バンザイファクトリー、酔仙酒造をはじめとする地域の企業と連携することで、研究の幅が広がり、充実した活動となりました。

ｅｐｉｓｏｄｅ２では、鮎の椿燻製の開発が進み､漬け込みや燻製の時間の微調整の段階に入り、商品化するまで間近に迫ることが出来ました。

さらにビジネスプランコンテストという新たな挑戦をすることによって、普及活動はもちろんですが、単なる加工品製造から、明確なビジネスとしての商品開発としての取り組みになりました。

ｅｐｉｓｏｄｅ３では、これまで半世紀もの間培ってきた技術を次の世代につなぐ活動を開始することが出来ました。

さらに椿の里計画に貢献し、１０年後を見据えた活動をスタートさせることが出来ました。

５．今後の課題

①９月に開催されるラグビーワールドカップに合わせて、鮎加工品の販売を開始する。

②気仙における新たな産業のモデルケースとなる様、産学官民連携体制を確立する。

６．未来への目標

私たちが目指すのは、単に鮎の椿燻製の販売だけではありません。このプロジェクトを通して、開発、加工、製造、販売を気仙全体の産学官民が一体となって取り組むことで始めて完成するものだと考えています。

図 16　産学官民が一体となって地域が振興するイメージ

７．終わりに

長い時間をかけて開発を進めているこの鮎の椿燻製の販売は、きっと新たな地域振興のモデルになるものだと確信しています。私たちが目指すのは、気仙全体が復興を乗り越えたその先の発展です。

産業教育振興中央会・経済同友会主催
専門高校生による研究文コンクール
佳作並びに経済同友会賞　受賞作品

和牛×愛＝∞

～良質な牛肉生産で目指せ和牛甲子園！～

岩手県立遠野緑峰高等学校　佐々木愛斗　菊池佳純　太田愛蘭　菊池将太

生産技術科３年　菊池浩之　金野渉弥　瀬川陸人　千田杏奈　細野直哉

Ⅰ．研究動機

本校では、小規模ですが和牛の一貫経営を行っています。本校産の子牛を育成・肥育管理し、株式会社いわちくへ出荷します。枝肉研修会を行った後、ブロック肉を買い戻し、地元で精肉・パック詰めを行い、文化祭でステーキ用と焼き肉用、すき焼き用肉として販売を行います。

毎年販売開始の２時間前から行列ができ、昨年は販売開始から２０分で完売しました。お客様からは「親戚から聞いて宮城から来たんだよ！」「毎年買いに来てるよ、本当に美味しい！」などの声をいただき、活動の励みとなっています。

また、収穫感謝祭の食材として提供し、全校生徒に味わってもらいます。事後アンケートに「美味しかった！」「また食べたい！」との文字を見ると嬉しくなります。これらの経験をとおして、「お客様に喜んでもらえる、もっと良質な牛肉を生産したい！」それが私たちの目標となりました。

しかし、昨年１月に東京で開催された第１回和牛甲子園に参加した先輩たちは、他校との差にショックを受けたそうです。

一緒に活動してきた先輩から牛を託された私たちは、「もっと努力しなければ･･･」と決意を新たに、多々ある課題の中から次の３点を目的として設定しました。

Ⅱ．研究目標

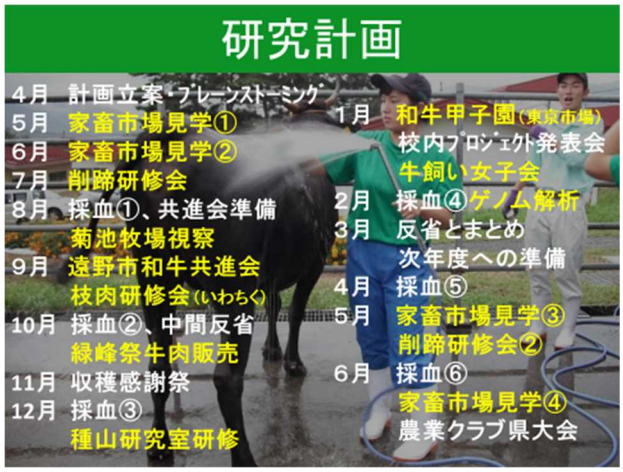
（１）血統を考慮した交配をおこなう。

（２）本校独自の飼養体系を確立する。

（３）環境改善によるストレス軽減を目指す。

Ⅲ．研究計画

計画は下図のとおりです。毎日の飼養管理に加え外部との連携を大事にし、学習を重ねてきました。



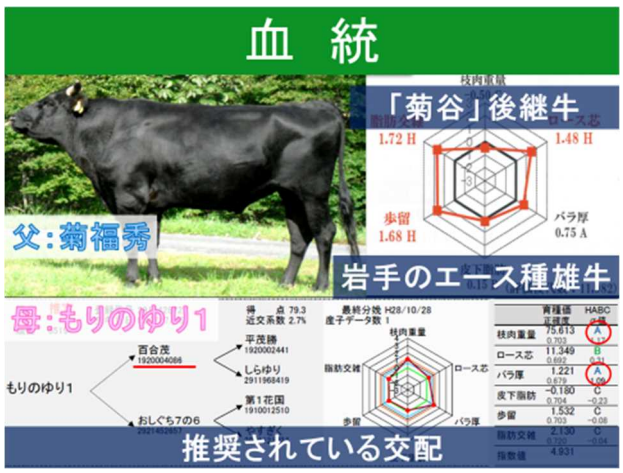
本校畜産部門の経営規模は、繁殖牛 15 頭、育成牛 11 頭、肥育牛 4 頭です。昨年の総収入は 925 万円でした。第１回和牛甲子園に出場した効果なのか、本校産子牛を購入してくださる県外の方がこの１年間で増えています。

Ⅳ．研究内容

（１）血統を考慮した交配

和牛甲子園出品牛を決める際、子牛の選定に苦慮しました。一から自分たちで育てた牛を出品したいと考え、出荷時に 26 ヶ月齢になる雅号を選びました。

雅号は、平成 28 年 10 月 28 日生まれの去勢牛です。岩手県のエース種雄牛である「菊福秀」を父に、「百合茂」を祖父に持つ牛で、推奨されている交配です。母牛の育種価は枝肉重量とバラの厚さでＡとなっています。



牛群改良を目的として、水沢農業高校と受精卵移植に関する交流学習を行いました。いただいた受精卵を本校繁殖牛に移植しましたが、残念ながら受胎には至りませんでした。

また、岩手県畜産研究所種山研究室にて種雄牛の造成に関する研修を行い、本物の菊福秀号と面会しました。菊福秀号を超える種雄牛はまだいないと聞き、そのすごさを実感しました。

同じく畜産研究所家畜育種学研究室の御協力をいただき、次の出品候補牛選定のためゲノム解析を行いました。６項目のゲノミック推定育種価を比較し、枝肉重量以外の５項目で優れていた子牛を第３回和牛甲子園候補牛として残すことにしました。

（２）飼養体系の確立

飼料は、３ヶ月齢までは北日本くみあい飼料株式会社の「スターターモーレット」を、育成期は「つぶっこ」と国産乾草を給与しました。

肥育期は「新胡四王１・２・３号」と市内の農家さんからいただいた稲ワラを給与しました。

肥育期の給与量は、下図のとおりです。10～13ヶ月齢は国産チモシーも与えました。

飼料給与量

（単位：kg）

飼料分類	商品名	月齢 10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
濃厚飼料	胡四王1号	8	9	9	9.5	10	10					
	胡四王2号							10	10	10	10	10
	胡四王3号											
	大豆粕	0.3	0.5	0.5	0.5							
粗飼料	チモシー	1	2	2	1							
	乾草	2	1	1								
	ワラ	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2

飼料分類	商品名	月齢 21	22	23	24	25	26	27
濃厚飼料	胡四王1号							
	胡四王2号	10						
	胡四王3号		10	10	10.5	10.5	10.5	10.5
	大豆粕							
粗飼料	チモシー							
	乾草							
	ワラ	2	2	2	2	2	2	2

また、次の３点を改善し、飼養管理しました。

１）血液検査を定期的に実施し、ビタミンＡの血中量をチェックしました。

２）ロース芯増大のために、大豆粕を 11～13 か月まで給与しました。

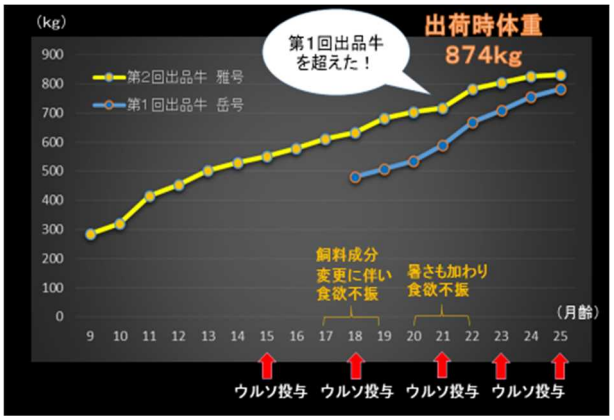
３）天然ミネラル補助飼料として「カルミンネオ」を給与しました。

血液検査の結果から、脂肪交雑の入りを左右するビタミンＡの減少は見られましたが、肥育中期に低い数値になるべきところ、少し遅れて低下していることが分かりました。

また、天然ミネラル補助飼料を給与するようになってから牛舎全体で牛が体調を崩す回数が減りました。

毎日の飼養管理には記録表を使用し、飼料残渣や体調など気がついた事をメモしました。体重測定は毎月行い、強肝剤ウルソを定期的に投与しました。

体重の測定結果は下図のとおりです。

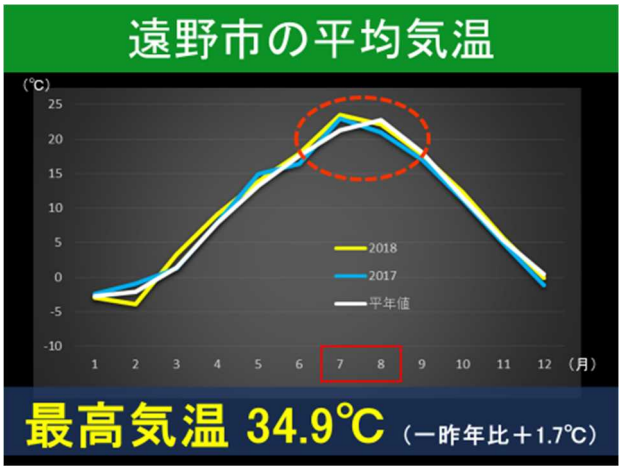


肥育期に使用していた飼料の成分変更に伴い３ヶ月ほど食欲不振が見られました。その後、夏の暑さも加わりさらに食欲減退が見られ、約６ヶ月の間不安な気持ちを抱えながら管理に励みました。何とか第１回和牛甲子園出品牛を超える体重に育てることができ、安堵しました。

（３）環境改善によるストレス軽減

肥育牛房の位置は、東向きで西日があたる時間が長いため、夏場は飼料残渣が多く、暑熱対策の必要がありました。本格的な暑さの前に、西日を遮る「よしず」と大型扇風機を設置しました。

昨年は酷暑となり、遠野市の７･８月の平均気温は平年値に比べ約１℃高く、最高気温は 34.9℃を記録しました。



暑熱対策の甲斐あって、牛舎内の気温は外気温よりも１～2℃低くなり、飼料残渣が目に見えて分かるぐらい減りました。

また、牛床マットを弾力性に富んだ「ボビレックス」に変更し、敷料も厚くしました。これにより、牛が横になって休む時間が格段に増え、四肢を伸ばして昼寝をする姿も頻繁にみられるようになりました。

しかし、牛床が柔らかいため「蹄の伸びすぎ」が新たな問題となりましたが、削蹄の回数を増やすことで改善しました。削蹄研修会を実施し、私たちも肥育牛の削蹄を体験しました。

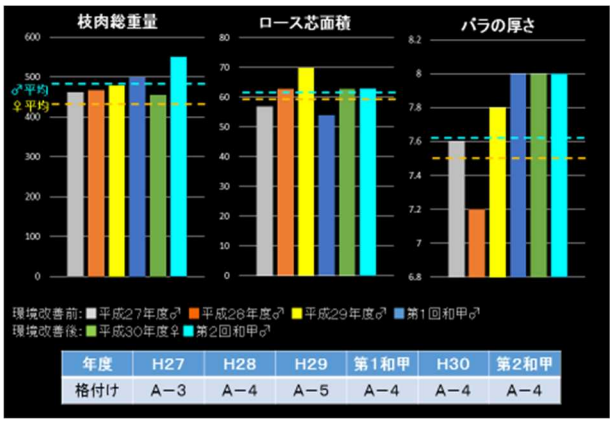
過去に枝肉に瑕疵が見られ悔しい思いをした経験から、牛房内の施設・設備にも目を配ってきました。体の大きさに合わせて飼槽の位置を微調整し、馬柵棒などが体に当たらないよう気をつけてきました。ここ３年ほどは瑕疵のない枝肉を出荷することができています。

私たちは飼養管理の際に、牛との触れ合いも大切にしています。曜日ごとに当番を決め、放課後にブラッシングを行い、ストレス軽減を目指しました。おかげで、とても懐いて扱いやすい牛になり、愛情をかけた分返してくれることが分かりました。枝肉研修会の際に、担当の方から「丁寧に育てられた牛ですね。背中にブラッシングの跡がありますよ。」と言われた時は嬉しさと寂しさが混じった涙が出ました。同時に、「もっと良質な牛肉を生産したい！」と強く思いました。

牛舎には分娩監視システム「モバイル牛温恵」を導入しました。これにより本校の分娩事故は「０」となり、より安定した繁殖経営ができています。安定した子牛生産は、肥育牛選定の幅を増やすことにつながっています。

Ⅴ．研究結果

ここ数年の枝肉成績を比較すると、枝肉重量・ロース芯面積・バラの厚さに差が見られます。牛床の改善により四肢を伸ばしてくつろぐ時間が増え、ブラッシングと合わせてストレス軽減となり、肉質の向上につながったと考えます。牛舎環境を整備することはアニマルウエルフェアの概念にも相当し、牛にも飼育者にも利点があります。



年度	H27	H28	H29	第1和甲	H30	第2和甲
格付け	A－3	A－4	A－5	A－4	A－4	A－4

飼養体系の改善による効果については、今後の枝肉成績と継続した比較が必要です。

今年の１月１７・１８日に東京で開催された第２回和牛甲子園に何とか仕上げた「雅」号を出品してきました。見送りの際には別れの涙が流れました。しかし、立派になった枝肉を見ることができ、生産することの意味を感じました。雅号はＡ－４ランクに格付けされ、およそ 120 万円の売上げとなりました。悔しさが残りましたが、解説の方から「26 ヶ月齢としては立派です。無駄のない、しっかりと仕上げた枝肉ですね。」と講評をいただき救われました。

Ⅵ．研究の成果

（１）血統を考慮した交配について学び、県種雄牛を活用することができた。

（２）本校なりの飼養体系を確立することができた。

（３）環境改善により、ストレス軽減および肉質向上につながった。

Ⅶ．今後の課題

（１）新種雄牛の精液導入および交配

（２）新飼料の導入による飼養体系の改善

（３）ストレス軽減効果の継続した検証

Ⅷ．おわりに

第２回和牛甲子園を目標に、飼養管理について丁寧に見直していく中で、日頃の管理作業の大切さを痛感しました。目に見えて分かる結果や良い成績は残せませんでしたが、私たちの活動が後輩たちの糧になることを願っています。

私たちは他にも様々な活動をしてきました。そのひとつが、研究班の女子で結成された「レッツ・ラ 緑峰 Cow girl」です。いわて発元気な牛飼い女子応援事業に参加し、県内の畜産農家と交流を深めながら畜産の魅力をＰＲしています。その中で、研究活動につながるヒントやアドバイスをいただくこともありました。研究班男子のサポートのおかげで充実した活動ができ、この事業に参加したことで班員全員が多くのことを学ぶことができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

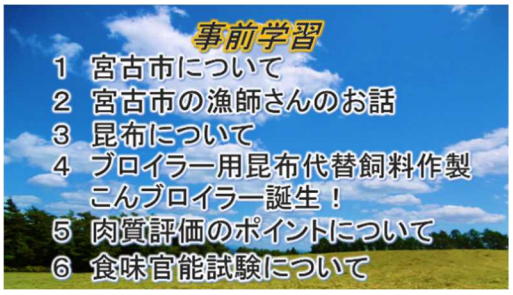
私たちは今後も自分たちにできる可能性に挑戦していきます。良い牛を育て、多くの人に喜んでもらえる牛肉を生産したい。大切に育てた食材を多くの人に味わってもらいたい。それが私たちの目標です。そのために、日々の学習を大切にし、これからも牛たちにたくさんの愛を注いでいきます。

岩手県産業教育振興会主催　専門高校生による研究文コンクール
最優秀賞　受賞作品

宮古市の漁師さんとつくるこんブ（昆布）タづくり

～三陸地域と絆をつないで　新たなエコフィードづくりへの挑戦～

岩手県立盛岡農業高等学校　動物科学科３年　高橋佑太朗・田村生芽・千葉勇大・柴田愛華
田口詩央梨・田村智尋・立花あゆみ・佐藤里江
田中真衣



1　コンセプト

今から８年前、２０１１年３月１１日。東日本大震災が発生し、岩手県では特にも沿岸地域の被害が深刻なものとなりました。現在は震災廃棄物の処理が終了し、海岸保全施設や三陸復興道路の復旧・整備が進んでいます。また、壊滅的な被害を受けた水産業も漁船や養殖施設の復旧は全て完了しており、養殖昆布の生産量は震災前の５６％まで戻るなど、漁業の復興が進んでいます。岩手県の復興の歩みは前進し続けているのです。

私たち高校生も三陸地域の復興や地域活性化のために少しでもお手伝いがしたい。そんな想いから本プロジェクトはスタートしました。

2　事前学習

研究に先だって、次のことを事前に学習しました。

(1)宮古市の特徴や漁業について情報を集めました。

(2)宮古漁協高浜支所を訪れ、地元の漁師さんに宮古市の復興や漁業の現状についてお話を伺いました。

(3)宮古市の特産物である昆布の栄養価について調べました。

(4)商品にならない「すき昆布」を添加飼料として加工し、ブロイラー用昆布１％代替飼料を作製しました。これを給餌し肥育試験に成功、昆布を食べて育ったブロイラー「こんブロイラー」ができました。

(5)地元雫石町にある南部かしわ加工センターを訪れ、「こんブロイラー」について評価をいただきながら肉質を評価するためのポイントを学習しました。

(6)食味官能試験について、独立行政法人家畜改良センターの官能評価マニュアルを元に学習し、実践しました。

これらの事前学習から次のことがわかりました。

3　宮古市と漁業

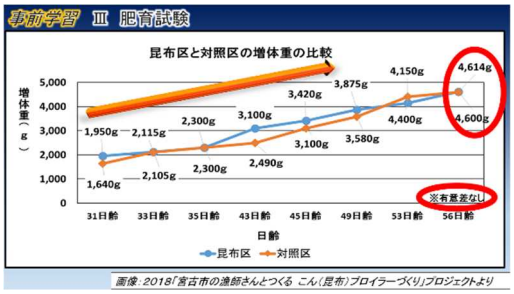
宮古市は漁業で栄える町であり、世界でも有数の好漁場です。なかでも「昆布」の漁獲量は全国でも上位です。また、宮古漁協高浜支所を訪れた５月は昆布漁の時期であり、特産物の「すき昆布」の製造が行われていました。漁業を営む佐々木輝英さん、山口千賀子さんによると、すき昆布の製造過程で商品にならない「すき昆布」があり、有効活用ができれば助かるとのことでした。

4　昆布の栄養価

商品にならないすき昆布の活用方法を考えるために昆布の栄養価について調べてみました。昆布の栄養素には多糖類、各種ミネラル、ビタミン、アミノ酸など６０種類以上の栄養素が含まれており、飼料として期待できる成分が含まれています。これらの成分を活用し添加飼料として鶏や豚に与えることで代謝や発育の促進、抵抗力、品質の向上といった生産性を高める効果があるのではないかと考えました。

5　肥育試験

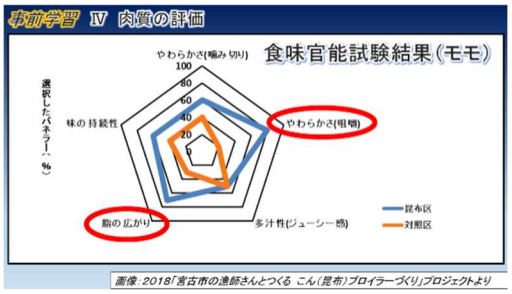
一般的なブロイラー用飼料に昆布が全体の１％となるよう調整した「昆布区」、一般的なブロイラー用飼料のみの「対照区」で肥育期間における増体重の調査を行いました。結果では、両区共に増体重変化に有意差がありませんでした。よって、昆布１％代替飼料での肥育は可能であることが分かりました。また、「昆布区」での病気発生はなく全羽が元気に育ちました。



6　肉質の評価

有限会社九戸屋肉店代表取締役の小井田幸一さんより、肉質の良し悪しを「脂の色」で評価する方法を教えていただきました。昆布区と対照区の比較では違いが認められず、実際に食べることで評価することにしました。次に行ったのは食味官能試験です。この試験は「試食で食味を評価する」ものです。手順は２つの試験区それぞれの肉を共通の調理方法で調整し、パネラーが試食をします。結果では、特に「やわらかさ（咀嚼）」、「脂の広がり」の試験項目で優れていることが分かりました。

これらのことから、「昆布」は添加飼料として肉質の向上に良



い効果があるのではないかと仮説を立て、継続研究を進めることにしました。

7　目標

(1)昆布が添加飼料として生産性向上に効果があるのか養豚で検証。昆布を食べて育った豚「こんブタ」生産の実現。

(2)三陸地域の復興や地域活性化に繋がる活動へ。

8　計画と実施

計画は４つの柱に分け、研究活動を実施しました。

Ａｃｔ１　養豚用昆布１%代替飼料作製

Ａｃｔ２　肥育試験実施

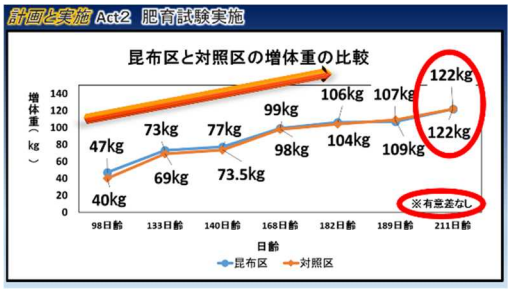
Ａｃｔ３　肉質調査

Ａｃｔ４　商品化と三陸地域の PR 活動

9　Ａｃｔ１：養豚用昆布１%代替飼料作製

宮古漁協高浜支所漁師の佐々木輝英さんから提供していただいた昆布を飼料に添加するにあたり、嗜好性の調査を行いました。豚は昆布に興味を示し食べる様子が確認できました。早速、昆布を適度な大きさに切り出し一般的な混合飼料に添加、ひとまず採食の様子を観察しました。すると、選び食いにより餌箱に昆布が残るようになりました。そこで、均一に採食ができるように２つの対策を立てました。１つ目は、昆布の細断にミキサーを使い、より細かな大きさに調整することです。２つ目は、均一に混合飼料と混ざるよう、小分けにしながらより丁寧に混ぜ合わせることです。

この結果、豚は選び食いをせず採食の様子は良好になりました。



10　Ａｃｔ２：肥育試験実施

一般的な混合飼料に昆布が全体の１%となるよう調整した「昆布区」、一般的な混合飼料のみの「対照区」とし、２つの試験区を設けました。検体となる豚は両区共に約３カ月齢とし、品種はバークシャー種を用いました。肥育期間を出荷前日までの１１８日間とし、両区共に不断給餌による増体重の調

査を行いました。結果では、両区共に増体の様子に有意差がありませんでした。よって、養豚においても昆布１％代替飼料での肥育は可能であることが分かりました。また、昆布区での病気発生はなく元気に育ちました。

11　Ａｃｔ３：肉質調査

昆布区、対照区それぞれの肉質の評価及び比較について、枝肉格付による評価とロレオール田野畑の伊藤勝康シェフ、株式会社肉の府金代表取締役の府金伸治さんのご協力を得て調査を行いました。このことから分かったことは、次の２つです。

１つは生肉の赤身、脂肪の様子についてです。赤身の様子では昆布区は指で押したときに弾力があり、全体的に締まりがありました。また、品質を評価する豚肉色基準では「やや濃色」を示しました。脂肪の様子でも弾力を感じられ、脂肪交雑の様子も良好でした。脂肪色基準では理想の白に近いことが分かりました。

また、伊藤シェフによると「昆布区は冷蔵保存している間に見られるドリップが少ない」との報告から、こんブタは肉のうま味成分である肉汁の脱水が少ないことが分かりました。

１つは加工、調理後による食味についてです。特にも「やわらかさ」が優れていたのは昆布区でした。

これらの食のプロによる評価を裏付けるように、格付けによる等級評価でも昆布区が「中」、対照区が「並」であり昆布区が対照区よりも１段階高い格付けとなりました。

12　Ａｃｔ４：商品化

肉質の調査でもご協力いただいた株式会社肉の府金代表取役の府金伸治さんのご協力のもと、地元岩手町にある肉のふがね川口店にて私達が手作りした「こんブタのロースハム、チャーシュー」の試食・販売会を実施しました。訪れた一般客の皆様から試食の感想を聞くことができました。そこでは、「しっとりしていて美味しい」、「来年も造ってほしい」などうれしい回答が多くありました。また、「高校生レストラン」で活躍している盛岡スコーレ高校にて「こんブタコラボメニュー」を開発、食と農の交流を実現することができました。レストランへ食事に訪れた一般客の皆様へ本プロジェクトのコンセプトである三陸地域の PR と共に「こんブタ」を発信することができました。これらの販売、交流活動を通して三陸地域の復興や

地域活性化をコンセプトとした養豚について関心度が高いことを発見できました。

13　結果とまとめ

(1)養豚用昆布１％代替飼料での肥育に成功し、こんブタを生産することができました。

(2)昆布添加飼料による肉質への効果は、「こんブロイラー」での検証結果と同様に特にも「やわらかさ」にあることが分かりました。

(3)「こんブタ」を発信し、地域の方々から関心を得ると共に三陸地域の復興や地域活性化に繋がる活動として、また一歩前進することができました。

14　今後の課題

(1)昆布１％代替飼料での肥育試験を継続し、その効果について研究機関との連携を図りながら分析を進める。

(2)三陸地域の復興や地域活性化に繋げるために本プロジェクトを発信し続ける。

15　おわりに

プロジェクトを通じて多くの方々と繋がることができました。宮古市への訪問では東日本大震災の当時の様子やその後のお話を聞き、現地の方々が力強く生きる姿に多くを学びました。出会いの縁を大切にしながら、これからも私たちは頑張り続けます。

岩手県産業教育振興会主催　専門高校生による研究文コンクール
優秀賞　受賞作品

「野菜好きすぎ我が家の食卓」～弟と私の食生活改善の取り組み～

岩手県立平舘高等学校　家政科学科３年

松　浦　日　向

１　題目設定の理由

我が家は、野菜などの農産物を生産する専業農家です。自宅の周りの畑で、両親が協力して、毎日こだわりの農産物を作っています。父には野菜への強いこだわりがあり、黄色いにんじんやバターナッツというひょうたん型のかぼちゃなど、珍しい野菜も多くあります。販売のために生産している作物ですが、私達に食べて欲しいという気持ちがあり、こだわりの自家製野菜が、我が家の食卓には多く並びます。

昨年のホームプロジェクトで、中２の弟の自立を目指して、生活改善や食事改善のホームプロジェクトに取り組みました。そのおかげで弟は朝食を食べ、自分で起床するようになり、健康的な生活リズムを整えることができるようになりました。我が家にはもう一人、小１の弟がいます。小学生になった弟にも、私に助けてあげられることがありそうだと考えました。

また、弟達の生活の問題点を考えるうちに、自分のことも振り返るようになりました。私は、昨年の貧血検査で貧血が見つかり、それ以来通院し薬を飲んでいます。貧血の数値が少しずつよくなっているものの、授業で理想的な食生活について学ぶうちに、自分の食事内容にも、改善の必要があるのではないかと考えるようになりました。

２　実施計画

実施計画は以下のとおりです。

（１）調査及び実態調査

（２）問題点の把握

（３）工夫・改善

（４）まとめと今後の課題

３　調査及び実態把握

（１）調査及び実態把握①弟

弟の生活で最も気になることは、朝食です。食事時間になると、外へ遊びに出てしまったり、食卓から姿を消してしまいます。夕食では、そのようなことはなく、家族と一緒に食べるので、理由を聞いてみると「全部たべなさいって怒られるけど、朝は食べたくない。」と言うのです。食べ物、特に野菜を大事にする父は､「出されたものは必ず食べなさい。」と、厳しく言います。弟にとって、食欲のあまりない朝から怒られることは、食卓が楽しいものではなくなってしまったのかもしれません。そして、小学生の弟を悩ませるのは宿題です。毎日の宿題も母にせかされてから取り組む日々です。「怒られる前にやればいいのに」と思う私ですが、小学１年生には難しいことかもしれません。これでは夏休みの宿題はどのようなことになるのか心配です。

（２）調査及び実態把握②自分

次に自分自身の食生活についてです。貧血で通院するようになり、お医者さんからは「野菜を多く食べましょう。」とアドバイスをいただいていました。野菜農家の娘、野菜は大好きですので、簡単なこと。これまでよりたくさん野菜を食べようと心がけていました。我が家の食卓には、たくさ

んの旬の野菜が並びます。野菜不足の問題が語られることが多い日常において、我が家の食卓は栄養的に優れていると思っていました。ですが普通だと思っていた自分の食事を友人に紹介したところ、違った反応が返ってきました。野菜オンリーのカレー。ピーマン、なす、かぼちゃ、トマト、にんじんと、具材は野菜のみ。ピーマンのピーマン詰め。ピーマンの種を取ったところに、さらにピーマンを詰めて焼きます。ピーマンのなす詰めも好きです。野菜好き過ぎの食卓の危機です。

そこで、学校のフードデザインの授業で「一日の食品群別摂取量のめやす」を学んだので、食品群別に重量をはかり、どのくらい食べているか計量してみることにしました。

	乳・乳製品	卵	魚介・肉	豆・豆製品	野菜	芋	果物	穀物
自分の摂取量	290	50	8	15	330	90	150	260
摂取量のめやす	330	50	120	80	350	100	200	320
充足率	88 %	100 %	7 %	19 %	94 %	90 %	75 %	81 %

料理を食品群にわけて計量するのは、かかり手間がかかりましたが、このことで自分の問題がはっきりしました。３群の野菜は十分に必要量を満たしていたのですが、２群の肉・魚などの動物性たんぱく質が大きく不足していました。この日の２群の動物性食品は、お弁当の卵焼きに入ったかにかま８ｇだけ。必要量１２０ｇにだいぶ足りないことがわかります。２群の働きは、「血や肉をつくること」、血液をつくるもととなる食品が不足していたのです。振返ると、日々このような食事内容に近いです。

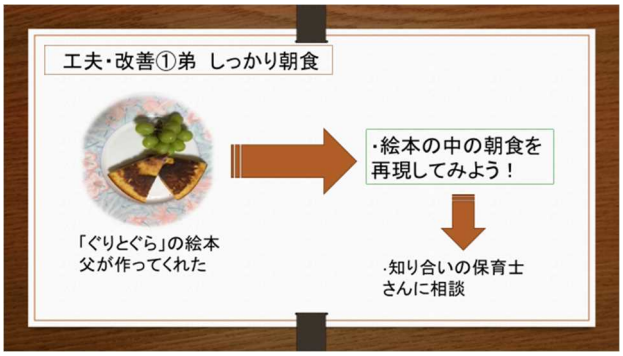
４　問題点の把握

調査・実態把握から、今回のホームプロジェクトの課題をまとめました。弟の課題は、一日の始まりの朝食をしっかりとること。そして、急かされてからやっている宿題を自分で取り組むようになること。そして、どちらも楽しく取り組めること。私の課題は、貧血を改善するための食事改善です。

５　工夫・改善

（１）工夫・改善①弟

朝食は一日の始まり、最も大切な食事です。無理矢理食べさせても長続きしません。弟に楽しく朝食を食べてもらう作戦を考えました。そんな中、弟がモリモリと進んで食べていたものを思い出しました。父が「ぐりとぐら」の絵本の中に出てくる、カステラを作ってくれた時です。よし、絵本の中の朝食を再現してみよう。知り合いの保育士さんに相談したところ、何冊かの絵本を紹介してくださいました。



本屋さんには、絵本の中のレシピ本というものがあったのですが、自分のオリジナルレシピにしたいと考えました。一品目、「サンドイッチサンドイッチ」から野菜たっぷりのサンドイッチ。本の中では生野菜を挟んだサンドイッチなのですが、ホットサンドにしました。野菜を炒め味付けをしたことで食べやすくなったようで、弟は完食してくれました。

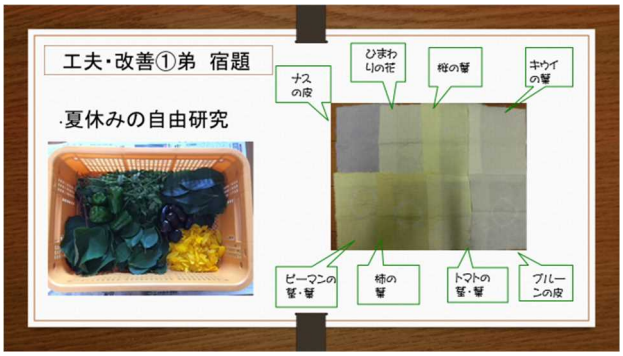
二品目は、「１４ひきのあさごはん」から卵をサンドしたパンと野菜スープ、パンの中に目玉焼きを挟み、我が家でとれたブルーベーリーの手作りジャムを添えました。スープはにんじん、キャベツ、玉ねぎ、じゃがいもと野菜たっぷりです。１４ひきの大家族のように、我が家もみんなで楽しく食卓を囲むことが大切だと感じました。

三品目は「いしのスープ」から「石入りスープ」絵本の中では、オオカミをだますための本物の石が入ったスープをめん鳥の奥さんがつくるのですが。母に相談したところ、石を肉入りのまんじゅう風にしてはどうかとアドバイスを受けました。皮は米粉を使い、ひじきをいれて石っぽくし、中にはキャベツと玉ねぎとひく肉を入れました。スープには、野菜をたくさん入れ、肉入りまんじゅうの石を中央に入れました。弟は中のあんがおいしかったようで、笑顔で食べてくれました。

絵本を自分で読めるようになったので、前の日に一緒に読んでから、次の日の朝食にオリジナル料理を出しました。中には、苦手な食材もあったようですが、絵本の中のレシピが再現されたものを喜んで食べてくれました。せっかくできたオリジナルレシピをレシピ集にまとめました。

さて、次は、宿題です。夏休みに、最も苦戦しそうな自由研究のアドバイザーになることを提案しました。何をするかテーマすら考えていなかった弟はこの提案にすぐのってきました。そして、我が家の野菜を使った研究ができないか、考えました。

そこで、学校の家庭クラブ活動で行っている染め物を自宅でとれた野菜でやってみることにしました。野菜の茎や葉、食べられない部分、捨てられる部分を有効に使おう。染め物のノウハウはあるので、自宅の野菜を使って、さあ始めましょう。野菜や果実の皮や茎・葉などで染めてみました。思った色と違う色の染まり方に、弟も興味を持ってくれたようで、次に染めるものを選んでくれました。



（２）工夫・改善②自分

一日の食品群別摂取量のめやすと比較したことで、タンパク源となる食品が大きく不足していることが自覚できました。野菜が大好きでよく食べていたのですが、肉や魚貝類を気をつけてとるようにしました。

肉野菜炒めとウィンナーの入ったお弁当。夕食には鶏肉の煮込みや　豚肉とピーマンの炒め物を食べました。豚肉とピーマンの炒め物を食品群にあてはめると、２群をしっかり食べていることがわかります。

また､貧血によい食品について調べてみました。鉄分を多く含む食品を食べることはもちろん大事ですが、ビタミン類や動物性たんぱく質を一緒にとることが吸収率を上げたり、赤血球を作る働きをすることがわかりました。結局、バランスのとれた食事をすることが一番大切なのです。

鉄分が豊富な食品を調べると日頃自分が食べていない食品が多かったので､調理に挑戦しました。豚レバーとほうれん草、ナスの炒めもの。レバーのくさみ消しに､自家製の杜仲茶を使用しました。鉄分が豊富なあさりを使用したパスタ風そば。麺は八幡平特産の杜仲茶そばを使いました。自家製ニンニクの風味が効いて、おいしく食べられました。ほうれん草とバナナ、リンゴ　はちみつを入れたスムージー果物をたくさん入れたことで飲みやすくなりました。

また、毎日食事の時に飲んでいた杜仲茶が実は貧血によいことがわかりました。緑茶やコーヒーに含まれるカフェインは鉄分が吸収されるのを阻害する働きがあるのですが、杜仲茶はノンカフェイン。これからもどんどん飲もうと思います。

貧血によい食事はやはりバランスのとれた食事。食品群別摂取量のめやすと比較し、たんぱく質が大きく不足していたことがわかり、気をつけるようになったのですが、何か食事の時に分かりやすくのする工夫はないかと考えました。そこで考えたのが、弟と取り組んだ野菜の草木染めです。

その染め物を使って食卓を彩るランチョンマットを作ってはどうかと考えました。染めあがりの異なりそうな農産物を選びました。①ピーマンの葉、収穫が終わったピーマンの茎と葉を使いました。②杜仲茶、杜仲茶はたくさんあります。③ブルーベリー、そのままでは食べるのがむずかしくなったものを使うことにしました。④にんじんの葉、黄色いにんじんの葉で染めてみることにしました。

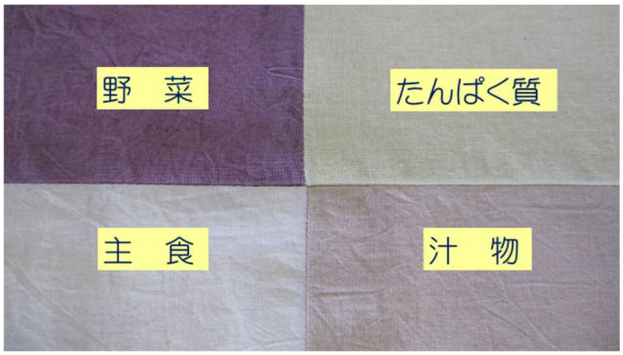
家庭クラブ活動で学んだ染色の技術を生かして、染色の実践です。まず、ランチョンマットに適した布は高温にも耐える綿を選びました。ただし、一般に動物性タンパク質の布は染まりやすいのですが､綿などの植物性の繊維は染まりにくいので、下処理の必要があります。今回は、豆乳につけ込むことで、染まりやすくしました。染液はもみだし法でつくりました。それぞれの材料を煮出し、さらに手でもみ色をだしました。そこに、下処理した布を入れ、しばらくおきます。最後に、色を落ち着かせるために媒染の作業をします。今回は漬け物にも用いられるみょうばんを使いました。にんじんの葉などは、媒染したことで鮮やかな黄色に変化しました。

４色に染まった生地。材料から想像どおりの物もありますが、にんじんの葉は黄色に染まり驚きました。このように、想像を超えた色になることが草木染めの面白さかもしれません。この４色で、バランスのとれた食事をイメージしやすくしまし

た。

この４色をレイアウトし、つなぎあわせてできたのがこちらです。

左下はご飯などの主食を置く場所。右下に汁物。左上は、野菜のおかず。右上はたんぱく質を含む料理。この４色の配置を考えて料理を置くことで、バランスのとれた食事ができるというわけです。自家製の農産物と家庭クラブの活動で学んだ技術を生かし、４色ランチョンマットの完成です。



できあがったランチョンマットに食事をのせてみたところ、今日の夕食も右上、たんぱく質のところがあいてしまいました。もう一品追加しなくては。我ながら、これはわかりやすいです。ランチョンマットにあわせて食事をつくったところ、バランスのとれた食事になりました。また、優しい色あいのためか、食卓が明るくなりました。

せっかくなので家族５人分を完成させました。母からは「自然の優しい色合いで、どの料理が足りないかがひと目でわかるのでよい。」と言ってもらいました。

６　まとめと今後の課題

今回のホームプロジェクトをとおして、先ず、弟の取り組みでは、一番、弟が何を喜んでくれるかを考えて実践しました。弟の食生活や宿題への取り組みの改善をねらいとしまいたが、最も大切なことは弟が楽しみながらできることです。そして、姉の存在を頼りにしてくれたらさらにうれしいです。また、自分の取り組みでは、食事改善をとおして、自身のことを考えるようになりました。

ランチョンマットを作ったことで、我が家の中心にある食卓を彩ることができました。松浦家の団らんはダイニングのテーブルを囲んで行われます。そのテーブルにわが家の作物をつかって染めたランチョンマット、その上に自家製農産物がふんだんに使われた料理が並ぶ、野菜好きすぎ家族です。

公益財団法人産業教育振興中央会主催
専門高校生による作文コンクール
佳作　受賞作品

料理の力を信じて

岩手県立久慈東高等学校　総合学科（食物系列）３年
米　田　梨　乃

私が調理の道に進もうと思った大きなきっかけが一つあります。それは、東日本大震災です。暗い闇につつまれた３月１１日の経験は一生忘れることはないと思います。しかし、わたしは震災体験があったからこそ、それ以上に忘れられないことがあります。それは、希望が無くなった村の雰囲気を一気に変えた炊き出しです。村の人たちがあったかいスープとおにぎりを食べて心から笑顔になっていた光景です。津波が村を襲い一瞬にしてきれいだった景色を変えたあの日、私は小学三年生でした。大人の人たちが様々な活動をしている中私は何もできませんでした。しかし、中学になってから誰かのために今すぐにでもできることはあるのではと考えました。あの炊き出しの光景が忘れられなくて、自分もたくさんの人が心から笑顔になれる料理を作りたいという思いがいつの間にか夢に変わっていました。

私が久慈東高校が「調理師免許取得」が可能な学校だと知ったのは中学２年生の時でした。東高校の文化祭に初めて訪ずれたときお店のように本格的な食堂をだしていました。ここなら自分の夢に近づけると思い迷うことなく久慈東高校に入学し、調理を学ぼうと決めました。

久慈東高校は総合学科高校で、１年生では全員普通学科と同じ内容を学びます。２年生から７系列に分かれそれぞれで専門的なことを学びます。他の調理師養成の学科では３年間かけて学ぶ内容を２年間で学ぶためとてもハードな日々を過ごします。高校に入学して一年間は、勉強と部活動に力をいれました。二年生からは調理師免許が取得できる食物系列に進みました。それからは、一年生と違って時間があっという間に過ぎていきました。実習では、調理室について説明を受け、すぐに基本的な調理を学びました。こんなに淡々と進むとは思ってもいなくて少しでも気を抜いたら置いていかれそうな気がしました。私の両親は共働きで学校から早く帰ったときや休みの日は、夜ご飯を作ることがありました。しかし学校で学ぶのは家で作る料理とは全く違う専門的な料理で、覚えることがたくさんありました。最初の頃は、週２回の実習がとてもきつく感じていました。二年生の最初の頃の実習は、「時間内にできなかった」「盛り付け、焼き方がきれいじゃない」などと同じ反省で、先生からも辛口のコメントばかりでした。それでも自分で頑張りたいと決めたことなので少しでもいい評価をもらえるよう毎日のように切り替えをしていました。調理の基本技術が少し身に着き、切り方などきれいにできるようになった１０月には毎年久慈東高祭があります。東高祭は、東高校の魅力の一つです。毎年３千人くらいの方々が来校してくれます。食物系列は野菜、肉、魚の下処理を始め、ラーメン用のだしをとるなど１週間前から全員で準備をします。当日は、朝早くから準備に取り掛かり、担当のメニューを一生懸命作ります。さらに二年生では展示用のお弁当を当日の朝、各自家で作って来なければならない

ため、とても大変でした。一般公開の２日間は、私達食物系列だけで食堂を運営することはできません。注文を受ける人や作った料理を運んでくれるのは、他の系列の生徒や一年生です。私たちはお客さんの声を聞くことも、どんな表情で食べているかも、顔を見ることもできません。１日目が終わると次の日の準備をし、２日目が終わると大掃除があります。すごく大変なのに三年生になってからの文化祭がとても楽しみになりました。なぜなら直接でも間接的にも「東高祭の食堂行ったよ！」とか「すごくおいしかった！」「また食べたい」などなど本当にたくさんの方から好評をいただいたからです。私は、そのことから調理へのやりがいを感じることができ、自分が作ったものを人に提供することは素晴らしいことだと初めて体験しました。三年生は食堂のお客様と直接ふれあう機会があるということなので、今年の文化祭では、昨年より多くに方に美味しく安全な食を届けられるよう頑張りたいです。

食物系列は、実習の他にも食品一つ一つの特徴、栄養を学んだり、食べ物から発生する食中毒など衛生に関すること、食文化や食べる以外での食事について、そもそも調理師とは何かなど調理について１から１０まで学びます。三年生になると二年生に学んだことにプラスして覚えることが増えるので、そのすべてを自分の力に変えていけるようにしたいです。このようにとても大変な二年間に弱音を吐いてしまうこともありますが、同じ系列の友達が頑張っている姿を見ると良い意味でのライバル心が生まれます。それは、今の自分にとってすごくありがたいことだと感じています。

私は高校卒業後、さらに高い技術と専門的な知識を身につけるために専門学校へ進学します。そしてさまざまな飲食店やホテルの厨房に立って経験を積み、料理でたくさんの人を笑顔にするのが大きな目標です。料理といっても中華や洋食、和食と種類がありすごく迷いました。その中で私は、洋食を選びました。西洋料理を選んだ理由は、イタリアやフランス料理にしかないものを知りたいと思ったからです。私は、パスタやソースなどの学習が好きです。また、西洋料理を学ぶ上で大切にしたいことは、その地域や国で取れる食材を使用することです。海外に行って西洋料理を学びたいという思いもありますが、私が料理をする上でのゴール地点は、地元に帰ってくることです。今住んでいる地域に戻り、たくさんの夢をくれた環境と人々においしい料理で恩返しをしたいと思います。３・１１のような自然災害に限らず、つらい思いをしている人がいたら、心からの笑顔に包まれたあの炊き出しのようにおいしくてあったかい料理で一人でも多くの人の力になりたいです。

今ある環境に常に感謝の気持ち続け夢に向かってまっすぐに頑張ります。

岩手県産業教育振興会主催　専門高校生による作文コンクール
最優秀賞　受賞作品

将来を決めた航海

岩手県立久慈東高等学校　総合学科（海洋科学系列）３年
澤　座　駿　人

私は将来、船員として働き、社会に貢献したい。日本の二次産業の多くは原料を海外から輸入して製品を作っている。また、国内輸送量の４５％は海運が担っている。日本の物流を考えると、海運を担う船員はとても重要な職業だが、海運業界は人手不足で苦しんでいると聞いた。

私は海のそばで育ち、幼い頃から海は身近な遊び場であった。成長とともに私の関心は海だけでなく、海に関わる職業に広がっていった。その一つとして船員に興味を持ち、船について詳しく学びたくて海洋科学系列がある久慈東高等学校に進学した。

本校では２年生から専門教科の学習が選択できる。５月にさっそく共同実習船りあす丸での４泊５日の沿岸航海実習に参加した。りあす丸は想像よりも大規模な船だった。長さ約５７メートル、幅約９メートル、深さ約４メートルの空間だ。数値で表すと小さい空間かも知れない。しかし、孤立無援の海の上を１９人の乗組員が２４時間交代で運航している。そう考えると、りあす丸はスケールが大きい乗り物に思えた。ただ、心の中は初めての乗船実習を無事に乗り切ることができるか不安だった。船酔い、共同生活、風呂、トイレなど不安の要因をあげたらきりがないくらいだ。このような不安と、自分の将来を左右する決定的な経験になるかもしれないという期待と様々な感情を抱えてりあす丸に乗り込んだ。

りあす丸は久慈を出港して函館に向けて走り出した。まずは船酔いの不安との戦いだが、海は驚くほど穏やかだった。まったく船酔いすることなく、航海当直の実習では乗組員の仕事をつぶさに観察することができた。私が特に注目したのは船長や航海士の判断と指示の素早さだった。出入港の場面では、狭く交通量が多い港内で複雑に操船しなければならない。なおかつ、船の速力はゆっくりのため船は風の影響を大きく受ける。そのため、船を操縦する船橋は緊張感で包まれ、私はその空気に飲み込まれて声一つ出すことができなかった。しかし、船長ただ１人は港内で刻一刻と変わる状況の中を、航海士、機関士、操舵手それぞれに矢継ぎ早に、的確に淡々と指示を出す。おそらく、少しの判断の遅れや迷いが大きな事故につながり、時には人命に関わることになる。私はこの沿岸航海実習から、判断力や決断力は船員になる上でとても重要な資質だということに気付いた。

次に気がついたのは、乗組員同士の仲の良さだ。航海中、航海士と甲板員がチームを組んで当直に立つ。船の仕事は職名による指示系統がしっかりしているが、その中でも会話が絶えることがない。また、作業中はもちろん、何気ない雑談中の表情からも乗組員の仲の良さが感じ取れた。海上の船はまさに孤立無援の環境だ。だからこそ、船内の人間関係が仕事に大きく影響する。私が感じた乗組員の仲の良さは、仕事を円滑に進めるための協調性の現れだ。孤立無援の環境だからこそ、１人ひとりの責任は大きく、ミスをカバーするために

船という乗り物は１人ではなく全員で動かすものだということがよくわかった。

函館からの復航ではクロスベアリングによる船位測定の実習を行った。授業では灯台や山頂など陸上にある２つ以上の目標物の方位を測り、その方位線を海図に書き込むことで、複数の方位線の交点が船位となると教わった。函館港から津軽海峡にかけて、灯台や山頂など目立つ目標物がいくつもある。私は目の前の景色と海図を見比べながら、方位測定を繰り返した。初めは何度も目標物の方位とコンパスが示す値の読み取りがずれて苦戦した。しかし、あきらめずに何回か挑戦して、クロスベアリングで求めた船位とレーダーで求めた船位がほぼ一致したときはとても嬉しく、船乗りの技術としてはささいなことだが感動した。学習と実習の繋がりを実感した瞬間だった。

りあす丸は津軽海峡を抜けて太平洋に出た。それと同時にうねりが大きくなり、船は大きく動揺するようになった。私は恐れていた船酔いになった。航海当直中、乗組員に船酔いについて質問した。すると、どんなにベテランでも船酔いをするときもあると言う。特に生活習慣が乱れると船員でも船酔いなりやすいとのことだった。だから私は、日常の学校生活でも生活習慣には気を配ろうと意識するようになった。

５日目。りあす丸は久慈に帰港して沿岸航海実習が終わった。たった５日間だが、この航海は私の中で「やはり船乗りの夢は諦めない。絶対に船乗りになる。」と決心を強く固める経験となった。下船後、この実習で学んだことを振り返ると、１つは「船の仕事には協調性が一番大事だ。」ということ。２つ目は「自分の判断や行動に対する責任がとても大きい。」ということを知った。協調性とは人と人との関係を築く手立てだ。船は陸上とは違い、海の上という特殊な環境なので、人間関係が仕事にも大きく関わってくる。だからこそ、協調性はとても大事だと思った。責任の大きさとは、船を動かすということは、そこにある人命や財産を預かるということだ。だからこそ、職名に応じた１人ひとりの責任がとても大切で、責任と協調性は船員の資質として表裏一体のものではないかと気がついた。船乗りに受け継がれる状況に応じて気転を利かせる行動や、助け合い気持ちを総称して「シーマンシップ」と言う。乗組員の仕事から学んだ２つのことは、まさに「シーマンシップ」そのものだと思っている。

私は現在３年生だ。船員になる夢を叶えるために、海上技術短期大学校へ進学することを選択した。前述のとおり、海運業界は慢性的な人手不足に苦しんでいる。日本の物流に海運は大きく貢献している。将来はフェリーの航海士として働きたいと考えている。フェリーは貨物だけでなく旅客も運ぶ。つまり、フェリーの仕事は多くの人命と財産と預かるとても責任が大きい仕事だ。私はその責任を自分の誇りにして働きたいと思っている。そのためには、上級学校で船の運航に関わる知識と技術、そして実習での経験を積み重ねる必要がある。そして、りあす丸で感じ取った「シーマンシップ」を受け継ぐ船員として、社会に貢献できる人材になりたい。

岩手県産業教育振興会主催　専門高校生による作文コンクール
優秀賞　受賞作品

「牛が好き」

岩手県立盛岡農業高等学校　動物科学科３年
本　舘　由　唯

私は牛が好きです。はっきりとそういえます。平成２９年４月、私は盛岡農業高等学校動物科学科に入学しました。その頃の私は牛が好き・嫌いという感情はなく、そもそも牛を間近で見たこともなくそして、夢も牛関係ではなく「動物関係の仕事に就く」という漠然な思いしかありませんでした。

動物科学科では、２年生から大動物・中小動物・愛玩動物の三つの中から研究班を選び専攻学習を行います。私は動物の中でも犬と爬虫類が特に好きで愛玩動物を専攻しようと思い、盛岡農業高等学校に入学しました。そして、１年生の総合実習では各部門のローテーション実習を行いますが、体験するもの全てが新鮮でした。

その中で大動物の実習が初めて牛を間近で見た瞬間でした。それは、大きな体に温厚な性格、柔らかい毛、優しい瞳、元々動物が好きだった私は恐怖を感じることもなく、牛への興味関心が深まりました。

そして、高校生活初めての夏休み、搾乳、飼養管理を体験する農場当番をしました。非農家に生まれた私にとってこの学校は生まれて初めての出来事がたくさんありました。農場当番では初めての搾乳をしました。搾乳時の前絞りでは力加減が分からず、弱すぎてぽつぽつとしか出なかったり、力を強くしすぎて牛が嫌がったり難しかったことを覚えています。

かつて岩手県内の農業高校ではどこでも乳牛が飼育されていたそうですが、現在は盛岡農業高等学校だけになり、岩手県内で唯一搾乳体験ができる学校です。

農場当番で一番記憶に残っているのは、和牛に後ろ足で蹴られたことです。徐糞の時に私は可愛さのあまり後ろから牛を撫でてしまいました。今の私は牛の後ろに立ってはいけないことも、牛が蹴るタイミングも分かるようになりましたが、１年生の頃は牛に関して何も知らず私は興味本位で牛を後ろから撫でてしまったのです。牛に蹴られた理由を知った私は「なるほど」と思ったと同時に一層牛への興味がわきました。それからの総合実習は特に大動物の飼養管理の実習が楽しく実習時間が待ち遠しく感じました。

私は２年生に進級し、大動物班を専攻しました。学校で畜産に関する学習を重ねる中で牛の知識も増えてきました。しかし、技術はまだ未熟で、牛追いや頭絡を付けるのも一苦労のまま、２度目の夏休みが近づいてきました。しかし、今回の夏休みは１年生の夏休みとは一味違います。皆さんはインターンシップをご存知ですか？盛岡農業高等学校では、夏休みに職場体験実習を行います。

動物科学科の職場体験には３日間の短期実習・２週間の長期実習の二種類があります。２週間のインターンシップはクラスで数人しか行けません。私はチャンスが来たと思い、長期インターンシップに行くことにしました。そして、私は２週間北海道にある箱根牧場さんにお世話になりました。

慣れない環境の上に、人見知りでなかなか人に話しかけられない私はとても苦労しました。そして、２週間の中でたくさんのはじめての体験をしました。子牛の哺乳、フリーストールの搾乳、搾乳後の洗浄、牛の出産も見られました。インターンシップは技術の向上と今までの動物関係の仕事に就くという、夢を「牛関係の仕事に就く」事に変えてくれました。

夏休みが明け、学校で牛追い・頭絡をつけることもスムーズに出来るようになりました。牛の世界は、まだまだ広く「共進会」があることを知りました。共進会では、人が牛を調教し、引かなければなりません。私が初めて引いたのは、ジャージー種でした。ホルスタイン種に比べ、気性が荒く引いている時に、暴れる・走る・動かないなどひくのが大変でした。３年生や特別専攻科の方々・先生などに教えていただき、牛引きの練習をしましたが、腕の筋力がなく、長時間牛の首を上げているのが大変でした。

そんな私にも、今は担当している牛がいます。ホルスタインのレッドです。レッドは７月に子牛を生むため、未経産として共進会へ出るのは４月が最後になります。私はこの子をレッドでなくjoy と呼んでいて、昨年卒業した先輩から受け継ぎました。私に牛の引き方を教えてくれた牛です。私はこの子が大好きです。牛とは適度な距離を保った方がいいといわれたことがあります。しかし私は牛との距離がうまく保てません。きっとこれからもそうです。

牛への接し方にはそれぞれ人によって考え方が違います。ある人は、愛情をかけ、ある人は情が移るから距離感を持ち接します。だから、私も自分の考えを持とうと思います。牛は産業動物であり、いつかは出荷しお肉として消費されるかもしれないし、いきなり病気で亡くなってしまうかもしれません。私はそれを踏まえた上で愛情をもって接していきます。私たちが生涯を終えた時、誰も自分のことを覚えていなかったら皆さんは悲しくありませんか？私は悲しいです。だからこそ私は１頭１頭大切に愛情をかけて育て、一生忘れたくありません。「牛作りは人作り」です。これは私が牛と接する上で大切にしている言葉です。

私は卒業をしたら酪農の本場である北海道の牧場に就職します。そして、いつの日か岩手県に戻り、岩手の酪農を盛り上げる牛飼い女子を目指します。

１年生では牛について何も知らなかった私ですが、３年生になった私は牛に育てられて毎日が楽しいです。

大人になった私は、毎日が楽しく過ごせているでしょうか？

御下賜金記念優良卒業生選奨規程

公益財団法人　産業教育振興中央会

１．趣旨

各専門高校等の卒業時に、学業及び人物とも最も優れた卒業予定者を選奨することにより、我が国産業教育の振興に寄与するとともに、生徒の学業等諸活動の活性化に資することを目的とする。

２．選奨の対象生徒について

（１）農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉などの専門教育を主とする学科及び総合学科を置く高等学校等（本会会員校）において、学業及び人物とも最も優れた卒業予定者を対象とする。選奨候補者は、原則として学校ごとに１名とし、分校、定時制及び通信制の課程は、それぞれ１校とみなす。

（２）複数の分野の学科を置く高等学校においては、例えば、農業の園芸科、農業土木科、畜産科、工業の機械科、電気科、建築科などの学科別とせず、農業、工業等の分野ごとに１名に限定する。

（３）総合学科については、専門分野コースの数にかかわらず総合学科として、１名とする。

（４）別科、専攻科については、上記に準じて選奨することができる。

３．表彰状の授与

選定された者に対し、卒業式当日、本会会長名の表彰状を授与する。

岩手県産業教育振興会優良卒業生選奨規定

岩手県産業教育振興会

１　令和元年度卒業予定者で人物・学業ともに優秀である者、もしくは専門高校生徒の研究文・作文コンクール、各種競技会、体験発表会等で　優秀な成績を収めた者。

２　小学科ごとに１名とする。総合学科にあっては各系列１名（普通科系列を除く）また、普通科にあっては産業に関するコース選択者を含めてもよいこと。

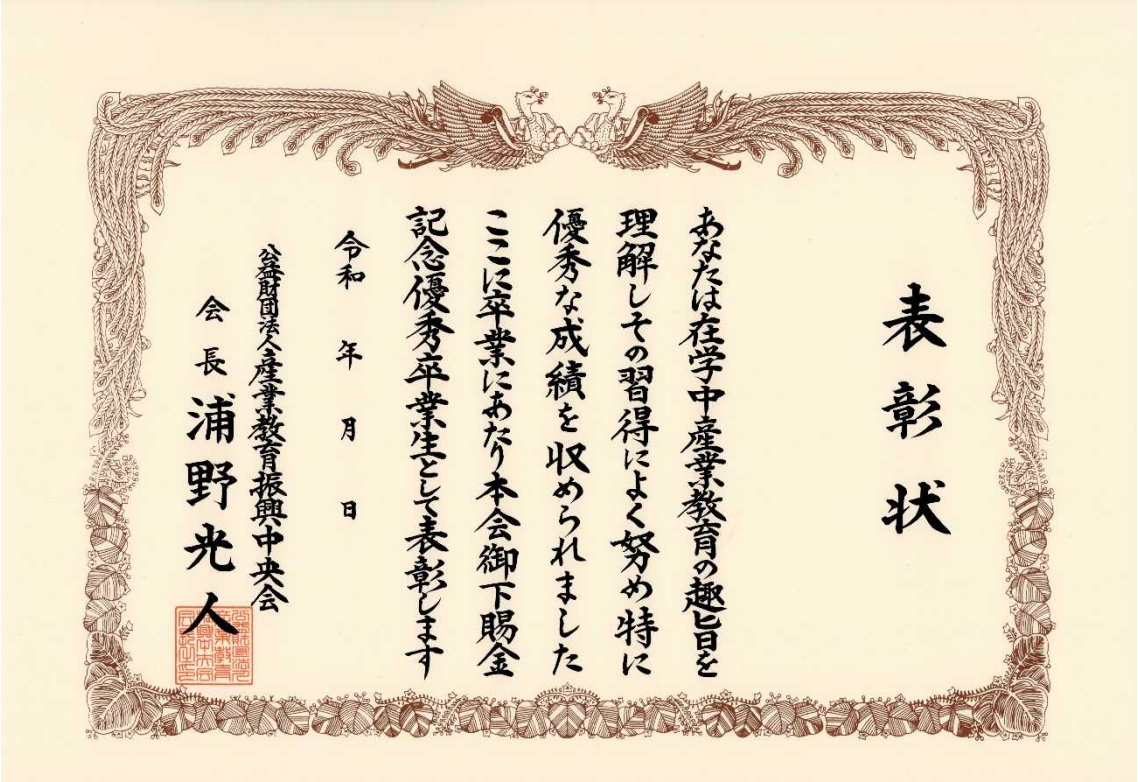
３　定時制小学科も対象とすること。

４　御下賜金記念優良卒業生と重複しないこと。

５　選定された者に対し、本会会長名の表彰状及び記念品を授与する。

令和元年度御下賜金記念優良卒業生及び
岩手県産業教育振興会優良卒業生表彰一覧

学　校　名	学科	御下賜金記念優良卒業生	県産振優良卒業生	合計
盛岡農業高等学校	農業・専攻	2	6	8
盛岡工業高等学校　全日制	工業	1	8	9
盛岡工業高等学校　定時制	工業		1	1
盛岡商業高等学校	商業	1	3	4
平舘高等学校	家庭	1	1	2
紫波総合高等学校	総合	1	3	4
花巻農業高等学校	農業	1	3	4
花北青雲高等学校	専門総合	3	4	7
遠野緑峰高等学校	専門総合	2	3	5
北上翔南高等学校	総合	1	2	3
黒沢尻工業高等学校	工業・専攻	2	7	9
水沢農業高等学校	農業	1	3	4
水沢工業高等学校	工業	1	4	5
水沢商業高等学校	商業	1	3	4
岩谷堂高等学校	総合	1	4	5
一関第二高等学校	総合	1	4	5
一関工業高等学校	工業	1	4	5
大東高等学校	商業	1	1	2
千厩高等学校	専門総合	2	3	5
高田高等学校	水産	1	1	2
大船渡東高等学校	専門総合	4	5	9
釜石商工高等学校	専門総合	2	5	7
宮古工業高等学校	工業	1	3	4
宮古商業高等学校	商業	1	4	5
宮古水産高等学校	水産・専攻	3	4	7
久慈東高等学校	総合	1	5	6
久慈工業高等学校	工業	1	2	3
種市高等学校	工業	1	1	2
福岡工業高等学校	工業	1	2	3
一戸高等学校	総合	1	4	5
盛岡市立高等学校	商業	1	1	2
岩手女子高等学校	看護・福祉	2	3	5
江南義塾盛岡高等学校	情報	1	1	2
盛岡誠桜高等学校	専門併置	3	5	8
盛岡スコーレ高等学校	総合	1	1	2
専修大学北上高等学校	専門併置	2	2	4
水沢第一高等学校	家庭	1	1	2
一関修紅高等学校	家庭	1	1	2
一関学院高等学校	商業		1	1
		53	119	172
		※　表彰状及び記念品を授与		



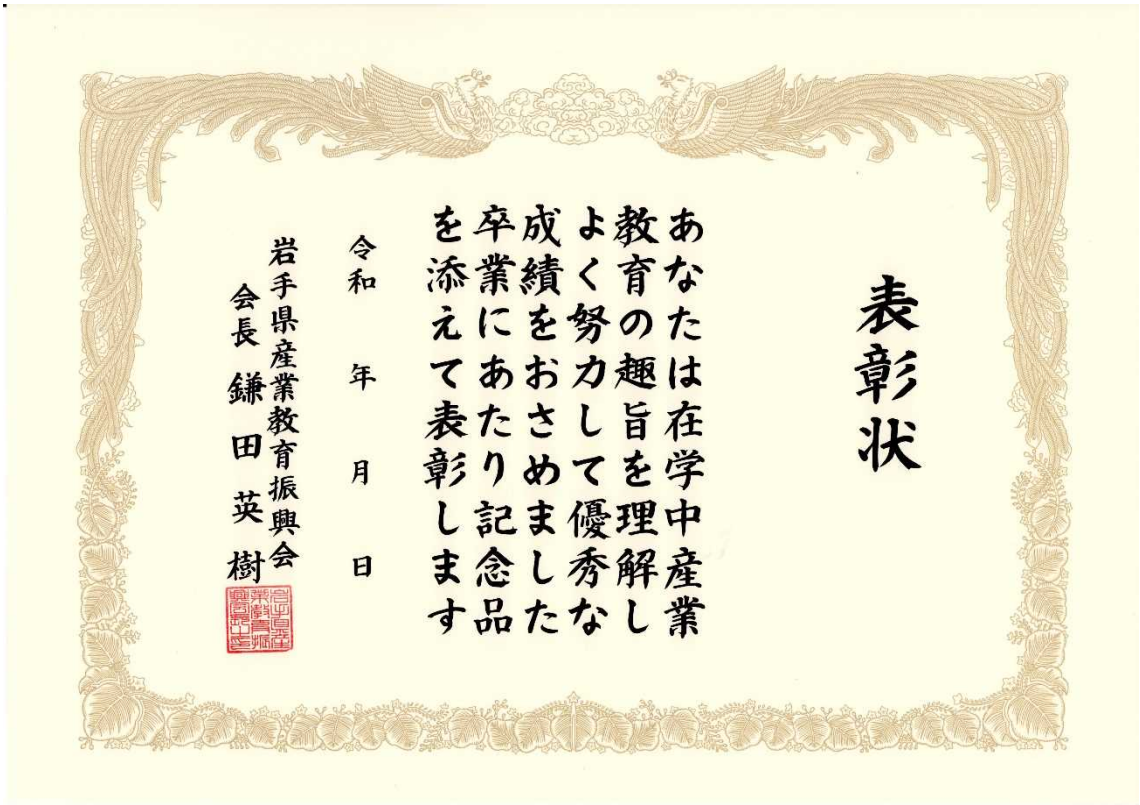
表彰状

あなたは在学中産業教育の趣旨を
理解しその習得によく努め特に
優秀な成績を収められました
ここに卒業にあたり本会御下賜金
記念優秀卒業生として表彰します

令和　年　月　日

公益財団法人産業教育振興中央会
会長　浦野光人

産業教育振興中央会　御下賜金記念優良卒業生表彰



表彰状

あなたは在学中産業
教育の趣旨を理解し
よく努力して優秀な
成績をおさめました
卒業にあたり記念品
を添えて表彰します

令和　年　月　日

岩手県産業教育振興会
会長　鎌田英樹

岩手県産業教育振興会　優良卒業生表彰

令和元年度　岩手県産業教育振興会　支援対象校・支援対象生徒一覧

No	学校名	大学科	学科･学系･コース	１年	２年	３年	小計	合計	専門定員
1	盛岡農業高等学校	農業	動物科学科	39	41	40	120	590	600
			植物科学科	34	40	40	114		
			食品科学科	42	42	41	125		
			人間科学科	36	40	37	113		
			環境科学科	35	41	42	118		
2	盛岡工業高等学校	工業	機械科	40	40	40	120	800	840
			電子機械科	36	40	39	115		
			電気科	40	39	39	118		
			電子情報科	41	39	38	118		
			土木科	37	40	39	116		
			工業化学科	24	38	36	98		
			建築・デザイン科	38	40	37	115		
	盛岡工業高等学校　定時制		工業科	8	8	6	22	22	40
3	盛岡商業高等学校	商業	流通ビジネス科	82	80	82	244	733	720
			会計ビジネス科	83	80	82	245		
			情報ビジネス科	82	82	80	244		
4	平舘高等学校	家庭	家政科学科	12	23	15	50	50	120
5	紫波総合高等学校	総合	総合学科		90	79	169	169	
6	花巻農業高等学校	農業	生物科学科	42	40	40	122	349	360
			環境科学科	41	31	38	110		
			食農科学科	39	39	39	117		
7	花北青雲高等学校	工業	情報工学科	41	30	41	112	471	480
		商業	ビジネス情報科	84	69	82	235		
		家庭	総合生活科	41	42	41	124		
8	遠野緑峰高等学校	農業	生産技術科	35	30	28	93	148	240
		商業	情報処理科	23	19	13	55		
9	北上翔南高等学校	総合	総合学科		68	63	131	131	
10	黒沢尻工業高等学校	工業	機械科	38	40	38	116	683	720 専攻科の除く
			電気科	40	31	40	111		
			電子科	25	40	39	104		
			電子機械科	40	38	39	117		
			土木科	35	40	39	114		
			材料技術科	32	32	37	101		
			専攻科	11	9		20		

令和元年度　岩手県産業教育振興会　支援対象校・支援対象生徒一覧

No	学校名	大学科	学科･学系･コース	１年	２年	３年	小計	合計	専門定員
11	水沢農業高等学校	農業	農業科学科	28	32	28	88	160	280
			環境工学科			14	14		
			生活科学科			15	15		
			食品科学科	26	17		43		
12	水沢工業高等学校	工業	機械科	35	40	35	110	444	480
			電気科	40	37	26	103		
			設備システム科	40	40	33	113		
			インテリア科	40	40	38	118		
13	水沢商業高等学校	商業	商業科	36	27	39	102	322	360
			会計ビジネス科	25	38	40	103		
			情報システム科	40	38	39	117		
14	岩谷堂高等学校	総合	総合学科		77	73	150	150	
15	一関第二高等学校	総合	総合学科		68	48	116	116	
16	一関工業高等学校	工業	電気科	24	36	27	87	387	480
			電子科	32	39	28	99		
			電子機械科	40	36	31	107		
			土木科	29	37	28	94		
17	大東高等学校	商業	情報ビジネス科	21	21	24	66	66	120
18	千厩高等学校	農業	生産技術科	40	38	38	116	202	240
		工業	産業技術科	22	31	33	86		
19	高田高等学校	水産	海洋システム科	6	9	12	27	27	120
20	大船渡東高等学校	農業	農芸科学科	18	27	21	66	345	560
		工業	機械科		22	15	37		
			電気電子科		9	18	27		
			機械電気科	40			40		
		商業	情報処理科	17	40	26	83		
		家庭	食物文化科	22	32	38	92		
21	釜石商工高等学校	工業	機械科	32	29	29	90	301	440
			電気電子科	29	23	6	58		
			電子機械科			22	22		
		商業	総合情報科	38	37	56	131		
22	宮古工業高等学校	工業	機械科	18	22	28	68	183	360
			電気電子科	27	19	16	62		
			建築設備科	23	13	17	53		

令和元年度　岩手県産業教育振興会　支援対象校・支援対象生徒一覧

No	学校名	大学科	学科･学系･コース	１年	２年	３年	小計	合計	専門定員
23	宮古商業高等学校	商業	商業科	40	40	36	116	392	480
			会計科	16	21	26	63		
			流通経済科	29	39	38	106		
			情報科	37	32	38	107		
24	宮古水産高等学校	水産	海洋生産科	14			14	181	320 専攻科を除く
			海洋技術科		17	19	36		
			食品家政科		16	20	36		
		家庭	食物科	32	27	36	95		
25	久慈東高等学校	総合	総合学科		153	164	317	317	
26	久慈工業高等学校	工業	電子機械科	14	16	18	48	113	240
			建設環境科	19	24	22	65		
27	種市高等学校	工業	海洋開発科	30	24	29	83	83	120
28	福岡工業高等学校	工業	機械システム	28	30	21	79	143	240
			電気情報システム	20	16	28	64		
29	一戸高等学校	総合	総合学科		62	77	139	139	
30	盛岡市立高等学校	商業	商業科	83	83	81	247	247	240
31	岩手女子高等学校	看護	看護科	49	47	53	149	194	
		福祉	福祉教養科	12	21	12	45		
32	江南義塾高等学校	商業	情報処理科	6	9	10	25	25	
33	盛岡誠桜高等学校	商業	商業科		43	41	84	194	
		家庭	家政科		30	28	58		
			食物調理科		25	27	52		
34	盛岡スコーレ高等学校	総合	総合学科		33	25	58	58	
35	専修大学北上高等学校	商業	商業科	75	58	71	204	307	
		工業	自動車科	24	38	41	103		
36	水沢第一高等学校	家庭	調理科	34	28	37	99	99	
37	一関修紅高等学校	家庭	生活教養科			10	10	10	
38	一関学院高等学校	普通							
38校			令和元年度合計	2,626	3,347	3,378	9,351	9,351	
			平成30年度合計	2,765	3,444	3,482	9,691	9,691	
			比較	-139	-97	-104	-340	-340	

岩手県産業教育振興会
令和元年度
事業活動報告書

令和２年３月２３日発行

発行者：岩手県産業教育振興会
事務局：〒020-0841
岩手県盛岡市羽場１８－１１－１
岩手県立盛岡工業高等学校内
TEL 019-639-7250　FAX 019-656-0677
E-mail e-info@sanshin-iwate.jp
ＵＲＬ https://www/sanshin-iwate.jp/